

平成 26 年度 業務実績報告書

(第 2 期中期計画・第 1 事業年度)

平成 27 年 6 月



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

目 次

I 機構の概要 (平成26年4月1日現在)

1	名 称	1
2	所 在 地	1
3	法人の設立年月日	1
4	設 立 団 体	1
5	目 的	1
6	業 務	1
7	資本金の額	1
8	代表者の役職氏名	1
9	役 員	2
10	組 織 図	2
11	法人が運営する病院の概要	3

II 当該事業年度における業務実績報告

1	対 象 期 間	5
2	業務実績全般	5
	(1) 機構全体	5
	(2) 総合病院	15
	(3) こころの医療センター	16
	(4) こども病院	17
3	県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置	18
	(1) 医療の提供	18
	(2) 医療に関する技術者(医師・看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	22
	(3) 医療に関する調査及び研究	23
	(4) 医療に関する地域への支援	25
	(5) 災害等における医療救護	26
4	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	26
	(1) 簡素で効率的な組織づくり	26
	(2) 効率的な業務運営の実現	26
	(3) 事務部門の専門性の向上	27
	(4) 業務改善に普段に取り組む組織風土の醸成	27
5	項目別実績	28
	(参考) 用語解説	55

【数値の表記方法について】

この報告書内の数値は表示単位未満を四捨五入のため、各項目の和と総計が一致しない場合がある。



静岡県立総合病院

 地方独立行政法人 静岡県立病院機構

Shizuoka Prefectural Hospital Organization

ともにつくる 信頼と安心の医療

この地方独立行政法人は、静岡県における保健医療施策として求められる高度又は特殊な医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与することを目的とする



静岡県立こころの医療センター



静岡県立こども病院

I 機構の概要 (平成26年4月1日現在)

1 名称

地方独立行政法人静岡県立病院機構

2 所在地

静岡市葵区北安東四丁目27番1号

3 法人の設立年月日

平成21年4月1日

4 設立団体

静岡県

5 目的

静岡県における保健医療施策として求められる高度又は特殊な医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与する。

6 業務

(1) 病院の名称及び所在地

名 称	所 在 地
静岡県立総合病院	静岡市葵区北安東
静岡県立こころの医療センター	静岡市葵区与一
静岡県立こども病院	静岡市葵区漆山

(2) 業務の範囲

- ・医療を提供すること。
- ・医療に関する調査及び研究を行うこと。
- ・医療に関する技術者の研修を行うこと。
- ・医療に関する地域への支援を行うこと。
- ・災害等における医療救護を行うこと。
- ・及び上記の附帯業務。

7 資本金の額

6,822,733,469円

8 代表者の役職氏名

理事長 田 中 一 成

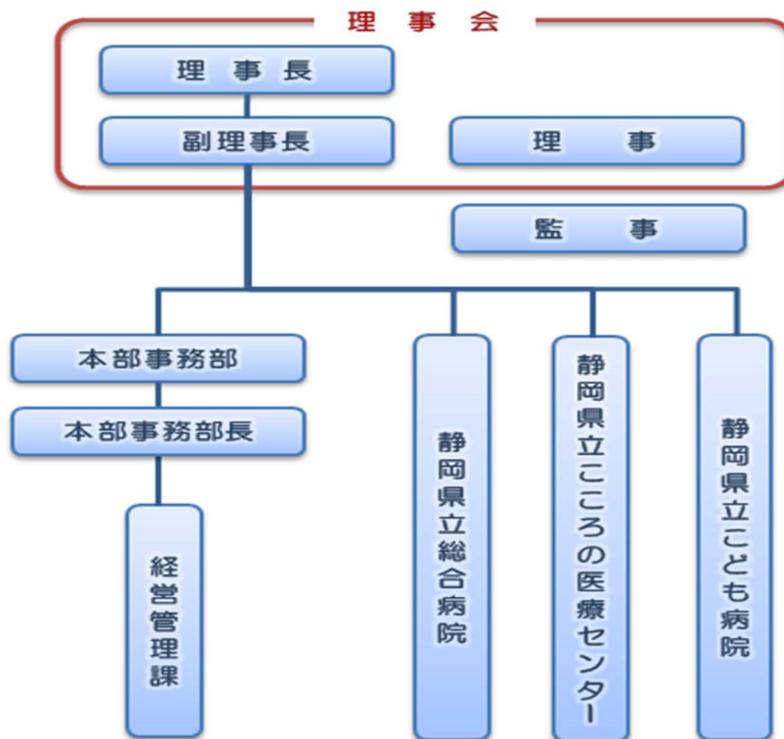
9 役員

役員名	区分	氏名
理事長	常勤	田中一成
副理事長	常勤	杉山嘉章
理事	常勤	村上直人
理事	常勤	瀬戸嗣郎
理事	非常勤	古田里恵
理事	非常勤	櫻井透
理事	非常勤	椎名正樹
理事	非常勤	星野希代絵
監事	非常勤	小池賢
監事	非常勤	鈴木素子

(新任 平成26年4月1日)

(定款に定めた定数 理事長1名・副理事長1名・理事7名以内・監事2名)

10 組織図



○ 全職員数 (平成26年4月1日現在、現員、正規+有期)

医師※	378名
看護師	1,307名
コメディカル	351名
事務	393名
計	2,429名

※医師には歯科医師5名、自治医大初期研修医4名、有期職員医師143名を含む。

※職員の増減状況は、14ページ参照

11 法人が運営する病院の概要

(1) 病院の名称・所在地等

区分	地方独立行政法人 静岡県立病院機構		
病院名	総合病院	こころの医療センター	こども病院
所在地	静岡市葵区北安東 4丁目27-1	静岡市葵区与一 4丁目1-1	静岡市葵区漆山 860 番地
開設年月日	昭和58年2月1日	昭和31年11月1日	昭和52年4月1日
診療科 (医療法)	内科、救急科、心療内科、精神科、循環器内科、心臓血管外科、腎臓内科、泌尿器科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、脳神経外科、消化器内科、外科、呼吸器内科、呼吸器外科、産婦人科、乳腺外科、小児科、整形外科、リハビリテーション科、心臓リハビリテーション科、眼科、頭頸部・耳鼻いんこう科、血液内科、皮膚科、形成外科、歯科口腔外科、麻酔科、放射線科、病理診断科、腫瘍内科	精神科、内科、外科、歯科	小児科、小児救急科、新生児小児科、血液・腫瘍内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、アレルギー科、神経内科、循環器内科、皮膚科、小児外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、耳鼻いんこう科、泌尿器科、眼科、歯科、麻酔科、放射線科、産科、精神科、児童精神科、臨床検査科
	31科	4科	25科
許可病床数 (26年度)	一般 620床 結核 100床 (稼働 50床)	精神 280床 (稼働 180床)	一般 243床 (稼働 233床) 精神 36床
年間延患者数 (H26実績)	入院 212,105人 外来 411,582人	入院 54,735人 外来 40,336人	入院 77,777人 外来 101,770人
理念	信頼し安心できる質の高い全人的医療を行います	安全・良質・優しいこころの医療を、いつでもどこでも誰にでも	私たちは、すべての子どもと家族のために、安心と信頼の医療を行います。 (平成26年10月改定)
備考	昭和23年6月 中央病院 昭和33年3月 富士見病院	「養心荘」 平成9年4月1日名称変更	

※昭和39年4月1日 中央病院、富士見病院、養心荘の3病院で病院事業会計開始。

(2) 施設状況

区分	病棟	許可 病床数	内 容	
総 合	本 館	3 A	12	ハイケアユニット(HCU)
		3 B	37	小児科、頭頸部・耳鼻いんこう科、総合診療科
		3 D	49	産婦人科、小児科(新生児)、消化器内科
		4 A	44	整形外科、外科、腎臓内科
		4 B	47	腎臓内科、泌尿器科、糖尿病・内分泌内科
		4 D	42	血液内科、眼科、腎臓内科
		5 A	46	外科、泌尿器科、歯科口腔外科
		5 B	46	消化器内科、腫瘍内科
		6 A	50	結核(休棟)
		6 B	50	結核
		6 C	49	呼吸器内科
	6 D	39	呼吸器内科、呼吸器外科、消化器内科、放射線科	
	北 館	3 E	42	整形外科、神経内科
		4 E	34	外科、乳腺外科、形成外科、皮膚科
		5 E	19	緩和医療科
	セ ン タ ー 循 環 器 病	1 G	8	救急科
3 G		10	集中治療室(ICU、CCU)	
4 G		47	循環器内科、心臓血管外科	
5 G		49	神経内科、脳神経外科	
計		720	(稼働 670 床)	
こ こ ろ	北 1	42	医療観察法 12 床、慢性重症 30 床	
	北 2	45	救急	
	北 3	50	(休棟)	
	南 1	50	回復期	
	南 2	43	救急	
	南 3	50	(休棟)	
	計	280	(稼働 180 床)	
こ ど も	北 2	36	新生児未熟児	
	北 3	31	内科系乳幼児	
	北 4	28	感染観察	
	北 5	28	内科系幼児学童	
	西 2・MF ICU	24	産科、MF ICU	
	西 3・CCU	36	循環器科、CCU (H26.9 から稼働病床 34 床→36 床)	
	P ICU	12	P ICU	
	西 6	48	外科系 (H26.9 から稼働病床 45 床→48 床)	
	東 2	36	こころの診療科	
	計	279	(稼働 269 床)	

II 当該事業年度における業務実績報告

1 対象期間

平成26年4月1日から平成27年3月31日までの1年間
(中期計画の期間 平成26年4月1日から平成31年3月31日までの5年間)

2 業務実績全般

(1) 機構全体

ア 総括

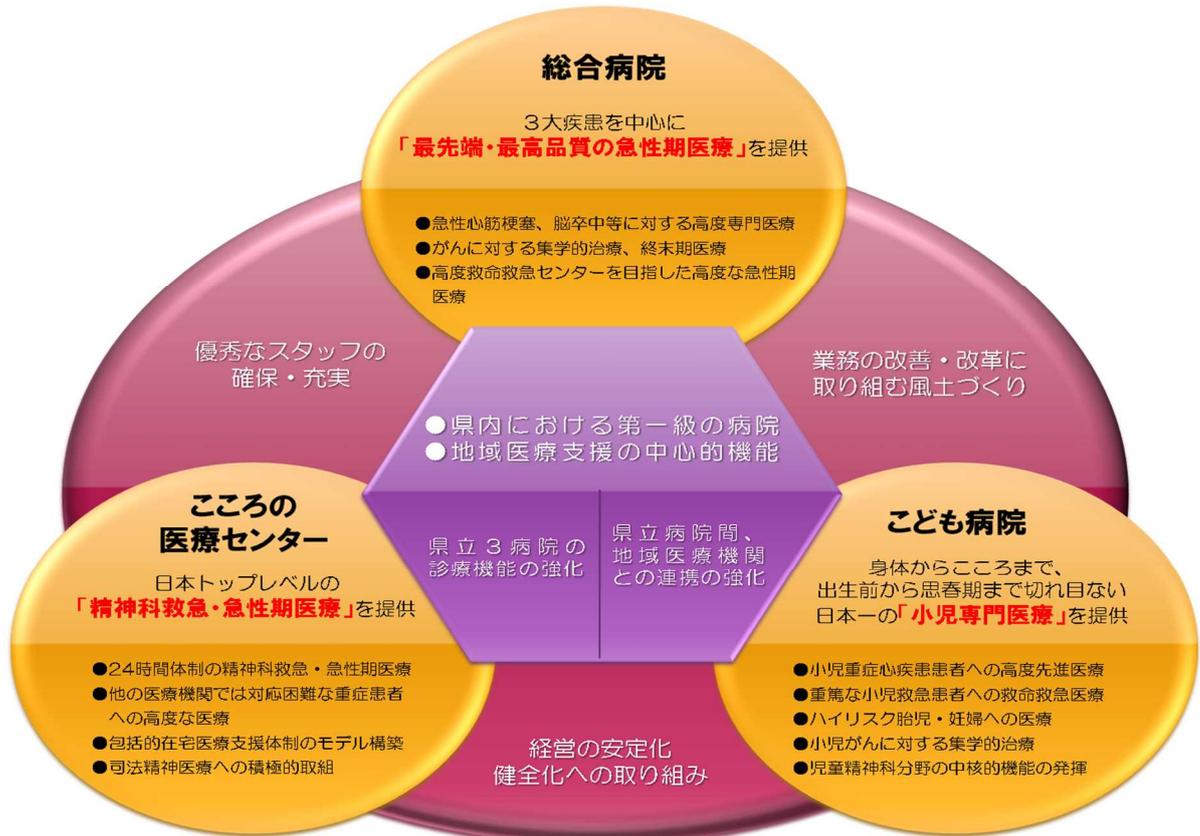
静岡県立病院機構は、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等の分野において第一級の病院であること及び地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、地方独立行政法人の特徴である機動性や効率性等を発揮した病院経営に取り組んでいる。

法人化6年目となる26年度の経営状況(3病院計)は、入院では、延患者数、単価ともにこころの医療センターが年度計画(以下「計画」)を上回ったものの、他の2病院では計画を下回った。また、外来では、延患者数が総合病院とこころの医療センターで計画を上回り、単価はこころの医療センターとこども病院で計画を上回った。

収支は、経常収支が1,182百万円(経常収支比率103.0%)、総収支が506百万円で、法人化後6年連続で黒字決算を達成した。

引き続き、本機構は、医療の質を高め、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等に積極的に取り組み、医療面では充実した質の高い医療を提供し、経営面では機動的で効率的な病院経営を推進し、本県の医療の確保と向上に貢献していく。

県立病院機構が目指す病院像



イ 業務実績

(ア) 入院診療

- ・ 総合病院は、消化器内科や神経内科等の患者数の減少により年度計画（以下「計画」）を下回る延患者数（▲3,630人）となり、患者1人1日当たり入院単価（以下、入院単価：入院収益÷年延入院患者数）も計画を下回った（▲162円）結果、計画と比べると収入は減少した。
- ・ こころの医療センターは、年度計画を上回る延患者数となり（+363人）、入院単価についても計画を上回った（+315円）。
- ・ こども病院は、延患者数は計画を下回り（▲3,261人）、入院単価も計画を下回った（▲2,247円）ことから、計画と比べると収益は減少した。

(イ) 外来診療

- ・ 総合病院は、延患者数は計画を上回り（+4,115人）、患者1人1日当たり外来単価（以下、外来単価：外来収益÷年延外来患者数）は計画を下回った（▲57円）。次頁参考資料のとおり、市内の一般病院は減少傾向にあるが、総合病院は増加傾向にあり、外来患者数は総合病院の外来のキャパシティを超過気味なので、逆紹介を積極的に推進しているところである。
- ・ こころの医療センターは、計画を上回る延患者数となり（+103人）であり、外来単価についても計画を若干上回った（+33円）。
- ・ こども病院は、延患者数は計画を下回ったが（▲3,464人）、外来単価は計画を上回った（+1,375円）。この結果、計画と比べると収益は増加した。

○ 平成26年度 業務量及び業務実績（税込）

区 分		総 合	こころ	こども
入 院	入院延患者数(人)	212,105 (215,735)	54,735 (54,372)	77,777 (81,038)
	新入院患者数(人)	15,670	461	4,794
	病床利用率(%)	一般90.4 (一般91.8)	稼働83.3 (稼働82.8)	79.8 (83.2)
	入院患者1人 1日当たり単価(円)	69,681 (69,843)	25,009 (24,694)	88,915 (91,162)
外 来	外来延患者数(人)	411,582 (407,467)	40,336 (40,233)	101,770 (105,234)
	外来初診患者数(人)	23,009	940	8,380
	外来患者1人 1日当たり単価(円)	17,378 (17,435)	6,001 (5,968)	15,633 (14,258)

※（ ）書きは、年度計画数値を示す。

※患者1人1日当たり単価は税込金額（調定額ベースで算定）。

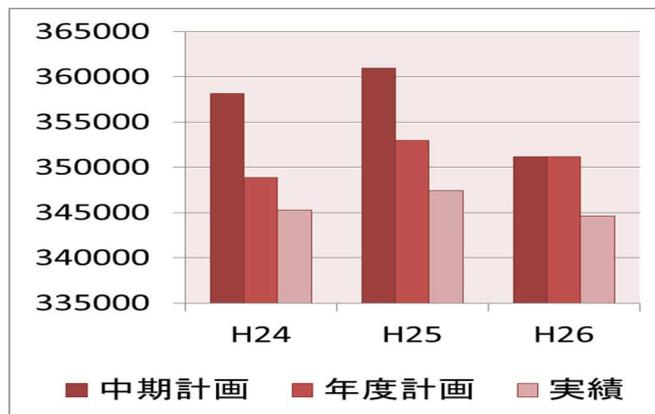
※病床利用率は、総合620床、こころ180床、こども264床(4月～8月)、269床(9月～3月)で算定。

<参考資料>

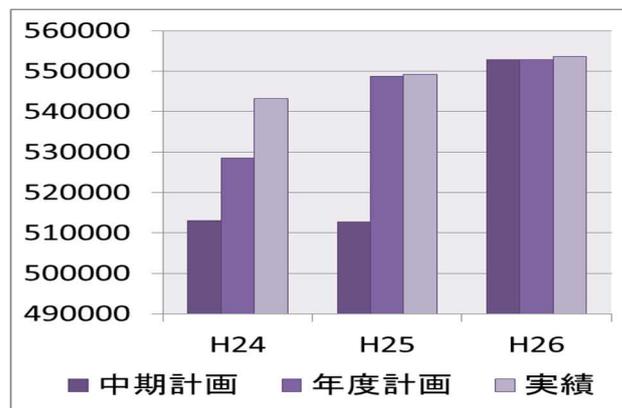
○患者数の推移 (24年度実績～26年度実績)

(単位：人)

入院延患者数 (3病院計)



外来延患者数 (3病院計)



・26年度は入院延患者数が中期計画・年度計画を下回るものの、外来延患者数は中期計画・年度計画を上回った。

○市内公的病院患者動向 (月平均延患者数：H26.4～H27.3－H25.4～H26.3 比較)

(単位：人、%)

区分	総合 ①	こころ ②	こども ③	てんかん ④	市立静岡 ⑤	赤十字 ⑥	済生会 ⑦	静岡厚生 ⑧	市立清水 ⑨	桜ヶ丘 ⑩	清水厚生 ⑪	⑤～⑪小計	①～⑪合計	
入院	H26	17,675	4,561	6,481	10,218	14,441	11,469	13,200	5,551	10,553	2,635	2,170	60,018	98,954
	H25	17,901	4,538	6,511	10,579	14,309	11,325	13,244	5,202	11,198	3,071	1,687	60,035	99,564
	差	▲226	23	▲30	▲361	132	144	▲44	349	▲645	▲436	483	▲17	▲610
	率	▲1.3	0.5	▲0.5	▲3.4	0.9	1.3	▲0.3	6.7	▲5.8	▲14.2	28.6	▲0.0	▲0.6
外来	H26	34,299	3,361	8,481	2,810	23,577	18,727	18,967	7,928	16,294	6,718	6,151	98,361	147,311
	H25	33,894	3,429	8,442	2,809	23,183	19,138	19,041	8,436	18,833	6,936	6,227	101,794	150,368
	差	405	▲68	39	1	394	▲411	▲74	▲508	▲2,539	▲218	▲76	▲3,433	▲3,057
	率	1.2	▲2.0	▲0.5	0.0	1.7	▲2.1	▲0.4	▲6.0	▲13.5	▲3.1	▲1.2	▲3.4	▲2.0

・入院延患者、外来延患者ともに市内全体では減少傾向にある中で、入院延患者数はこころの医療センターで増加しており、外来患者数総合病院とこども病院が増加した。静岡てんかん・神経医療センターも含めた国立及び県立病院の患者数が全体に占める割合においても、入院は前年並み、外来は増加傾向にある。(入院 H25:40.0% → H26:39.9%、外来 H25:31.8% → H26:32.9%)

市内公的病院月平均患者増減数(H26.4～H27.3－H25.4～H26.3) 単位：人



(ウ) 平成26年度収支実績(税込)

① 収益的収支(税込)

(単位:千円)

区分	款	項	最終予算額 (年度計画)	決算額 (実績)	増減額 (達成度)	決算額 (前年度)	増減額 (前年比)
収益	営業 収益	医業収益	33,650,744	32,650,810	▲999,934	31,437,580	1,213,230
		運営費負担金収益	6,768,408	6,772,058	3,650	7,054,048	▲281,990
		資産見返負債戻入	179,215	177,654	▲1,561	180,661	▲3,007
		その他営業収益	225,441	230,399	4,958	166,169	64,230
		小計	40,823,808	39,830,921	▲992,887	38,838,457	992,462
	営業外 収益	運営費負担金収益	231,592	227,942	▲3,650	245,952	▲18,010
		その他営業外収益	424,950	254,525	▲170,425	416,597	▲162,072
		小計	656,542	482,467	174,075	662,549	▲180,082
	臨時利益	臨時利益	0	98,264	98,264	0	98,264
	計		41,480,350	40,411,652	▲1,068,698	39,501,006	910,644
費用	営業 費用	医業費用	39,202,698	38,223,204	▲979,494	35,720,977	2,502,227
		一般管理費	405,060	318,262	▲86,798	346,854	▲28,592
		小計	39,607,758	38,541,466	▲1,066,292	36,067,831	2,473,635
	営業外 費用	財務費用	405,510	389,783	▲15,727	419,933	▲30,150
		その他営業外費用	218,977	202,524	▲18,453	209,591	▲9,067
		小計	624,487	590,307	▲34,180	629,524	▲39,217
	臨時損失	臨時損失	765,649	774,149	8,500	57,598	716,551
	計		40,997,894	39,905,922	▲1,091,972	36,754,953	3,150,969
総収支		482,456	505,730	23,274	2,746,053	▲2,240,325	
経常収支		1,248,105	1,181,615	▲66,490	2,803,651	▲1,622,038	

※単位未満四捨五入のため各項目の和と総計が一致しない場合がある(以下同様)。

- ・ 総収支は、505,730千円の利益となり、計画よりも23,274千円上回った。
- ・ 経常収支は、1,181,615千円の経常利益となり、年度計画よりも66,490千円下回ったが、経常収支比率100%以上(103.0%)を達成した。
- ・ 医業収益は、外来の患者数、単価ともに計画を上回ったが、入院が延患者数、単価ともに計画を下回ったため、計画よりも収入が下回った。(▲999,934千円)
- ・ 医業費用は、材料費(計画比▲35,582千円)及び給与費(計画比▲271,385千円)が計画を下回ったため、年度計画よりも支出が抑えられた(▲979,494千円)。

② 資本的収支(税込)

(単位:千円)

区分	款	項	最終予算額 (年度計画)	決算額 (実績)	増減額 (達成度)	決算額 (前年度)	増減額 (前年比)
収入	資本 収入	長期借入金	5,074,000	2,937,000	▲2,137,000	1,300,000	1,637,000
		長期貸付金回収額	0	10,100	10,100	4,600	5,500
		その他収入	9,315	232	▲9,083	14,395	▲14,163
		計	5,083,315	2,947,332	▲2,135,983	1,318,995	1,628,337
支出	資本 支出	建設改良費	5,389,636	3,194,385	▲2,195,251	1,759,965	1,434,420
		償還金	2,480,000	2,479,996	▲4	2,528,103	▲48,107
		長期貸付金	111,800	91,610	▲20,190	73,400	18,210
		計	7,981,436	5,765,991	▲2,215,445	4,361,468	1,404,523
総収支		▲2,898,121	▲2,818,659	79,462	▲3,042,473	223,814	

(エ) 病院別収支実績

① 収益的収支 (税込)

(単位：千円)

款	項	総合	こころ	こども	本部	法人計
営業収益	医業収益	22,461,660	1,618,743	8,570,407	—	32,650,810
	運営費負担金収益	2,394,068	1,081,807	3,296,183	—	6,772,058
	資産見返負債戻入	110,524	28,434	38,696	—	177,654
	その他営業収益	110,206	17,662	91,133	11,398	230,399
	小計	25,076,458	2,746,646	11,996,419	11,398	39,830,921
営業外収益	運営費負担金収益	93,461	50,597	83,884	—	227,942
	その他営業外収益	197,719	6,079	50,677	50	254,525
	小計	291,180	56,676	134,561	50	482,467
臨時利益	臨時利益	98,179	72	2	11	98,264
収益計 (予算額※<年度計画> (増減額)		25,465,817 (25,988,675) (▲522,858)	2,803,394 (2,818,015) (▲14,621)	12,130,982 (12,655,160) (▲524,178)	11,459 (18,500) (▲7,041)	40,411,652 (41,480,350) (1,068,698)
営業費用	医業費用	24,391,568	2,360,805	11,470,831	0	38,223,204
	一般管理費	—	—	—	318,262	318,262
	小計	24,391,568	2,360,805	11,470,831	318,262	38,541,466
営業外費用	財務費用	163,353	76,587	149,843	0	389,783
	その他営業外費用	135,449	5,943	57,986	1,146	202,524
	小計	298,802	82,530	207,829	1,146	590,307
臨時損失	臨時損失	674,067	4,652	95,430	0	774,149
費用計 (予算額※<年度計画> (増減額)		25,364,437 (25,733,826) (▲369,389)	2,447,987 (2,576,758) (▲128,771)	11,774,090 (12,253,907) (▲479,817)	319,408 (433,403) (▲113,995)	39,905,922 (40,997,894) (▲1,091,972)
総収支 (予算額※<年度計画> (増減額)		101,380 (254,849) (▲153,469)	355,407 (241,257) (114,150)	356,892 (401,253) (▲44,361)	▲307,949 (▲414,903) (106,954)	505,730 (482,456) (23,274)
経常収支 (予算額※<年度計画> (増減額)		677,268 (609,734) (67,534)	359,987 (275,817) (84,170)	452,320 (474,964) (▲22,644)	▲307,960 (▲112,410) (▲195,550)	1,181,615 (1,248,105) (▲66,490)

- 総合病院の総収支は、101,380千円の利益となり、年度計画を153,469千円下回った。これは、経費の減等により費用が計画を下回り、外来延患者数と外来収益が計画を上回ったものの、入院延患者数と入院収益が計画を下回ったことが主な要因である。
- こころの医療センターの総収支は、355,407千円の利益となり、年度計画よりも114,150千円上回った。これは、収益が計画を14,621千円下回ったものの、費用が材料費、経費の減等により、計画を128,771千円下回ったことが主な要因である。
- こども病院の総収支は、356,892千円の利益となり、年度計画よりも44,361千円下回った。これは、稼働病床を増やすための医師、看護師の増員が収益と結びつかなかったこと等により、診療収益が計画を下回ったことが主な要因である。

② 資本的収支 (税込)

(単位：千円)

款	項	総合	こころ	こども	本部	法人計
資本 収入	長期借入金	1,920,000	187,000	830,000	0	2,937,000
	長期貸付金回収額	—	—	—	10,100	10,100
	その他収入	232	0	0	0	232
	計	1,920,232	187,000	830,000	10,100	2,947,332
資本 支出	建設改良費	2,040,260	190,121	964,004	0	3,194,385
	償還金	1,198,199	435,106	846,691	0	2,479,996
	長期貸付金	0	0	0	91,610	91,610
	計	3,238,459	625,227	1,810,695	91,610	5,765,991
総	収 支	▲1,318,227	▲438,227	▲980,695	▲81,510	▲2,818,659

- 26年度の建設改良費は、3,194,385千円で、その内訳は、3病院の器械備品等資産購入が1,408,499千円、また、建設改良工事が1,785,886千円となった。主な医療機器では、総合病院が循環器関連の患者・治療情報を一括管理する循環器統合ネットワークシステムを整備し、施設整備では、総合病院で本館地階改修工事、こども病院で外来棟増築工事等を実施した。
また、長期貸付金90,000千円は、24年度から看護師確保対策として当機構に就職を希望する看護学生に対して修学資金の貸付を行ったものである(10,100千円返還あり)。

(オ) 決算指標 <3病院計> (税込)

区 分	項 目	H26 実績 a	H25 実績 b	増 減 a-b
収 支 構 造	経常収支比率 (%)	103.0	107.6	▲4.6
	医業収支比率 (%)	85.4	88.0	▲2.6
	実質収益対経常費用比率 (%)	85.1	87.7	▲2.6
収 入 構 造	病床利用率 (%)【許可病床】	73.8	74.4	▲0.6
	入院患者1人1日当たり単価 (円)	66,927	64,174	2,753
	外来患者1人1日当たり単価 (円)	16,228	15,660	568
費 用 構 造	職員給与比率 (%)	58.7	57.2	1.5
	材料費比率 (%)	31.2	30.0	1.2

※患者1人1日当たり単価は、調定額ベースで算定。病床利用率は、3病院の許可病床数で算定。

- 収支構造の各指標は、経常収支比率が中期計画の数値目標である100%を上回る103.0%となり、前年比は4.6ポイントの減であり、運営費負担金を除いた営業成績を示す医業収支比率、実質収益対経常費用比率ともに前年度を下回った。
- 収入構造では、平成22年及び平成24年の診療報酬プラス改定の好調を継続しており、入院患者1人1日当たり単価は前年比2,753円の単価アップとなった。
- 費用構造では、職員給与比率が人員増や給与改定等の影響で前年比1.5ポイント増、材料費比率は前年比1.2ポイント増と悪化した。

【収支構造】

- ・ 経常収支比率 $\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$
病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するための指標で、適正な区分負担を前提として100%以上が望ましい。
- ・ 医業収支比率 $\text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$
医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標で、100%以上が望ましい。
- ・ 実質収益対経常費用比率 $(\text{経常収益} - \text{運営費負担金}) \div \text{経常費用} \times 100$
経常費用が経常収益から運営費負担金を引いた実質収益によって、どの程度賄われているかを示す指標。

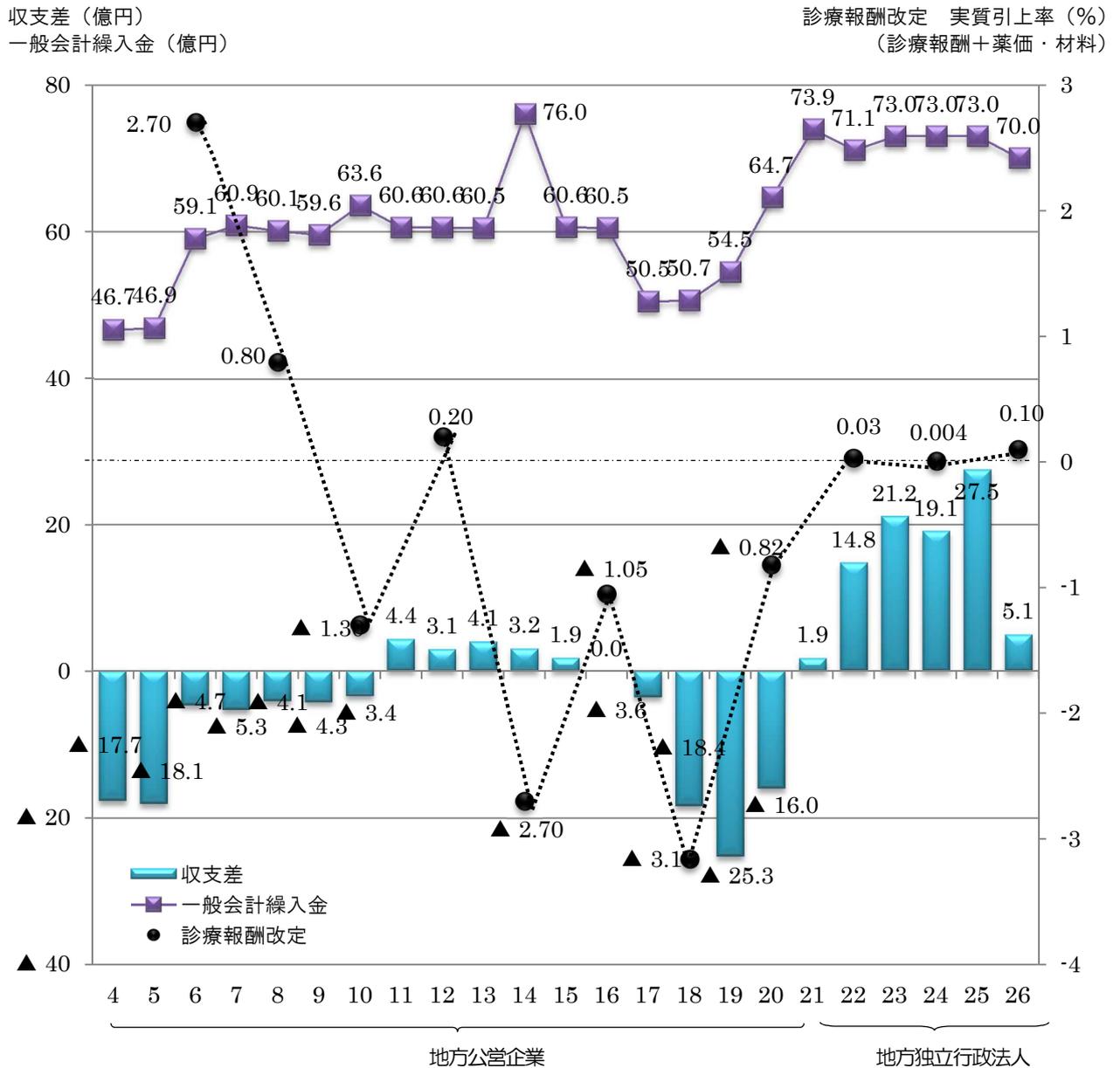
【収入構造】

- ・ 病床利用率 $\text{年間延入院患者数} \div \text{年延病床数 (許可病床} \times \text{歴日数)} \times 100$
病院の施設が有効に活用されているか判断する指標である。
- ・ 入院患者1人1日当たり単価 $\text{入院収益} \div \text{年延入院患者数}$
- ・ 外来患者1人1日当たり単価 $\text{外来収益} \div \text{年延外来患者数}$
病院の収入分析をするうえで基本的な指標。収入を増加させるため、患者数(量的要素)と1人当たりの収入(質的要素)が重要となる。

【費用構造】

- ・ 職員給与比率(職員給与費対医業収益比率) $\text{職員給与費} \div \text{医業収益} \times 100$
病院の職員数等が適正であるか判断する指標。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営の重要なポイントである。
- ・ 材料費比率(材料費対医業収益比率) $\text{材料費} \div \text{医業収益} \times 100$
この比率が高い場合、材料費の購入価格(方法)を見直し、材料費の削減を図る必要がある。(薬品・診療材料・その他)

(カ) 決算状況の推移 (収支と繰入金(県負担金)・診療報酬の改定) (3病院計)



- ※ 平成14年度の一般会計繰入金75.98億円には、がんセンター開院準備経費分15.44億円を含む。
- ※ 平成17年度から平成19年度までは繰入金10億円を抑制(県財政事情を勘案)。
- ※ 平成21年度から地方独立行政法人へ移行したため、一般会計繰入金は運営費負担金に名称変更。
- ※ 平成22年度の診療報酬改定率は政府発表の+0.19%の後、薬価部分に追加された後発品のある先発品の価格引下げ分▲0.16%を加味して実質的な改定率を+0.03%とした。
- ※ 平成24年度の診療報酬改定率は薬価部分を市場価格の下落を反映して1.375%引き下げる一方、医師の診療行為や入院料などの本体部分は1.379%引き上げた結果、実質的な改定率は+0.004%となった。
- ※ 平成26年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定を0.63%引き下げる一方、本体部分を0.73%引き上げた結果、全体改定率は+0.10%となった。

(キ) 職員の状況 (各年度4月1日現在)

① 正規職員

(単位：人)

区分	総合		こころ		こども		本部		計	
	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26
医師	123	123	12	13	91	90	-	-	226	226
歯科医師	1	3	-	1	1	1	-	-	2	5
看護師	646	654	113	114	419	452	1	1	1,179	1,221
看護師	642	650	110	112	418	451	1	1	1,171	1,214
准看護師	4	4	3	2	1	1	-	-	8	7
医療技術	184	196	24	26	80	81	1	1	289	304
事務	38	41	13	13	28	28	26	27	105	109
計	992	1,017	162	167	619	652	28	29	1,801	1,865

② 有期職員

(単位：人)

区分	総合		こころ		こども		本部		計	
	H25	H26								
医師	76	88	4	-	50	53	-	-	130	141
歯科医師	1	-	-	-	-	-	-	-	1	0
看護師	47	59	12	15	15	12	-	-	74	86
看護師	44	57	10	12	14	11	-	-	68	80
准看護師	3	2	2	3	1	1	-	-	6	6
医療技術	27	25	4	4	15	15	-	-	46	44
事務	48	107	8	9	49	50	7	7	112	173
補助職員	68	80	13	11	23	19	1	1	105	111
計	267	359	41	39	152	149	8	8	468	555

※補助職員：看護助手、薬剤助手、放射線助手、検査助手等

※短期間特別研修医は含まない。

(ク) 平成27年度職員の採用状況 (H26採用試験(定時募集)実施状況) (H27.3末現在)

- ・ ホームページにおける試験概要(受験資格や試験日程など)の掲載を受験案内の公開に先駆けて行い、採用試験実施の周知に努めた。
看護師及び事務職員の採用試験については、学生向けに就職情報を提供する民間事業者が開催する合同就職説明会への参加回数や就職情報サイトへの情報掲載先を増やすなど試験広報の拡充を行った。
看護師就職説明会においては、看護学生を集めるために看板等の作成やノベルティの配布を行った。
なお、看護師については、掲示板ポスターを作成し、県内養成校や関係各所に配布を実施した。
- ・ 看護師の採用については、平成24年度までは、定時募集を年間4回実施していたが、平成25年度からは年間5回実施している。さらに、平成26年度からは随時募集を年7回実施し、毎月、採用試験を実施することで、切れ目のない看護師確保に取り組んでいる。なお、総合病院における看護師採用数が、採用必要数を下回ったことから、平成25年10月より看護師の紹介業者を通じた採用を行っている。しかし、様々な対応を行っているものの、依然として充足には至っていないため、引き続き看護師確保に努めていく必要がある。
- ・ 事務職員の採用については、人物重視の採用選考を実施し、定時募集において8人を確保した。
- ・ 事務職員の経験者募集を行い、情報処理業務について1人、医事業務について2人、電気施設管理業務

について1人を採用した。

- 医療技術者の採用については、5職種（薬剤師、診療放射線技師、理学療法士、臨床工学技士、精神保健福祉士）について定時募集を行った。また、必要数の増加があったため、7職種（薬剤師、臨床検査技師、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカー、臨床工学技士、心理療法士、精神保健福祉士）について、追加募集を実施した。

(単位：人)

区 分	機 構 全 体 (採用内定者数)			H27 採用	
	H26 【H27 採用】	H25 【H26 採用】	増 減 数	募集人数	過不足
看 護 師	108	107	1	150	▲42
事 務	12	9	3	12	0
医 療 技 術	36	27	9	37	▲1
計	156	143	13	199	▲43

※H26 採用の欄は、H25 試験実施によるすべての採用人数（前倒し採用（看護師7、医療技術1）を含む）。

※H27 採用の欄は、H26 試験実施によるすべての採用人数（前倒し採用（看護師8、医療技術1、事務1）を含む。紹介業者からの紹介を除く。）

※医療技術者は、募集後に必要数が増となったため、採用内定者数が募集人数を上回っている。

○ 実働数の推移

(単位：人)

区 分	平成 26 年 4 月 1 日現在			平成 27 年 4 月 1 日現在		
	必要数 a	実働数 b	過不足 b-a	必要数 a	実働数 b	過不足 b-a
医師(正規)	239	235	▲4	241	248	7
看 護 師	1,143	1,137	▲6	1,224	1,174	▲50
医 療 技 術	291	293	2	318	318	0
事 務	110	109	▲1	121	118	▲3
計	1,783	1,774	▲9	1,904	1,858	▲46

※実働数＝現員数－休職者数

(2) 総合病院

<理 念>

「信頼し安心できる質の高い全人的医療を行います」

全人的医療：身体、精神、心理、生活様式などを含めた総合的な視点から、患者さん自身の全体的な健康回復を目指す医療

<基本方針>

- 1 医療を受ける人々の立場に立ち、説明に基づく心のこもった医療を行います。
- 2 県内の中核病院として高度医療や先進的医療に取り組み、地域医療を支援します。
- 3 救急医療、災害医療、へき地医療、結核医療などの政策医療を積極的に担います。
- 4 将来の医療を担う質の高い人材を育成します。
- 5 快適な職場環境の整備と透明性の高い健全な病院運営に努めます。

<総 括>

総合病院は、県内医療機関の中核的病院として、各疾患の総合的な医療をはじめ、高度・専門医療や救急・急性期医療を提供している。

平成 26 年度も引き続き、循環器病センター機能を活かした 24 時間 365 日体制での高度な専門的医療の提供、がん疾患患者に高度な集学的治療の提供、救命救急センターとして重症な患者への救急医療提供を主要事業の三本柱として取り組んだ。

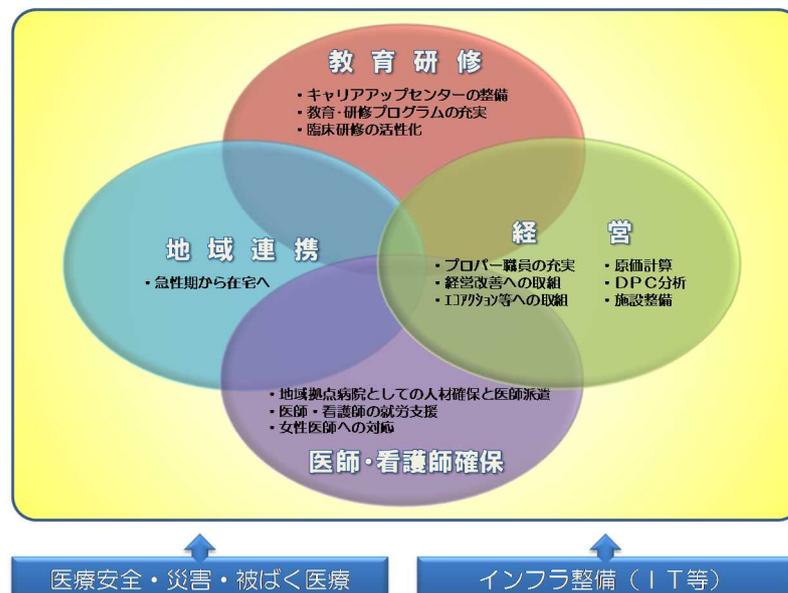
また、地域の中核的病院として、急性期を担当する機能に特化し、機能分担を進めるため、地域の医療機関との連携を強化し、紹介・逆紹介を推進した。

さらに高度な医療機器を地域全体で利用できるように、共同利用の取組みを進めている。

平成 26 年 4 月の診療報酬改定の効果を反映させるべく、施設基準の積極的な取得、ランクアップ及び維持、DPC データの分析などに取り組むことにより、診療単価は向上した。必要看護師数を確保できない状況の中で、入院は延患者数が昨年度を下回ったが、外来は延患者数が昨年度を上回り、収益は入院、外来とも昨年度を上回った。

今後、県立総合病院が目指す病院像（図 1）のとおり、病院が所有する各種機能を強化・連携し、県立病院としての機能向上を一層図ることとしている。

県立総合病院が目指す病院像（図 1）



(3) こころの医療センター

<理 念>

安全・良質・優しいこころの医療を、いつでもどこでも誰にでも

<基本方針>

- 1 患者さんの人権と尊厳を守ります。
- 2 24時間365日、精神科救急医療を提供します。
- 3 最新の知識と技術を取り入れた高度専門医療を提供します。
- 4 手厚いチーム医療によって早期退院を目指します。
- 5 在宅医療とリハビリテーション、社会参加を支援します。
- 6 社会資源を開拓し、連携を強化します。
- 7 司法精神医療、災害医療などの公益医療に主体的に参加します。
- 8 社会人・組織人・医療人としての人材育成に努めます。
- 9 広い視野に立って研鑽を重ね、積極的に社会へ情報発信します。
- 10 健全で透明性の高い病院経営を目指します。

<総 括>

こころの医療センターでは、日本トップレベルの「精神科救急・急性期医療」を提供するため、「救急・急性期医療の充実」、「在宅医療の拡充」、「高度な医療技術の導入」及び「司法精神医療の充実」を重点的に推進し、目標とする精神科医療の体制整備（将来構想（図2）参照）に取り組んだ。

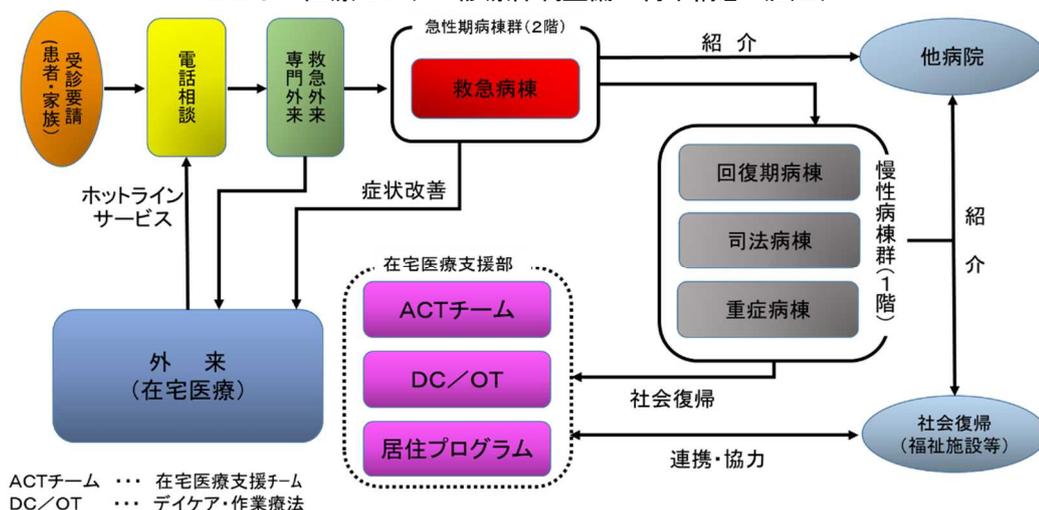
平成22年度より急性期病棟群（救急及び急性期病棟）を中心に救急・急性期患者の受け入れを行い、それを後方的に支援する慢性病棟群（回復期及び慢性重症病棟）との機能分化を進め、平成25年度には急性期病棟を救急病棟に移行する等、診療体制を強化した。平成26年度も継続して効率的な病棟運営に努めた。

一方、精神科における医療は、「入院医療中心から地域生活中心へ」という方針が世界的趨勢であることから、在宅医療支援部門を強化し、地域生活での支援体制の整備と長期入院者の退院促進に取り組んだ。

あわせて、退院後の安定的な生活を維持し、再入院を防止することを目的に、患者に対する心理・社会的治療への取り組みを強化した。

また、クロザピンや修正型電気けいれん療法（m-ECT）など、高度な医療の導入に積極的に取り組むとともに、医療観察法指定入院医療機関としての機能拡充を図るなど、県内精神医療の中核病院としての役割を果たすべく取り組んだ。

こころの医療センター診療体制整備の将来構想（図2）



(4) こども病院

<理 念>

「私たちは、すべての子どもと家族のために、安心と信頼の医療を行います。」

<基本方針>

「患者中心の医療サービスの継続」

〔 地域の医療機関と連携し、診断・治療が困難なこどもの患者へ
質の高い効果的な医療を提供 〕

こども病院が目指す方向 (図3)

- | | |
|------------|--------------------|
| 1 専 門 病 院 | 安全を重視した質の高い医療 |
| 2 教 育 | 教育内容の充実が最大目標の一つ |
| 3 地 域 連 携 | 相互支援に基づいた地域医療連携 |
| 4 効率的な病院経営 | 独善に陥らない標準的な経営と改善努力 |
| 5 働きやすい病院 | スタッフの満足度が高い労働環境 |
- *平成24年4月改定



<総 括>

こども病院は、昭和52年度の開院以来、静岡県の地域医療、小児医療に貢献するという設立趣旨に則り、高度かつ先進的な医療を実践している。

現在では、県内小児医療の中核病院として、循環器疾患医療、小児救急医療、周産期医療、小児がん医療、児童精神科医療を中心に、すべての小児の健康問題に対応可能な小児専門総合医療施設として、質の高い医療を県民に提供している。

平成26年度は、外来診療部門における診療需要の増大や設備の老朽化等に対応するため、新たな外来棟を建設し、平成27年3月から診療を開始した。

また、CCU（循環器集中治療室）と外科系病棟の稼働病床を増やし、小児重症心疾患患者等の受入体制を強化した。

そのほか、血管撮影と手術の両方の機能を兼ね備えるハイブリッド手術室を設置し、より先進的な医療を提供することが可能となった。

3 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 医療の提供

ア 総合病院

○ 業務実績を示す各種指標

- 入院延患者数は年度計画を下回り、外来延患者数は年度計画を上回った。単価は入院及び外来とも年度計画を下回り、年間収入は計画額を確保できなかった。また、単価増については、心臓血管外科や循環器内科を中心に診療内容が高度化したことや、12床のハイケアユニット（HCU）施設基準を上位基準にランクアップしたことなど、各種施設基準の取得、ランクアップの効果によるものである。

平成 26 年度 業務実績

区分		年度計画	実績	増減	達成率 (%)	
入院	一般病床	年間入院延患者数 (人)	215,735	212,105	▲3,630	98.3
		病床利用率 (%)	91.8	90.4	▲0.1	98.5
		平均在院日数 (日)		13.1		
	結核病床	年間入院延患者数 (人)	8,000	7,621	▲379	95.3
		病床利用率 (%)	21.9	20.9	▲1.0	95.4
		平均在院日数 (日)		68.0		
患者 1 人 1 日 当 たり 単 価 (円)		69,843	69,681	▲162	99.8	
外来	年間外来延患者数 (人)	407,270	411,582	+4,312	101.1	
	患者 1 人 1 日 当 たり 単 価 (円)	17,443	17,378	▲65	99.6	

※患者 1 人 1 日 当 たり 単 価 は、税 込 金 額 (調 定 額 ベー ス で 算 定)。病 床 利 用 率 は、一 般 病 床 620 床、結 核 100 床 で 算 定

- 紹介率、逆紹介率ともに、制度改正による計算式の変更もあって前年度を大きく上回った。ともに高い水準を実現し、病診・病病連携がいっそう進んでいる。

平成 26 度 紹介率・逆紹介率

(単位：%)

区 分	年 度 計 画	実 績	増 減
紹 介 率	80.0	85.0	5.0
逆 紹 介 率	90.0	127.5	37.5

※紹介率・逆紹介率の算定方法は、P57の用語解説を参照。

- 医療の提供については、循環器病、がん医療、救急医療の3本を重点に据えるとともに、地域医療の支援及び医療技術者の研修に重点的に取り組んでいる。平成 27 年 3 月の厚生労働省告示により、全国 1,580

のDPC病院（急性期病院）の中で引き続き全国 99 病院のⅡ群の一つを維持し、大学病院本院（Ⅰ群）と同等の高密度診療及び医師研修を行っている病院として選ばれた（県内では当院を含めて6病院）。

- ・ 循環器病については、ハイブリッド手術を整備し、平成 26 年 10 月より運用を開始した。最新の治療器材と鮮明な画像診断を併用し、ステントグラフト治療など、循環器分野における先進的な治療を行った。

循環器病センター



救命救急センター（1F）



ハイブリッド手術室（2F）



CCU（3F）

- ・ がん医療については、総合相談センターに専従で認定看護師を配置し、相談体制を強化している。放射線治療の充実を目指してリニアックを3台設置し、稼働している。このほか、地域の医療者にも開かれたがん診療連携拠点病院としての機能強化に努めている。平成 26 年 7 月に国立がん研究センターから公表された「がん診療連携拠点病院院内がん登録 2012 年全国集計報告書」において、当院の登録件数 2,479 件は全国 397 施設で 54 番目に多い登録件数であった。また、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を導入し、平成 26 年 2 月から運用を開始した。泌尿器領域の前立腺がん手術、婦人科領域の子宮頸がん手術を行った。ダ・ヴィンチを使った子宮頸がんに対する広汎子宮全摘出術を行っているのは県内では県立総合病院のみで、全国でも 10 施設程度である。
- ・ 救急医療については、平成 27 年 3 月に高度救命救急センターの指定を受けた。広範囲熱傷、指肢切断、急性中毒等の特殊疾病患者に対する救命医療を行うために必要な診療機能を備えた。また、平成 26 年 6 月にはドクターカーを導入、運用開始し、救命救急センターのスタッフが搭乗し、災害や事故の現場に急行する、又は搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始することにより、救命率向上に努めた。

イ こころの医療センター

○ 業務実績を示す各種指標

- ・ 延患者数については、入院・外来とも計画を上回った。単価についても、入院・外来とも計画を上回ったことから、年間の収入についても計画額を上回った結果となった。全体的に見て、おおむね計画どおりであったと思われる。

平成 26 年度 業務実績

区 分		年度計画	実績	増減	達成率 (%)
入 院	年間入院延患者数 (人)	54,372	54,735	363	100.7
	入院患者1人1日当たり単価 (円)	24,694	25,009	315	101.3
	平均在院日数 (日)		108.1		
	稼働病床利用率 (%)	82.8	83.3	0.5	100.6
外 来	年間外来延患者数 (人)	40,233	40,336	103	100.3
	外来患者1人1日当たり単価 (円)	5,968	6,001	33	100.6

※患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。平均在院日数は、医療観察法病床を除いて算定。病床利用率は、180床で算定。

- ・ 紹介率は計画値を上回ったが、逆紹介率は計画値を下回った。今後も受入れ体制の充実や転院の促進等に努めていく。

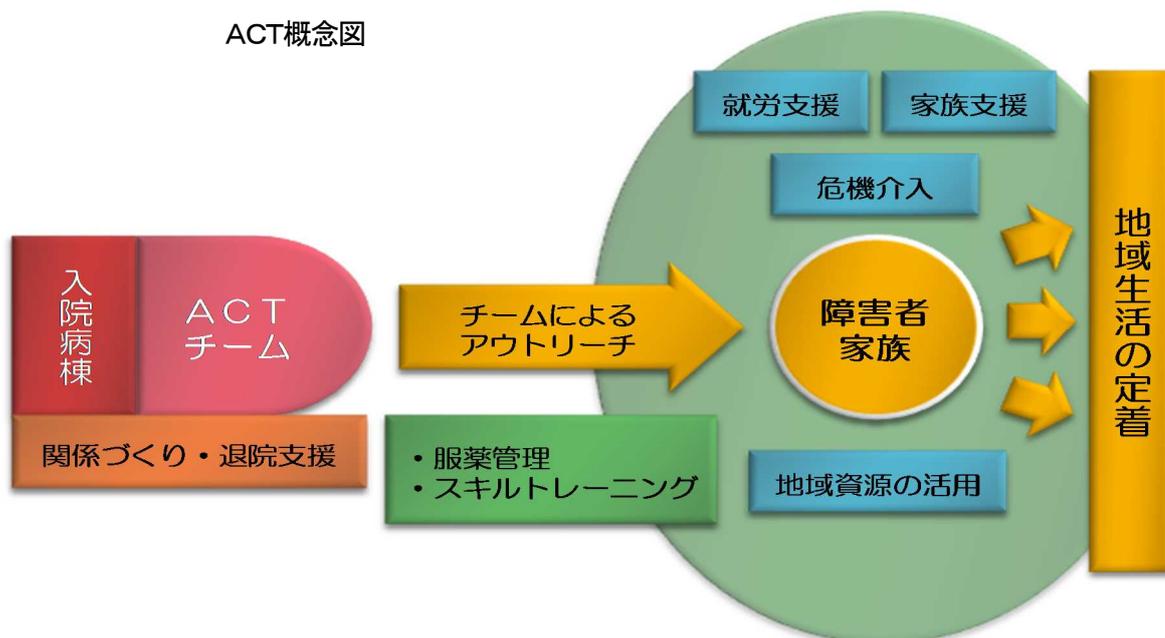
平成 26 度 紹介率・逆紹介率

(単位：%)

区 分	年 度 計 画	実 績	増 減
紹 介 率	56.0	57.9	1.9
逆 紹 介 率	36.0	27.6	▲8.4

- ・ 救急・急性期を中心とした診療体制の整備を図るとともに、包括的在宅医療支援体制モデルの構築や精神科救急相談体制の整備など、退院後の在宅支援を行うシステムを構築することで、「早期に集中的治療を行い、早期に社会復帰する」という体制づくりを進めた。
- ・ 先端薬物療法（クロザピン）や高度な治療法である修正型電気けいれん療法（m-ECT）の実施など、医療水準の向上と重症患者の病状改善に取り組んだ。
- ・ 退院後の安定した地域生活の維持、再入院の防止に向け、心理・社会的治療の一環として、患者に対する心理教育・家族教室に関する取り組みを強化・拡大した。
- ・ 包括的在宅ケア（ACT）チームによる退院支援と手厚い 24 時間 365 日サポート体制による退院後の地域生活支援モデルの構築を進めていた。

ACT概念図



- ・ 県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として本県関係の入院処遇対象者を受け入れており、機能の充実を図り、地域完結型の医療環境の形成を進めている。

ウ こども病院

○ 業務実績を示す各種指標

- ・ 入院については、延患者数・単価ともに計画を下回った。
- ・ 外来については、延患者数は計画を下回ったが、単価は計画を上回った。

平成 26 年度 業務実績

区 分		年度計画	実績	増減	達成率 (%)
入 院	年間入院延患者数 (人)	81,038	77,777	▲3,261	96.0
	入院患者1人1日当たり単価 (円)	91,162	88,915	▲2,247	97.5
	平均在院日数 (日)		12.1		
	病床利用率 (%)	83.2	79.8	▲3.4	95.9
外 来	年間外来延患者数 (人)	105,234	101,770	▲3,464	96.7
	外来患者1人1日当たり単価 (円)	14,258	15,633	1,375	109.6

※患者1人1日当たり単価は、税込金額（調定額ベースで算定）。平均在院日数は、NICU、GCU、MFICU、PICU、精神科、短期3を除いて算定。病床利用率は264床(4月～8月)、269床(9月～3月)で算定。

- ・ 病診連携や病病連携の強化により、紹介率・逆紹介率ともに年度計画を上回った。

平成 26 年度 紹介率・逆紹介率

(単位：%)

区 分	年度計画	実績	増 減
紹 介 率	90.0	91.8	1.8
逆 紹 介 率	32.0	53.2	21.2

- ・ 全国初の小児循環器集中治療専門医を配置したCCUの体制維持、カテーテル治療（アンプラッツァー）等の先進的治療、一般電話回線を利用した遠隔エコー診断など、循環器疾患に対する高度先進的治療の体制充実を図った。
- ・ 平成 26 年 9 月から、CCUの特定集中治療室管理料算定病床を 10 床から 12 床に増やし、小児重症心疾患患者の受入体制の更なる充実を図った。
- ・ 総合周産期母子医療センターの指定を受け周産期医療の中核を担い、ハイリスク胎児・妊婦、新生児に高度な先進的治療を提供した。
- ・ 平成 27 年度から、NICUの許可病床 18 床をフル稼働し、新生児への先進的治療を提供する体制を拡充する予定である。
- ・ 静岡県小児がん拠点病院として、県内小児がん患者のほとんどに対応し、血液腫瘍の治療法である造血幹細胞移植を継続的に実施したほか、固形腫瘍については関係診療科の協働連携による「腫瘍カンファレンス」を開催して高度な集学的治療に取り組んだ。
- ・ 小児救命救急センターの指定を受けている小児集中治療センター（PICU）、平成 25 年度に開設した小児救急センター（ER）を中心に、24 時間 365 日を通して、初期救急を含めたすべての小児救急患者を受け入れた。
- ・ 厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に参画し、ネットワーク構築のため学校・地域との連携強化に努めるなど、県内の児童精神科医療における中核的な機能を発揮した。

救急の体制



ドクターヘリ



ドクターカー



小児救急センター

(2) 医療に関する技術者（医師、看護師等医療従事者）の研修を通じた育成と質の向上

ア 総合病院

医療技術者の研修については、研修医の海外研修への派遣、看護師の認定看護師研修への派遣、県立大学との共同研究、メディカルスキルアップセンターを利用した研修の実施など、県立病院に相応しい医療技術の育成に努めている。特に医師の臨床研修については、平成23年度に卒後臨床研修評価機構（JCER）による臨床研修評価を受審し、当院の臨床研修体制が高く評価され、認定証の発行を受けた。また、平成26年度は、医師臨床研修マッチングにおいて、募集定員22名中19名を確保することができた。

イ こころの医療センター

医療技術者の研修については、海外研修の派遣、認定看護師研修の派遣等、精神医療の向上に資する人材の育成に努めている。特に認定看護師については、認定看護師制度受講資格審査に1名合格し、また、3名の認定看護師が認定更新を行った。

ウ こども病院

- ・ 専門家を招聘してセミナーや研修会を定期的で開催するとともに、海外研修や認定看護師研修等に医療技術者を積極的に派遣するなど、院内外の研修会等を通じて病院全体の医療技術の向上に努めた。
- ・ シドニー・ウエストメッド小児病院から定期的に医師や看護師を招聘するとともに、当院の研修医をウエストメッド小児病院に派遣するなど、国際交流を通じて最先端の医療技術の習得を図った。
- ・ 第3回 Mt. Fuji Network Forumを開催し、海外から7ヶ国25人を含め約300人が参加した。小児先天性心疾患の最新治療等について意見交換を行った。
- ・ 地域の医療機関等の看護師、保健師への継続的な実習研修や、医療関係者を対象とした講演会等を定期的に行い、職員だけでなく院外の医療従事者に対しても教育研修機能を開放した。
- ・ 医療技術の更なる向上を目指し、平成27年度には、様々な医療行為の研修を実施できるラーニングセンターを整備予定である。

(3) 医療に関する調査及び研究

- ・ 総合病院では、臨床医学研究センターを平成 25 年 12 月 24 日に立ち上げた。また、平成 26 年 8 月 9 日に設立記念研究発表会を開催し、地域の医療関係者に臨床医学研究センター設立を PR した。
- ・ 医療機能の向上のため、医師の通常の診断治療業務との関連の中で確立された治療方法の導入や、実施に当たっての研究、各種疾患の追跡調査を行い、個々の技術の向上を図っている。
また、全職員に対して、新技術、知識習得のため各種研修会・講習会への参加、情報収集のための各種雑誌、図書の購入等を推進している。

【医学奨励研究の内訳】

病 院	研 究 課 題	部 署	構成人数
総 合	リファンピシンの薬物相互作用に関する研究	薬 剤 部	4
	香煎茶飲用による糖尿病改善効果の検討	臨床研究センター	4
	腎移植患者における BK virus (BKV) 腎症に関する研究 (環境衛生科学研究所との共同研究)	腎 臓 内 科	4
	アンドロゲン除去療法開始前後の前立腺癌患者を対象とした下垂体性 intact hCG 値基礎的データ集積	泌 尿 器 科	5
	C-11-メチオニン PET 検査による脳腫瘍の評価	脳 神 経 外 科	8
	局所進行再発乳がんにおける自壊創の病臭に対し、緑茶ポリフェノールの粉末を貼付したシートを使用することによる消臭効果の検討	乳 腺 外 科	6
	内臓脂肪量と消化器癌予後の関連について	外 科	12
	疾患別にみたバーチャル小腸内視鏡検査の有用性評価	消 化 器 内 科	2
	僧帽弁解析ソフトにより計測した測定値と使用デバイスの比較検討	検 査 技 術 室	8
	光干渉断層撮影 (Optical Coherence Tomography : OCT) を用いた冠動脈ステント内再狭窄病変に対する薬物溶出性バルーンとスコアリングバルーン併用による治療効果の検討	循 環 器 内 科	6
	小児気管支喘息患者における受動喫煙の影響について	小 児 科	3
	経胸壁心臓超音波検査がオーダーされた心不全例における非侵襲的推定肺動脈圧と同日採血の BNP 濃度の比較検討	検 査 技 術 室	7
	Low back pain に対する頸部脊柱管狭窄症の関与、頸椎椎弓形成術の効果に関する研究	脳神経外科	4
	ワイヤレス 12 誘導心電図伝送のプレホスピタルにおける有用性の検討：救急車、ドクターカー、遠隔医療における検討	循環器内科	15
	計	14	88

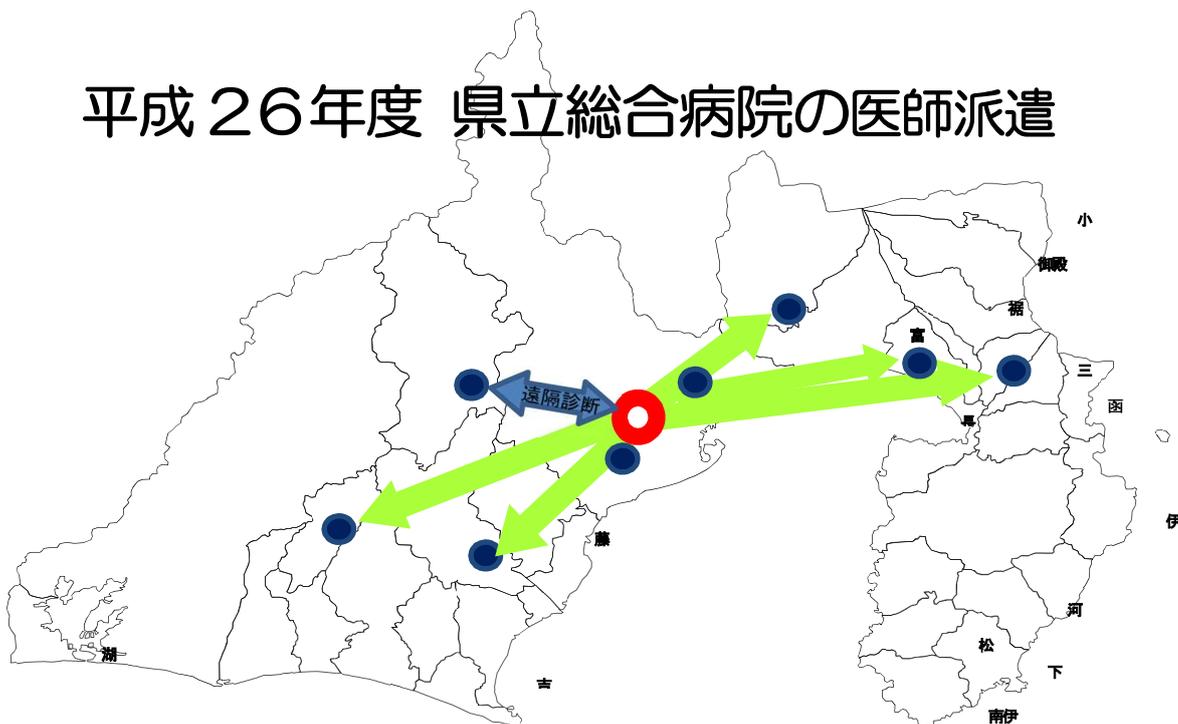
病 院	研 究 課 題	部 署	構成人数
こころ	心理教育の研修の効率化について	救急病棟診療科	5
	抗不安薬及び睡眠薬の処方量の変化に関する調査	薬 剤 室	4
	「サイコーシスの認知バイアス質問紙」日本語版の信頼性と妥当性の検討	慢性重症・司法病棟診療科	4
	計	3	13
こども	血漿プレセプシン値の生後早期の推移に関する研究	新 生 児 科	6
	成人医療に移行した小児がん長期フォローアップ患者の実態に関する研究	血 液 腫 瘍 科	7
	血液濾過透析(以下CHDF)(人工心肺(以下ECMO)なし)、CHDF(ECMOあり)における、溶質と薬剤の血液浄化効率に関する検討(適正な薬剤投与量を推測するために)	腎 臓 内 科	7
	NSTとして重症心身障がい児の栄養評価の再編、栄養改善に向けて、評価方法を整理する。 - 2 -	神 経 科	4
	小児喉頭疾患に対する喉頭顕微鏡下手術の有効性の検証	小 児 外 科	3
	短腸症候群の胆汁うっ滞製肝障害及び必須脂肪酸欠乏に対する魚油由来脂肪製剤(Omegaven)投与	小 児 外 科	2
	バクロフェン髄注療法の導入と脳性麻痺に対するチーム医療の確立	脳神経外科	5
	絨毛膜下血腫(SCH, CAOS, Breus' mole)におけるFIRSの関与ならびに胎盤病理からみた発症機序の創意性に関する検討、および、それに基づく管理指針の作成	産 科	5
	高度胎児発育不全症例における妊娠高血圧症候群の発症予知に関する研究	産 科	4
	こども病院が行う遺族ケアの意義と、グリーンケア実践者となる医療者の育成の検討	P I C U 病 棟	11
	コミュニケーションエラーを要因とした有害事象に対する組織的取り組み～テクニカルスキル向上を目指した推進計画の有効性を検討～	医療安全管理室	4
	化学療法患者における味覚障害に関する検討	栄 養 管 理 室	7
	注射剤配合変化防止への取り組み	薬 剤 室	9
	空間装飾(モビール)がもたらす心理効果について～子どもに優しい療養環境を目指して～	成 育 支 援 室	7
計	14	81	

(4) 医療に関する地域への支援

ア 総合病院

地域医療の支援については、平成26年度は、県立病院医師交流制度に基づき11医療機関（前年同期10）に対して延べ701人（前年同期616人）の医師の派遣を行うとともに、PETやCT・MRIの高度医療機器の共同利用を進めている。また、平成22年度総務省委託事業である「地域ICT利活用広域連携事業」により始めた「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」は順調に拡大し、平成27年3月末現在、開示施設は14病院、参照施設は208施設となっている。各地域の医師会とともに、診療情報共有のためのネットワークを推進している。

平成26年度 県立総合病院の医師派遣



イ こころの医療センター

地域医療の支援については、講演会等への講師派遣、出前講座への認定看護師の派遣などに取り組んだほか、医療観察法における鑑定の要請に協力する等、県内精神医療の中核病院としての役割を果たした。

ウ こども病院

- ・ 地域医療支援病院としての役割を果たすため、医師不足が顕著な公的病院や急病センター等の医療機関に医師を派遣した。
- ・ 映像通信システムを通じて、浜松医科大学やマレーシア国立循環器病センターと定期的に症例検討会を実施した。また、県内4病院と連携して心エコー画像の遠隔診断を行うなど、映像情報を活用した地域医療機関等との連携及び支援を行った。
- ・ 児童精神科医療におけるネットワーク構築のため、小中学校教諭を対象とした精神保健講座や児童養護施設の巡回相談を実施するなど、学校・地域との連携強化に努めた。
- ・ 県内の医師や看護師を対象とした症例検討会を開催するなど、地域の周産期医療の質向上と他医療機関との連携体制を強化した。
- ・ 地域の救急医療機関や消防機関を対象とした研究会を開催するなど、小児救急医療の体制強化を図った。

(5) 災害等における医療救護

- ・ 災害拠点病院は、災害時に多発する重篤救急患者を受け入れ、自己完結型の医療救護チームを被災地に派遣し、地域医療機関への応急用資器材の貸し出し機能を有する病院であり、県下 21 病院が指定されている。
- ・ 総合病院は、基幹災害拠点病院に指定されており、災害拠点病院の機能をさらに強化した、要員の訓練や研修機能を有し、災害医療に関して県の中心的役割を果たす病院であることが求められている。
- ・ 総合病院とこども病院は、静岡市長から「静岡県医療救護計画」に基づき、救護病院（重症患者及び中等症患者の処置及び収容を行う病院）に指定されているほか、総合病院は、被ばく医療について、二次被ばく医療機関に指定されている。
- ・ 防災計画等の取組については、災害対応マニュアルの見直しを進め、東日本大震災以降の国の施策の見直しなどを反映した改訂を行うとともに、総合病院では、災害発生時の断水に備えるため、地下水を上水として活用できるような対策を実施した。改訂したマニュアルに基づき訓練を実施し、内容の検証や見直しを進め、災害時の事業継続計画（BCP）を策定した。
- ・ 総合病院における被ばく医療については、福島第一原発の事故を受けて、国が体制や計画の見直しを進めているところであり、県及び関係機関と協議を行いながら院内体制の見直しを検討していく予定である。
- ・ こころの医療センターは、地震や台風等による災害が発生し、被災した病院独自では患者の身体、生命の安全確保が困難な場合、被災病院に対する人的支援を行うため、平成 26 年 8 月 28 日、宮城県立精神医療センター、千葉県精神医療センター、大阪府立精神医療センター、岡山県精神医療センター、島根県立こころの医療センター、山口県立こころの医療センター、計 7 病院と災害時における自治体精神科病院の相互支援に関する協定を締結した。

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 簡素で効率的な組織づくり

理事会、運営会議、経営担当課長会議を、8 月を除く毎月開催し、意思決定の迅速化に努めている。

(2) 効率的な業務運営の実現

ア 機構全体

- ・ 法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮して、人物重視の採用試験を実施し、平成 27 年度事務職員として 8 名を採用した。
あわせて、急速な経営環境の変化にも迅速に対応できるよう経験と専門性を持った事務職員を採用した。
- ・ 未収金の圧縮を図るため、医療費に係る相談体制の充実、未収金回収業務を外部の専門会社に委託するなどし、効率的な未収金対策を講じている。
- ・ 薬品費や診療材料費については、購入品目の見直し、納入卸業者数及び価格交渉の更なる拡充等の見直しを進め、経費節減・業務効率化に取り組んだ。
- ・ 地方独立行政法人制度のメリットを活かして契約の複数病院一括化及び複数年契約化を進める一方で、契約によっては分割して発注することによって競争性を高めるなど、柔軟に契約方法を変更することで経営改善を推進した。
- ・ 経費の節減のみならず、モニタリング制度（インセンティブ（契約延長：最長 5 年間の業務受託が可能）の付与や業務内容が適切ではない場合の減額等が課せられている。）導入などにより、業務の質の向上も図った。

イ 総合病院

- ・ 必要看護師数が確保できない状況の中、引き続き、医療秘書や病棟支援を行う看護助手の配置、看護師の離職防止対策などに取り組み、一般病棟7対1看護の維持に努めている。
- ・ 平成27年2月にSPD（委託）を導入し、物品の一元管理を開始した。発注、払出、搬送、在庫管理、棚卸等を一元管理することにより、業務効率化、不要在庫の削減、期限切れ廃棄物品の削減などが期待される。

ウ こころの医療センター

女性医師の就労環境改善のため、夜勤時における女性医師用当直室を整備した。

女性医師用当直室



女性医師用当直室（シャワー室）



エ こども病院

- ・ PICUにおける特定入院料の施設基準のランクアップ、CCUにおける特定集中治療室管理料を算定する病床の増加等、診療収益の増収に努めた。
- ・ 毎月の管理会議において経営状況を報告するなど、院内で経営情報を共有することにより、職員全体の経営意識の向上を図った。

(3) 事務部門の専門性の向上

- ・ 事務職員基礎研修、会計研修等を実施し、業務関連知識を高めている。
- ・ 診療情報管理士資格の取得支援制度を設け、資格者の増員を図っている。
- ・ 業務の標準化、事務職員の円滑なプロパー化に資するため、事務部門の業務マニュアル整備・活用に向けた取り組みを実施し、あわせて、院内コミュニケーションシステム上に集約したマニュアルを公開し、情報の共有化を図っている。

(4) 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成

業務改善の推進として、機構の改善運動推進制度を設置しており、業務改善に積極的に取り組む組織風土の醸成に努めている。

5 項目別事業実績

評価凡例
 A 計画に対し十分に取り組み、成果も得られている。
 B 計画に対し十分に取組んでいる。
 C 計画に対する取組みは十分ではない。

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績				備考																																									
				セカンドオピニオン数 (単位:件)																																													
第1 1 医療の提供	各県立病院は、患者が選択し納得できる最良の医療を提供するため、次の事項等に取り組む。 ① 患者への十分な説明と同意の徹底 ② 医療技術の向上 ③ チーム医療の推進 ④ 医療安全対策の充実 ⑤ 患者満足の向上	1	セカンドオピニオン外来を充実する。	<table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>112</td> <td>98</td> <td>107</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>52</td> <td>44</td> <td>45</td> </tr> </table>				区分	24年度	25年度	26年度	総合	112	98	107	ところ	—	—	—	こども	52	44	45	A	本年度海外からセカンドオピニオン相談を3件受け、実施されている。患者の要望に的確に答えることが出来ている。 また、診療科の振り分け・セカンドオピニオンかどかの振り分けを的確に行い、院内の混乱を防ぐことができた。																								
		区分	24年度	25年度	26年度																																												
		総合	112	98	107																																												
		ところ	—	—	—																																												
		こども	52	44	45																																												
2	運用実績を通じてエビデンスに基づいたクリニカルパスの新規作成や見直しを行うことにより、医療の質を確保し入院中の経過を分かりやすく説明できるクリニカルパスの適用率を高める	総合	クリニカルパス管理委員会を毎月1回開催し、新規作成数39件、修正68件の審議・承認を行った。現在、総数は273件となっている。	A	(実績に対する評価) クリニカルパスについては、常に内容を見直す体制を維持しており、患者に対してより良い医療を提供している。 (課題) 今後も引き続き新規パス作成、既存パスの見直しを行い、より良い医療を提供していく。またスタッフにより使いやすいシステムしていく。																																												
3	入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、精神科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	ところ	クロザピンによる治療を開始するにあたり、新規クリニカルパスを導入した。 平成26年度稼働クリニカルパス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン) 稼働クリニカルパスの状況 (単位:件) <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	ところ	4	4	A	(実績に関する評価) クリニカルパスの適用が比較的小さい精神科ではあるが、導入が可能なものについては、積極的に導入している。 (課題) 導入したクリニカルパスの着実な実践を図る必要がある。																																						
区分	25年度	26年度																																															
ところ	4	4																																															
4	臨床研究の実施、学会・研修会への参加、資格の取得	総合	治療を含め、臨床研究については、医師も増えていることから年々増加傾向にある。これに関する学会・研修会等についても医師に限らず、臨床試験管理室の職員も積極的に参加している。 認定看護師数 13名 専門医数 145名(延べ人数) <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>204 (24)</td> <td>224 (29)</td> <td>242 (29)</td> </tr> </table>	区分	24年度	25年度	26年度	ところ	204 (24)	224 (29)	242 (29)	A	(実績に関する評価) 倫理審査委員会の迅速審査の導入や、プロトコール、説明文書の雛形作成等の支援により、臨床研究を推進している。研究数は継続して増加している。統合指針に沿って信頼できる研究が実施できるよう、教育、体制整備を進めていく。																																				
区分	24年度	25年度	26年度																																														
ところ	204 (24)	224 (29)	242 (29)																																														
5	チーム医療を推進するため、多職種によるカンファレンスを開催する。	総合	医療に従事する多種多様な医療スタッフが情報を共有し、業務連携することで患者の状況に的確に対応した医療を提供するため、チーム医療を推進した。 チーム医療の推進(カンファレンスの開催) <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>チーム名</th> <th>開催頻度</th> <th>主要メンバー</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">総合</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>2回/週</td> <td>栄養・医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>院内52回 院外1回/年</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護・栄養</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ところ</td> <td>緩和ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床心理士</td> </tr> <tr> <td>栄養サポートチーム</td> <td>週1回</td> <td>医師・看護・栄養等</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>院内52回 院外1回/年</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こども</td> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護</td> </tr> <tr> <td>ACCT (601000000000000000)</td> <td>随時</td> <td>医師・看護・精神保健福祉士等</td> </tr> <tr> <td>栄養サポートチーム</td> <td>週1回</td> <td>医師・看護・栄養等</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こども</td> <td>感染防止対策チーム</td> <td>院内52回 院外1回/年</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策部会</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション</td> <td>週1回 (隔週)</td> <td>医師・看護・理学療法等</td> </tr> </table>	区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー	総合	栄養サポートチーム	2回/週	栄養・医師・看護・薬剤・臨床検査	感染防止対策チーム	院内52回 院外1回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護・栄養	ところ	緩和ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤・臨床心理士	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等	感染防止対策チーム	院内52回 院外1回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査	こども	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護	ACCT (601000000000000000)	随時	医師・看護・精神保健福祉士等	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等	こども	感染防止対策チーム	院内52回 院外1回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査	褥瘡対策部会	1回/月	医師・看護	リハビリテーション	週1回 (隔週)	医師・看護・理学療法等	A	(実績に対する評価) 多職種が参加するカンファレンスは、最良の医療提供のため確実に実施されている。 (課題) チーム医療は病院全体で取り組む風土が不可欠であるため、職員の意識向上のための取り組みが必要。
区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー																																														
総合	栄養サポートチーム	2回/週	栄養・医師・看護・薬剤・臨床検査																																														
	感染防止対策チーム	院内52回 院外1回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査																																														
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護・栄養																																														
ところ	緩和ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤・臨床心理士																																														
	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等																																														
	感染防止対策チーム	院内52回 院外1回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査																																														
こども	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護																																														
	ACCT (601000000000000000)	随時	医師・看護・精神保健福祉士等																																														
	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等																																														
こども	感染防止対策チーム	院内52回 院外1回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査																																														
	褥瘡対策部会	1回/月	医師・看護																																														
	リハビリテーション	週1回 (隔週)	医師・看護・理学療法等																																														

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	自己評価	備考																																																								
第1 1 医療の提供	各県立病院は、患者が選択し納得でき る最良の医療を提供するため、次の事 項等に取り組み。 ① 患者への十分な説明と同意の徹底 ② 医療技術の向上 ③ チーム医療の推進 ④ 医療安全対策の充実 ⑤ 患者満足度の向上	6	医療安全室及び感染対策委員会等を中 心に、マニュアルの見直しや研修会を 通じて院内感染防止対策・医療安全対 策を実施する。	<p>・3病院で、30回の院内感染対策研修、48回の医療安全対策研修 を行い、安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、 体制整備を行っている。</p> <p>・医療安全全国共同行動の参加登録病院としてレベルの向上を目 指す。</p> <table border="1"> <caption>院内感染対策研修等</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>院内感染対策研修</th> <th>医療安全対策研修</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区</td> <td>0</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>8</td> <td>1,393</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>277</td> </tr> <tr> <td>合</td> <td>0</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>12</td> <td>1,670</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>18</td> <td>762</td> </tr> <tr> <td>こ</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1,890</td> </tr> <tr> <td>ども</td> <td>0</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>30</td> <td>2,432</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>48</td> <td>4,067</td> </tr> </tbody> </table>	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	院内感染対策研修	医療安全対策研修	区	0	6	4	1	8	1,393	分	0	0	0	0	4	277	合	0	6	4	1	12	1,670	ところ	0	0	0	0	18	762	こ	0	1	0	0	1	1,890	ども	0	7	4	1	30	2,432	計	0	7	4	1	48	4,067	A	(実績に対する評価) 各病院において感染対策委員会や医療安全 委員会を行う等、継続的な対策研修の実施体 制が確立している。 引き続き院内感染防止及び医療安全に必要 な措置を講じている。
		区分	23年度	24年度	25年度	26年度	院内感染対策研修	医療安全対策研修																																																						
区	0	6	4	1	8	1,393																																																								
分	0	0	0	0	4	277																																																								
合	0	6	4	1	12	1,670																																																								
ところ	0	0	0	0	18	762																																																								
こ	0	1	0	0	1	1,890																																																								
ども	0	7	4	1	30	2,432																																																								
計	0	7	4	1	48	4,067																																																								
		7	患者の視点に立った質の高い医療の提 供を目指し、患者要望等の的確な把握 及び患者満足度調査を行う。	<p>H24から調査項目を一部共通化し、実施している。 H25から調査実施時期を統一した。</p> <p>患者満足度調査 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区</td> <td>89.5</td> <td>95.8</td> <td>96.4</td> <td>95.8</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td>86.7</td> <td>90.9</td> <td>91.9</td> <td>88.2</td> </tr> <tr> <td>合</td> <td>84.2</td> <td>89.3</td> <td>88.8</td> <td>88.2</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>92.8</td> <td>93.7</td> <td>92.5</td> <td>91.3</td> </tr> <tr> <td>こ</td> <td>86.2</td> <td>90.9</td> <td>89.4</td> <td>91.2</td> </tr> <tr> <td>ども</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※H27.3末時点</p>	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	区	89.5	95.8	96.4	95.8	分	86.7	90.9	91.9	88.2	合	84.2	89.3	88.8	88.2	ところ	92.8	93.7	92.5	91.3	こ	86.2	90.9	89.4	91.2	ども					A	(実績に対する評価) ことば病院の外來以外では平成26年度の患 者満足度が25年度よりも下がっているが、全 体的に高い満足度を保っている。 (課題) 3病院共に待ち時間に待たず時間に対する満足度が低い ため、待ち時間の満足度向上を目指す。ホー ムページの工夫やトイレの使い心地等も検討 していく。																					
区分	23年度	24年度	25年度	26年度																																																										
区	89.5	95.8	96.4	95.8																																																										
分	86.7	90.9	91.9	88.2																																																										
合	84.2	89.3	88.8	88.2																																																										
ところ	92.8	93.7	92.5	91.3																																																										
こ	86.2	90.9	89.4	91.2																																																										
ども																																																														
I 1 (2)	県内の中核的病院として高度・専 門・特殊医療を提供するため、地域 の医療機関との機能分担を推進し、 地域の医療機関との連携を強化す る。 ① 紹介・逆紹介の推進 ② 地域連携クリニカルパスの推進 ③ かかりつけ医との診療情報の共 有化の推進 ④ ふじのくにバナーチャイルド・メガホ スピタル(ふじのくにねっと)の推 進	8	かかりつけ医との連携を充実すること により、入院から在宅まで一貫した高 度医療の提供や病状急変時における対 応等が可能となるよう連携・機能分担 体制を進める。	<p>総合</p> <table border="1"> <caption>紹介・逆紹介実績</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>H26目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区</td> <td>81.1</td> <td>82.1</td> <td>80.0</td> <td>85.0</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td>112.1</td> <td>106.7</td> <td>90.0</td> <td>127.5</td> </tr> <tr> <td>合</td> <td>81.1</td> <td>82.1</td> <td>80.0</td> <td>85.0</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>93.6</td> <td>94.8</td> <td>90.0</td> <td>91.8</td> </tr> <tr> <td>こ</td> <td>39.1</td> <td>49.9</td> <td>32.0</td> <td>53.2</td> </tr> <tr> <td>ども</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※H27.3末時点</p>	区分	24年度	25年度	26年度	H26目標	区	81.1	82.1	80.0	85.0	分	112.1	106.7	90.0	127.5	合	81.1	82.1	80.0	85.0	ところ	93.6	94.8	90.0	91.8	こ	39.1	49.9	32.0	53.2	ども					A	(実績に対する評価) 紹介率は、年度目標を上回っており、昨年度実 績も上回った。 逆紹介率は、年度目標及び昨年度実績を上 回っている。 医師の異動に伴い、マイカドの発行枚数が減少 した。新規起任医師等への制度周知を徹底する。 さらに、連携のためのネットワーク基盤の整備が 実現することは、医療連携推進において大きな一 歩となる。 (課題) ・病連携をより充実させる必要がある。 ・ネットワークを維持・活用する。																					
		区分	24年度	25年度	26年度	H26目標																																																								
区	81.1	82.1	80.0	85.0																																																										
分	112.1	106.7	90.0	127.5																																																										
合	81.1	82.1	80.0	85.0																																																										
ところ	93.6	94.8	90.0	91.8																																																										
こ	39.1	49.9	32.0	53.2																																																										
ども																																																														
		9	地域の医療機関との連携を強化し、医 療支援体制や救急・急性期・重症患者 の受入など連携・機能分担体制の整備 を推進する。	<p>総合</p> <table border="1"> <caption>紹介・逆紹介実績</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>H26目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区</td> <td>54.4</td> <td>49.6</td> <td>56.0</td> <td>57.9</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td>30.2</td> <td>29.8</td> <td>36.0</td> <td>27.6</td> </tr> <tr> <td>合</td> <td>54.4</td> <td>49.6</td> <td>56.0</td> <td>57.9</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>30.2</td> <td>29.8</td> <td>36.0</td> <td>27.6</td> </tr> <tr> <td>こ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ども</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	24年度	25年度	26年度	H26目標	区	54.4	49.6	56.0	57.9	分	30.2	29.8	36.0	27.6	合	54.4	49.6	56.0	57.9	ところ	30.2	29.8	36.0	27.6	こ					ども					B	(実績に対する評価) 紹介率は目標を上回ったが、逆紹介率は目標を 下回った。 (課題) 「よろず相談・地域連携スタッフ」を中心に、引き 続き地域連携を図る必要がある。																					
区分	24年度	25年度	26年度	H26目標																																																										
区	54.4	49.6	56.0	57.9																																																										
分	30.2	29.8	36.0	27.6																																																										
合	54.4	49.6	56.0	57.9																																																										
ところ	30.2	29.8	36.0	27.6																																																										
こ																																																														
ども																																																														
		10	地域医療連携室を中心に患者の紹介・ 逆紹介を推進する。	<p>総合</p> <table border="1"> <caption>紹介・逆紹介実績</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>H26目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区</td> <td>81.1</td> <td>82.1</td> <td>80.0</td> <td>85.0</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td>112.1</td> <td>106.7</td> <td>90.0</td> <td>127.5</td> </tr> <tr> <td>合</td> <td>81.1</td> <td>82.1</td> <td>80.0</td> <td>85.0</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>93.6</td> <td>94.8</td> <td>90.0</td> <td>91.8</td> </tr> <tr> <td>こ</td> <td>39.1</td> <td>49.9</td> <td>32.0</td> <td>53.2</td> </tr> <tr> <td>ども</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※H27.3末時点</p>	区分	24年度	25年度	26年度	H26目標	区	81.1	82.1	80.0	85.0	分	112.1	106.7	90.0	127.5	合	81.1	82.1	80.0	85.0	ところ	93.6	94.8	90.0	91.8	こ	39.1	49.9	32.0	53.2	ども					A	(実績に対する評価) 紹介・逆紹介共に目標を達成した。 (課題) 地元医療機関における急性期以降の患者受 入れが可能な環境整備が急務である。																					
区分	24年度	25年度	26年度	H26目標																																																										
区	81.1	82.1	80.0	85.0																																																										
分	112.1	106.7	90.0	127.5																																																										
合	81.1	82.1	80.0	85.0																																																										
ところ	93.6	94.8	90.0	91.8																																																										
こ	39.1	49.9	32.0	53.2																																																										
ども																																																														

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置

中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		備考																															
				自己評価	説明																																
第1 1 医療の提供	1 (3) イ	15	周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などに取組む。各県立病院が連携して取り組む。	周産期医療や精神科患者の身体合併症等に対して、機構内3病院が連携し、より最適な医療の提供を行う。	児童の措置入院等、子ども病院での受入れが困難な場合はこころの医療センターにて受入れている。 周産期医療における搬送実績 (単位: 件) <table border="1"> <tr><td>区分</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><td>子ども総合</td><td>3</td><td>4</td><td>9</td></tr> <tr><td>総合→子ども</td><td>14</td><td>10</td><td>8</td></tr> </table> ※H27.3末時点	区分	H24	H25	H26	子ども総合	3	4	9	総合→子ども	14	10	8	A	(実績に対する評価) 3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の心療体制の確保等、病院間の連携・協体制を密にしている。 (課題) 限られた人的資源をいかに効率的に活用していくか、病院間横断的な検討を行う必要がある。																		
	区分	H24	H25	H26																																	
	子ども総合	3	4	9																																	
総合→子ども	14	10	8																																		
1 (3) ウ	16	結核病種を維持する。また各種感染症や難病は県内医療機関との連携・協力関係を進めて対応する。	結核病種50床について運用している。エイズ拠点病院としてエイズ患者の受入体制を整えている。難病医療協力病院として難病医療に取り組んだ。 入院患者数 <table border="1"> <tr><td>区分</td><td>24年度</td><td>25年度</td><td>H26目標</td></tr> <tr><td>エイズ</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>結核</td><td>96</td><td>102</td><td>107</td></tr> </table>	区分	24年度	25年度	H26目標	エイズ				結核	96	102	107	A	(実績に関する評価) 県内最大の結核病床の医療機関として、広範囲の地域から結核患者の受入れた。エイズ拠点病院として、エイズ患者の受入体制を整えている。 難病医療の法律改正にあわせて、難病指定医療機関と難病指定医師の申請を行った。																				
区分	24年度	25年度	H26目標																																		
エイズ																																					
結核	96	102	107																																		
1 (3) エ	17	先進的医療である移植医療に取り組む。	造血幹細胞移植実績 (単位: 件) <table border="1"> <tr><td>区分</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><td>骨髄移植</td><td>7</td><td>9</td><td>9</td></tr> <tr><td>臍帯血</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>自家末梢血</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>同種末梢血</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>計</td><td>11</td><td>13</td><td>13</td></tr> </table>	区分	H24	H25	H26	骨髄移植	7	9	9	臍帯血	1	1	1	自家末梢血	3	2	2	同種末梢血	0	1	1	計	11	13	13	A	(実績に対する評価) 子ども病院の造血幹細胞移植件数は順調に推移しており、昭和57年以降324件にのぼる。								
区分	H24	H25	H26																																		
骨髄移植	7	9	9																																		
臍帯血	1	1	1																																		
自家末梢血	3	2	2																																		
同種末梢血	0	1	1																																		
計	11	13	13																																		
1 (3) オ	18	リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学、就労につながる支援等に取り組む。	MSSW、療法士等が積極的に介入している 退院調整加算 701件 退院時リハビリテーション料1,279件	A	(実績に対する評価) MSSW、療法士等が積極的に介入することで、円滑な地域医療連携に貢献した。 (課題) より早期の介入により、更なる地域医療の円滑化を目指す。																																
	19	・地域の医療機関や関係機関との連携を深化させる。 ・患者や地域支援のための人材育成、組織の充実を図る。	早期退院の促進と退院後も安定的な生活を維持するためには、入院中から地域生活を見据えた支援が必要とされることから、22年度から取組を始めた「精神科急性期ケアマネジメント」を本年度も継続実施している。 また、在宅において、よりの確かな支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加えて精神保健福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問を積極的に実施した。 平均在院日数 (単位: 日) <table border="1"> <tr><td>区分</td><td>24年度</td><td>25年度</td><td>26年度</td></tr> <tr><td>平均在院日数</td><td>108.1</td><td>116.0</td><td>116.6</td></tr> <tr><td>平均在院日数 (医療観察法による患者を除く)</td><td>100.9</td><td>108.2</td><td>108.1</td></tr> </table> 1年以上入院患者数 (単位: 人) <table border="1"> <tr><td>区分</td><td>24年度</td><td>25年度</td><td>26年度</td></tr> <tr><td>1年以上入院</td><td>55</td><td>45</td><td>61</td></tr> </table> 訪問看護件数 (単位: 件) <table border="1"> <tr><td>区分</td><td>24年度</td><td>25年度</td><td>26年度</td></tr> <tr><td>訪問看護件数</td><td>2,143</td><td>2,698</td><td>2,751</td></tr> <tr><td>(うち複数訪問)</td><td>390</td><td>369</td><td>344</td></tr> </table>	区分	24年度	25年度	26年度	平均在院日数	108.1	116.0	116.6	平均在院日数 (医療観察法による患者を除く)	100.9	108.2	108.1	区分	24年度	25年度	26年度	1年以上入院	55	45	61	区分	24年度	25年度	26年度	訪問看護件数	2,143	2,698	2,751	(うち複数訪問)	390	369	344	B	(実績に対する評価) 「精神科急性期ケアマネジメント」を継続実施し、救急・急性期患者を積極的に受入れ、また、訪問看護回数も対前年同期比で増加している。 (課題) 長期 (1年以上) 入院患者数は16人増加したが、平成26年度の平均在院日数は、ほぼ前年度並みであった。 引き続き、救急・急性期患者の受入れを強化するとともに、在宅医療支援の強化により、長期在院患者の退院促進を図り、平均在院日数の短縮化を目指す。そのためには、患者や家族等との調整役となるケースワーカー (精神保健福祉士) の充実が必要である。
区分	24年度	25年度	26年度																																		
平均在院日数	108.1	116.0	116.6																																		
平均在院日数 (医療観察法による患者を除く)	100.9	108.2	108.1																																		
区分	24年度	25年度	26年度																																		
1年以上入院	55	45	61																																		
区分	24年度	25年度	26年度																																		
訪問看護件数	2,143	2,698	2,751																																		
(うち複数訪問)	390	369	344																																		

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置

中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		備考	
				ことば	自己評価		
第1 1 医療の提供	I 1 (3) オ	20	言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他の充実を図る。	リハ実施実績 (単位：単位) 区分 H24 H25 H26 理学療法 16,719 17,617 20,414 作業療法 6,377 6,972 7,317 言語聴覚療法 8,008 7,883 8,180 計 31,104 32,472 35,911 ※H27.3末時点	A	(実績に対する評価) リハビリ件数は年々増加傾向にあり、発達障害等のリハビリ需要の増加に対応した。 (課題) 専任のリハビリテーション医を確保することが課題である。	
	I 1 (3) カ	21	遺伝子診断・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	当該診療に対応するため、先進事例の見学及び院内の関係する部署間の調整を経て遺伝子診療科の立ち上げを行った。	A	(実績に対する評価) 院内関係部署の調整を行い、遺伝子診療科を立ち上げることができた。 (課題) 当科の存在を広く県民に広報することが必要である。	
	I 1 (3) キ	22	認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。また、発達障害については、鑑別診断や治療を実施するとともに、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施については現状では困難な状況にある。	B	(実績に対する評価) 現状では困難な状況にある。 (課題) 当該診療に関わるスタッフを確保することが課題である。	
			23	・症状が重篤な認知症患者を受入れるための、精神科救急・急性期医療体制を確保する。 ・認知症への理解を深めるための専門外来講演会等を開催する。	精神医療公開講座開催状況 (単位：人) 区分 講座内容 開催月 参加者 一般県民向け 精神医療福祉ボランティア養成 H26.6 15 ・広報紙「ぬくもり」の発行(年4回 発行部数 500部/回)	A	(実績に対する評価) 今年度は、一般県民を対象とした講座を1回開催した。 また、ホームベージュや広報誌を活用し、新たな情報を随時提供することができた。 (課題) 今年度は1回の公開講座を開催したが、院外からの参加者が伸び悩んだ。今後は、特に院外からの参加者を増やすための検討が必要である。
			24	発達障害については、従来からの新生児退院診察や、新生児包括外来における低体重出生児の発達フォローを継続し、保護者向けのベアレントトレーニングについても継続して取り組む。	・医師や保育士を中心に、発達障害児を持つ保護者を対象としたベアレント・トレーニングを計10回実施した。 ・新生児退院診察を週1回実施した。 ・新生児包括外来における低出生体重児の発達フォローを隔週1回実施した。	A	(実績に対する評価) ベアレント・トレーニング、新生児退院診察、低出生体重児の発達フォローを継続的に実施した。 (課題) 年々増加する発達障害の外来受診に対応するため、各医療機関との連携を強化する必要がある。
		25	高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一線の病院であり続けるために、低侵襲治療や高度な治療への対応の強化(ハートブリック手術室の整備、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充)など、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設及び機器等の充実に取り組む。	・第2期中期計画期間に合わせて策定された施設整備計画に基づいて施設及び機器等の整備を実施した。 ・計画的に実施する一方で、策定時から情勢の変化があった場合には計画の見直しを図った。 H26 施設及び機器等の整備状況 (単位：千円) 区分 施設整備 26当期 26実績 中期計画 26当期 26実績 総合 1,482,766 1,482,766 1,141,328 1,849,080 898,932 こころ 346,863 346,863 119,167 90,549 90,549 70,954 こども 622,476 622,476 525,391 514,139 514,139 438,613 合計 2,452,105 2,452,105 1,785,888 2,453,768 1,408,499	A	(実績に対する評価) 総合の医療機器等の購入及びこころの施設整備について、実施時期を見直したことにより、26年度執行額が当初予算よりも大幅に下ることになったが、内容を精査した結果であり、事業実施は問題なく行われている。 こどもの新外来棟については、予定通り平成27年2月に完成した。 (課題) 今後も策定時からの情勢変化があることが想定されることから、より内容を精査して事業を実施する必要がある。	

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	第1 1 医療の提供	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		自己評価 説明	備考															
					業務の実績	業務の実績																	
		<p>県立総合病院診療事業 県内医療機関の中核的病院として、各疾患に対する総合的な医療をはじめ、3大疾患（心疾患、脳血管疾患、がん）に対する高度・専門医療や救急・急性期医療等を提供する。各診療事業を推進するため、医師・看護師確保に取り組み、県民に提供する医療<業務の予定量></p> <p>病床数 720床（670床） 一般病床 620床 結核病床 100床（50床） 外来患者 407,467人 入院患者 215,735人 （ ）は、稼働病床数 休床中の結核病床50床を廃止するとともに、一般病床42床を増床するたための改修を行う。次年度に一般病床を662床へ増床するためのスタッフの確保を図る。</p>																					
		<p>循環器疾患患者に対して循環器病センター機能を生かした24時間体制による高度な専門的治療を提供する体制の充実</p> <p>①重症心不全疾患の患者に対して冠動脈疾患集中治療室（CCU）機能を最大限に生かした高度な専門的治療の提供</p> <p>②急性心筋梗塞、脳卒中発症患者に対応する24時間救急受入体制の強化</p> <p>③循環器関連診療科の有機的な連携によるチーム医療の推進</p> <p>④ハイブリッド手術室の整備によるステントグラフト治療等の高度専門医療の提供</p>	26	<p>総合</p> <p>当直等の勤務体系を考慮した冠動脈疾患集中治療室（CCU）を中心に24時間365日体制を構築し、高度専門診療を提供する。</p>	<p>総合</p> <p>・循環器病センター3階のCCU/ICUを24時間体制（看護配置2：1）で10床稼働している。 ・循環器科医師2名の退職があったが、嘱託医師医師を含め4名の増員があり、体制確保に努めている。 ・心臓リハビリについての充実を図り、施設基準においてもIIからIへのランクアップを実現した。</p> <p>CCU/ICU稼働率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>93.4</td> <td>96.1</td> <td>100.5</td> </tr> <tr> <td>入室患者数(人)</td> <td>784</td> <td>717</td> <td>738</td> </tr> <tr> <td>1日平均(人)</td> <td>11.6</td> <td>10.1</td> <td>10.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>退院・転出を含める</p>	区分	24年度	25年度	26年度	稼働率(%)	93.4	96.1	100.5	入室患者数(人)	784	717	738	1日平均(人)	11.6	10.1	10.1	<p>(実績に対する評価) 循環器内科は循環器病センターの機能を活かして稼働している。 (課題) 高度医療機器の活用をより促進する。 循環器医師のさらなる確保について努力する。</p>	
区分	24年度	25年度	26年度																				
稼働率(%)	93.4	96.1	100.5																				
入室患者数(人)	784	717	738																				
1日平均(人)	11.6	10.1	10.1																				
		<p>脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。</p>	27	<p>総合</p> <p>脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。</p>	<p>総合</p> <p>脳卒中地域連携診療計画管理料 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>33</td> <td>36</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table>	区分	24年度	25年度	26年度	算定件数	33	36	32	<p>(実績に対する評価) 脳血管疾患治療等の推進が期待できる体制が整いつつある。 (課題) 医師の確保とともに、血管内治療のできる専門医も確保する必要がある。引き続き、医師、看護師、リハビリスタッフの確保に努力し、S・C・U等脳卒中救急患者受入体制の更なる整備を図りたい。</p>									
区分	24年度	25年度	26年度																				
算定件数	33	36	32																				
		<p>生活習慣病を総合的血管疾患としてとらえ、循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療の推進を図る。</p>	28	<p>総合</p> <p>生活習慣病を総合的血管疾患としてとらえ、循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療の推進を図る。</p>	<p>総合</p> <p>関係科の医師及びびコメディカルによる合同検討会(総合血管チームカンファレンス)を開催し、スタッフが協力して患者の治療にあたるチーム医療の連携を推進している。</p>	<p>(実績に対する評価) チーム医療の推進に向けての検討を進めることができた。 (課題) クリニカルパスなどを活用し、スムーズに連携できる方策を探る。</p>																	
		<p>ハイブリッド手術室を運用する体制を整備し、高度専門医療を提供する。</p>	29	<p>総合</p> <p>10月より稼働開始となった。 平成26年度の使用件数は76件</p>	<p>総合</p> <p>10月からハイブリッドオペレーティング室を運用し、先進医療に取り組んでいる。</p>	<p>(実績に対する評価) 10月からハイブリッドオペレーティング室を運用し、先進医療に取り組んでいる。</p>																	

中期計画 第1 泉民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画 第1 1 医療の提供	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		備考																					
				自己評価 説明	備考																						
I 1 (3) ケ (ア)	がん疾患患者に対して地域がん診療連携拠点病院としての高度な集学的治療を提供する体制の充実及び地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療の提供 ①手術治療、放射線治療、化学療法治療にかかるとがん診療体制の充実 ②地域の医療機関等との連携による緩和ケアや終末期ケアの推進 ③がん相談及び情報提供機能の強化 ④ロボット支援手術の活用を泌尿器科領域のみならず婦人科領域へ展開する試み	30	がん患者が受診後速やかに検査や手術を受けられる体制を構築するため、手術室、内視鏡室、放射線科のスタッフを増員する。	総合	<ul style="list-style-type: none"> 麻酔科医2名、消化器内科医3名の増員（H27.4月増）が実現できた。 平成25年12月から手術支援ロボット(ダヴィンチ)を導入し、泌尿器科領域、産婦人科領域において運用している。 	(実績に対する評価) 化学療法、手術、放射線治療とも十分に提供できている。 (課題) 引き続き麻酔科医、放射線科医、消化器内科医の確保に努める。	A																				
		31	外来化学療法センターの拡充と環境整備を行うとともに、スタッフの専門性を向上する。	総合	<ul style="list-style-type: none"> 外来化学療法センターは、専門の認定看護師1名と認定薬剤師4名を配置し、40床のベッドを活用し、安心・安全な治療に貢献している。 平成26年5月厚生労働省より抗がん剤ばく露防止に関する課長通知が出され、現在の抗がん剤調製室の設備改善が必要となった。 現在、新棟中材跡地（化学療法）利用WGを立ち上げ、よりよい設備を目指して検討中である。 	(実績に対する評価) 外来化学療法室の機能拡充により、患者サービスの向上と件数を維持している。 (課題) 引き続き化学療法科の医師の確保に努める。	A																				
		32	地域の医療機関等と連携し、緩和ケアや終末期ケアを推進する。	総合	<ul style="list-style-type: none"> 緩和ケアチーム介入症例数 H24年度339件 H25年度426件 H26年度381件 	(実績に対する評価) がん疾患患者に対して、緩和ケアチームが積極的に介入して、介入数が年々増加している。 (課題) 常勤の精神科医が不在なため、診療報酬に結びついていない。	A																				
		33	がんに関する相談支援の窓口を一本化し、情報の提供・発信の強化を図るため、がん相談窓口のスタッフを増強する。	総合	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">がん相談件数 (単位：件)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん相談</td> <td>1,466</td> <td>1,150</td> <td>2,457</td> <td>3,784</td> </tr> </tbody> </table>	がん相談件数 (単位：件)		区分	23年度	24年度	25年度	26年度	がん相談	1,466	1,150	2,457	3,784	乳がん・がん化学療法の認定看護師各1名も専従で相談対応に当たっている。退院調整看護師も4名が専従で対応している。	A								
		がん相談件数 (単位：件)																									
		区分	23年度	24年度	25年度	26年度																					
がん相談	1,466	1,150	2,457	3,784																							
34	ロボット支援手術の活用を婦人科領域へ展開するため、実施に向けた体制を整備する。	総合	<ul style="list-style-type: none"> H25.1月内視鏡下手術用支援機器加算施設基準取得 H26年度 泌尿器科 31件 産婦人科5件 (臨床研究) 	(実績に対する評価) 着実に実績件数を増やしている。 (課題) 件数の増加と適応疾患の拡大	A																						
35	医師の増員を図るとともに、勤務体系にも配慮した直直・日直体制を整備する。	総合	<ul style="list-style-type: none"> 医師の変則勤務の試行を継続し、当直明けに休める制度を整えた。 H25.7より、救急科医師5名体制（うち専門医2名）により、救命救急センターが稼働した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">医師の変則勤務試行状況 (単位：%)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>該当者(人)</td> <td>1,470</td> <td>1,455</td> <td>1,500</td> <td>1,547</td> </tr> <tr> <td>利用者(人)</td> <td>758</td> <td>798</td> <td>810</td> <td>924</td> </tr> <tr> <td>利用率(%)</td> <td>51.6</td> <td>54.8</td> <td>54.0</td> <td>59.7</td> </tr> </tbody> </table>	医師の変則勤務試行状況 (単位：%)		区分	23年度	24年度	25年度	26年度	該当者(人)	1,470	1,455	1,500	1,547	利用者(人)	758	798	810	924	利用率(%)	51.6	54.8	54.0	59.7	(実績に対する評価) 救急委員会を中心に効果的な制度設計を検討し救急患者の受入体制を維持しており、中期目標が十分達成されている。 (課題) ・医師の負担軽減策を検討する。 ・救命救急センターの運営が円滑に行われるように取り組む必要がある。	A
医師の変則勤務試行状況 (単位：%)																											
区分	23年度	24年度	25年度	26年度																							
該当者(人)	1,470	1,455	1,500	1,547																							
利用者(人)	758	798	810	924																							
利用率(%)	51.6	54.8	54.0	59.7																							
36	救急車の受入を確実にできる診療体制を維持する。	総合	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">救急車受入率 (単位：%)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当番日</td> <td>98.1</td> <td>98.2</td> <td>97.4</td> <td>94.2</td> </tr> <tr> <td>全日</td> <td>91.3</td> <td>92.2</td> <td>91.9</td> <td>89.3</td> </tr> </tbody> </table>	救急車受入率 (単位：%)		区分	23年度	24年度	25年度	26年度	当番日	98.1	98.2	97.4	94.2	全日	91.3	92.2	91.9	89.3	(実績に対する評価) 救急車の受入を断らない体制が維持されている。 (課題) さらに救急科医師・看護師確保に努める。	A					
救急車受入率 (単位：%)																											
区分	23年度	24年度	25年度	26年度																							
当番日	98.1	98.2	97.4	94.2																							
全日	91.3	92.2	91.9	89.3																							

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置

中期計画	第1 1 医療の提供	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		備考																																
					自己評価 説明	備考																																	
		<p>県立こころの医療センター診療事業 県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療を提供するとともに、精神科救急・急性期医療や、他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図る。 県民に提供する医療<業務の予定量> 病床数 280床(180床) 精神病床 280床(180床) 外来患者 40,233人 入院患者 54,372人 ()は、稼働病床数</p>			<p>業務の実績</p> <p>・県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応した。 ・当センター広報誌「ぬくもり」への掲載頻度を増やし、広報に努めた。 ・当センターホームページに「精神科救急ダイヤル」に関する情報を掲載し周知を図った。</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="4">精神科救急ダイヤル件数 (単位:件)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> <tr> <td>全相談件数</td> <td>2,458</td> <td>2,462</td> <td>2,605</td> </tr> <tr> <td>うち時間外</td> <td>1,951</td> <td>1,967</td> <td>2,049</td> </tr> </table>	精神科救急ダイヤル件数 (単位:件)				区分	24年度	25年度	26年度	全相談件数	2,458	2,462	2,605	うち時間外	1,951	1,967	2,049	<p>(実績に対する評価) 県内全域を対象とし、患者、家族だけでなく、医療機関や関係施設等々からの相談に対応した。精神科救急ダイヤルとしての責務を果たした。 また、相談件数も前年より増加しており、広報活動の成果が表れている。 (課題) 相談件数はこれまでで最も多くなっているが、今後もこの状態を維持するため一層の周知を図る。</p>																	
精神科救急ダイヤル件数 (単位:件)																																							
区分	24年度	25年度	26年度																																				
全相談件数	2,458	2,462	2,605																																				
うち時間外	1,951	1,967	2,049																																				
		<p>37</p>	<p>こころ</p> <p>24時間体制で精神科救急医療相談に対応し患者を受入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰でききるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。</p>	<p>こころ</p> <p>早期治療、早期退院の実践により、救急病棟(南2)、急性期治療病棟(北2)における「新規患者率」、「新規患者3ヶ月以内入院移行率」はそれぞれの施設基準を満たしている。</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="4">新規患者率 (単位:%)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>施設基準</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> <tr> <td>救急</td> <td>南2 40%以上</td> <td>85.8</td> <td>77.4</td> <td>72.6</td> </tr> <tr> <td>急性期→救急</td> <td>北2 40%以上</td> <td>60.9</td> <td>68.0</td> <td>70.9</td> </tr> </table> <p>新規患者3ヶ月以内入院移行率 (単位:%)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>施設基準</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> <tr> <td>救急</td> <td>南2 60%以上</td> <td>80.2</td> <td>82.0</td> <td>77.5</td> </tr> <tr> <td>急性期→救急</td> <td>北2 40%以上</td> <td>72.3</td> <td>78.0</td> <td>82.4</td> </tr> </table>	新規患者率 (単位:%)				区分	施設基準	24年度	25年度	26年度	救急	南2 40%以上	85.8	77.4	72.6	急性期→救急	北2 40%以上	60.9	68.0	70.9	区分	施設基準	24年度	25年度	26年度	救急	南2 60%以上	80.2	82.0	77.5	急性期→救急	北2 40%以上	72.3	78.0	82.4	<p>(実績に対する評価) 急性期病棟であった北2病棟が25.5月から急性期病棟に格上げされ、診療報酬単価は上昇したが、その分、「新規患者3ヶ月以内入院移行率」が40%から60%へと引き上げられた。しかし、施設基準の水準が厳しくなった。しかし、両病棟ともこの基準を満たすことができた。 (課題) 急期病棟であった北2病棟の救急病棟への転換を果たしたが、より厳しくなった施設基準を満たすためには、在宅医療支援の充実など退院促進の一層の取組が必要となる。 また、南1病棟の救急バックアップ病棟としての機能を強化するためには、看護職員等の増員が必要である。</p>
新規患者率 (単位:%)																																							
区分	施設基準	24年度	25年度	26年度																																			
救急	南2 40%以上	85.8	77.4	72.6																																			
急性期→救急	北2 40%以上	60.9	68.0	70.9																																			
区分	施設基準	24年度	25年度	26年度																																			
救急	南2 60%以上	80.2	82.0	77.5																																			
急性期→救急	北2 40%以上	72.3	78.0	82.4																																			
		<p>38</p>	<p>こころ</p> <p>新たな入院患者が90日以内に退院できよう促進し、精神科救急入院料の施設基準を維持する。</p>	<p>こころ</p> <p>平成21年7月から開始したm-ECTの治療を本年度も継続して実施しており、実施件数も昨年度より増加している。</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="6">m-ECT実施件数 (単位:人)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>延べ数(件)</th> <th>実施者数</th> <th>南2</th> <th>北2</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>24年度</td> <td>565</td> <td>47</td> <td>44</td> <td>33</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>25年度</td> <td>578</td> <td>56</td> <td>53</td> <td>36</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>836</td> <td>76</td> <td>69</td> <td>55</td> <td>3</td> </tr> </table>	m-ECT実施件数 (単位:人)						区分	延べ数(件)	実施者数	南2	北2	その他	24年度	565	47	44	33	2	25年度	578	56	53	36	1	26年度	836	76	69	55	3	<p>(実績に対する評価) 平成21年7月のm-ECT開始以後、治療件数は順調に増加を続け、今年度は前年度比44.6%増加した。 また、県中部、富士地区でm-ECTを実施しているのは当センターのみであり、中部地区を中心に患者を受け入れられている。 (課題) 麻酔科医については、現在外部より招聘しているが、今後は法人内部での確保を目指す。</p>				
m-ECT実施件数 (単位:人)																																							
区分	延べ数(件)	実施者数	南2	北2	その他																																		
24年度	565	47	44	33	2																																		
25年度	578	56	53	36	1																																		
26年度	836	76	69	55	3																																		
		<p>39</p>	<p>こころ</p> <p>薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、m-ECT(修正型電気けいれん療法)を積極的に実施する。</p>	<p>こころ</p> <p>治療抵抗性の精神疾患患者に対する先進的治療への積極的な取組 ①先進的治療(クロザピン、m-ECT(修正型電気けいれん療法)、心理・社会的治療(心理教育、家族教室等))への取組</p>																																			

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	自己評価	備考																																												
第1 1 医療の提供	治療抵抗性の精神疾患患者に対する先進的治療への積極的な取組 ①先進的治療(クロザピン、m-ECT(修正型電気けいれん療法)、心理・社会的治療(心理教育、家族教室等))への取組	40	治療抵抗性の症例に対する治療として、先端薬物療法(クロザピンなど)を積極的に実施する。	<p>・クロザピンによる治療体制が整い、平成22年4月27日、クロザピル適正使用委員会において、CPMS(クロザピル患者モニタリングサービス)登録機関として承認された。</p> <p>・静岡県内では、浜松医科大学医学部附属病院、聖隷三方原病院に次いで3番目の登録である。</p> <p>・平成23年度に作成したクリニカルパスに基づき、6月から治療を開始し、これまでに25名の患者に投与している。現在19名に対して継続投与中である。</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">登録機関の状況</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>全国</th> </tr> <tr> <td>CPMS登録機関数</td> <td>324</td> </tr> <tr> <td>静岡県</td> <td>6</td> </tr> </table> <p>H27.4.1現在</p>	登録機関の状況		区分	全国	CPMS登録機関数	324	静岡県	6	<p>(実績に対する評価) 平成23年6月から治療を開始し、これまでに25名の患者に投与し、このうち19名が継続治療されている。大きな治療効果が認められる症例も見られるため、今後も患者の安全を確保しつつ治療に取り組む。</p> <p>(課題) クロザピンによる治療は、重篤な副作用も懸念されることから、治療にあたっては副作用回避マニュアルに基づき、十分な安全対策を今後も継続する必要がある。</p>																																					
登録機関の状況																																																		
区分	全国																																																	
CPMS登録機関数	324																																																	
静岡県	6																																																	
		41	心理・社会的治療についての取組を継続実施する。	<p>・平成22年度から取組を始めた認知行動療法プロジェクトを、心理・社会的治療プロジェクトに発展し、認知行動療法に加え、新たに心理教育・家族教室への取り組みを実施している。</p> <p>・研修会の開催(H26.11、H27.1、H27.2) 参加者 165人</p> <p>・治療の実施</p> <p>・心理教育に関する院内研修会を開催</p> <p>平成23年11月から、各病棟等において選定した患者を対象に治療を実施</p>	<p>(実績に対する評価) 退院後の地域における安定した生活の維持、再入院の防止のためには、入院中からの患者への心理教育が重要なことから、プロジェクトを発展させ、病院全体として取り組んでいる。今後は各病棟等において実践することにより、患者の在宅への移行の促進が期待できる。</p> <p>(課題) 心理教育の実践を診療報酬の算定にいかにつなげるかの検討が必要。</p>																																													
	○多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築 ①入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるようになるための、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築	42	在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア(ACIT)チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活を支援する。	<p>・平成21年度に作成したガイドラインに沿って、ACITによる支援を開始した。</p> <p>平成22年2月の支援開始以来延べ17名の支援活動を実施し、うち7名は安定した在宅生活に移行したため支援終了、1名は転院により支援終了、2名は死亡により終了、現在は、入院患者1名、外来患者6名への支援を継続している。</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">ACIT実施状況</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>対象者</th> <th>活動状況</th> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>6人</td> <td>多職種による定期訪問、ケースカンファレンス</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>1人</td> <td>多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス</td> </tr> </table>	ACIT実施状況		区分	対象者	活動状況	外来	6人	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス	入院	1人	多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス	<p>(実績に対する評価) 平成21年度に実施したガイドラインの作成とモデルケースでの検証を受け、ACITとしての活動が開始された。着実に事業は進められている。</p> <p>(課題) 当センターが目指す24時間365日のサポート体制による地域支援を行うには、収益を確保することが重要であり、診療報酬での評価につなげるような働きかけが必要である。</p>																																		
ACIT実施状況																																																		
区分	対象者	活動状況																																																
外来	6人	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス																																																
入院	1人	多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス																																																
	○医療観察法等の司法精神医療への積極的な関与 ①「心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療への、指定医療機関としての積極的な関与	43	医療観察法指定医療機関としての機能を最大限に発揮するため、スタッフのスキルアップを図る。	<p>・平成21年8月より指定入院医療機関として2床で運用を開始。平成23年3月末には12床への増床が完了した。</p> <p>・増床完了後対象患者の受入が進んだ結果、平成23年8月以降はほぼ満床の状態が1年以上続く等高い利用率で推移している。</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">医療観察法収支状況 (単位:千円)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度計画</th> </tr> <tr> <td>延床数(人)</td> <td>4,120</td> <td>4,263</td> </tr> <tr> <td>病床利用率(%)</td> <td>94.1</td> <td>97.3</td> </tr> <tr> <td>入院患者(円/人)</td> <td>50,115</td> <td>50,299</td> </tr> <tr> <td>医療収益</td> <td>207,788</td> <td>214,022</td> </tr> <tr> <td>入院取組</td> <td>206,475</td> <td>214,124</td> </tr> <tr> <td>運営費負担金</td> <td>1,313</td> <td>2,737</td> </tr> <tr> <td>医療費</td> <td>184,053</td> <td>186,124</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>176,286</td> <td>177,905</td> </tr> <tr> <td>薬品費</td> <td>3,296</td> <td>3,142</td> </tr> <tr> <td>診療材料費</td> <td>663</td> <td>920</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>1,343</td> <td>1,343</td> </tr> <tr> <td>その他経費</td> <td>2,465</td> <td>2,465</td> </tr> <tr> <td>医療収支</td> <td>23,733</td> <td>30,737</td> </tr> </table>	医療観察法収支状況 (単位:千円)		区分	25年度	26年度計画	延床数(人)	4,120	4,263	病床利用率(%)	94.1	97.3	入院患者(円/人)	50,115	50,299	医療収益	207,788	214,022	入院取組	206,475	214,124	運営費負担金	1,313	2,737	医療費	184,053	186,124	人件費	176,286	177,905	薬品費	3,296	3,142	診療材料費	663	920	減価償却費	1,343	1,343	その他経費	2,465	2,465	医療収支	23,733	30,737	<p>(実績に対する評価) 平成21年8月の運用開始以降、法令に添った適正な運用がされている。また、施設の拡充により機能充実が図られ、県内の対象患者の受入れが進み、患者一人一人に対するきめ細やかな治療プログラムの作成による社会復帰に努めた。</p> <p>年間を通じて満床に近い状態が続いており、収支もほぼ当初見込みどおり確保されている。</p> <p>(課題) 施設の拡充に伴い、入院対象者も増加し、その病態も多彩となってくる。よりよい医療を提供するため、スタッフの一層のレベルアップが必要となる。</p>	
医療観察法収支状況 (単位:千円)																																																		
区分	25年度	26年度計画																																																
延床数(人)	4,120	4,263																																																
病床利用率(%)	94.1	97.3																																																
入院患者(円/人)	50,115	50,299																																																
医療収益	207,788	214,022																																																
入院取組	206,475	214,124																																																
運営費負担金	1,313	2,737																																																
医療費	184,053	186,124																																																
人件費	176,286	177,905																																																
薬品費	3,296	3,142																																																
診療材料費	663	920																																																
減価償却費	1,343	1,343																																																
その他経費	2,465	2,465																																																
医療収支	23,733	30,737																																																

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	第1 1 医療の提供	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	自己評価 説明	備考																																								
		<p>県立こども病院診療事業 県内小児医療の中核病院として、一 般医療機関では対応困難な小児患者 に対する高度・専門医療やハイリス ク妊婦に対する周産期医療を提供す る。 県民に提供する医療<業務の予定量 > 病床数 279床 一般病床 243床 精神病床 36床 外来患者 105,234人 入院患者 81,038人</p>	—	—	—	—																																									
		<p>小児重症心疾患患者に対し、24時間 を通して高度な専門的治療を提供す る体制の整備及び小児心疾患治療の 先進的な施設としての専門医等の育 成</p> <p>①小児重症心疾患患者へ24時間対応 による専門的治療の提供体制の整備 ②小児循環器疾患治療スタッフに対 する教育体制の充実や小児集中治療 室 (PICU)、新生児集中治療室 (NICU)及び循環器集中治療室 (CCU)の相互研修の実施を通じた 治療レベルの向上による循環器セン ターの機能を強化 ③心エコー画像のリアルタイム遠隔 診断の実施 ④ハイブリッド手術室の整備 ⑤循環器集中治療室 (CCU) の増 床を検討</p>	44	<p>①CCCUの体制維持 ②PICU、NICUとの連携、相互 研修等を通じ機能を強化する。 ③継続実施と、対象施設拡大について 検討する。 ④ハイブリッド手術室設置のための整 備内容・運用計画の検討、施設改修・ 機器導入を実施する。 ⑤9月を目標にCCCUの12床化 (2 床増床) を実施する。</p>	<p>CCU稼働実績 (単位：人、%)</p> <table border="1"> <tr><td>区分</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><td>入院延患者数</td><td>2,803</td><td>3,307</td><td>3,553</td></tr> <tr><td>実質病床利用率</td><td>90.6</td><td>90.6</td><td>87.2</td></tr> </table> <p>※H27.3末時点</p> <p>カテーター治療実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr><td>区分</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26目標</td><td>H26</td></tr> <tr><td>実施件数</td><td>144</td><td>121</td><td>150</td><td>133</td></tr> </table> <p>※H27.3末時点</p> <p>心エコー画像遠隔診断実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr><td>区分</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26目標</td><td>H26</td></tr> <tr><td>施設数</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>症例数</td><td>16</td><td>15</td><td>18</td><td>9</td></tr> </table> <p>※H27.3末時点</p>	区分	H24	H25	H26	入院延患者数	2,803	3,307	3,553	実質病床利用率	90.6	90.6	87.2	区分	H24	H25	H26目標	H26	実施件数	144	121	150	133	区分	H24	H25	H26目標	H26	施設数	4	4	4	4	症例数	16	15	18	9	<p>ハイブリッド手術室の手術件数6件 (H26実績)</p>	<p>(実績に対する評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CCCUの入院延患者数は前年度を上回っ た。 ・9月からCCCUを12床化した。 ・カテーター治療件数は前年度を上回った。 ・12月からハイブリッド手術室を稼働した。 (課題) ・ハイブリッド手術の小児への適応を今後検 証する。 			
区分	H24	H25	H26																																												
入院延患者数	2,803	3,307	3,553																																												
実質病床利用率	90.6	90.6	87.2																																												
区分	H24	H25	H26目標	H26																																											
実施件数	144	121	150	133																																											
区分	H24	H25	H26目標	H26																																											
施設数	4	4	4	4																																											
症例数	16	15	18	9																																											
		<p>地域の医療機関と連携したハイリス ク胎児・妊婦を早期に把握、治療す るための一貫した医療システムの維 持・充実と新生児に対しての高度な 専門的治療を提供する体制の拡充 ①すべてのハイリスク出産に対応で きるシステム作り ②新生児科の体制拡充 ③先天異常の出生前超音波診断や、 出生後の管理・処置のための機器整 備 ④新生児集中治療室 (NICU) における 低侵襲手術の実施</p>	45	<p>①地域の産科医療機関との前方・後方 連携を更に強化、症例検討会・研修会 を通じ産科医の診断能力向上を図る。 ②看護師確保に努め新生児集中治療室 (NICU)の増床を検討する。 ③最新式の超音波診断装置を導入す る。 ④NICU内での低侵襲手術の継続</p>	<p>NICU-GCU稼働実績 (単位：人、%)</p> <table border="1"> <tr><td>区分</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><td>入院延患者数</td><td>10,581</td><td>10,910</td><td>10,856</td></tr> <tr><td>実質病床利用率</td><td>87.8</td><td>86.8</td><td>85.3</td></tr> </table> <p>※H27.3末時点</p> <p>H26地域医療機関を対象とした研修会等の開催実績 (課題)</p> <table border="1"> <tr><td>開催日</td><td>名称</td><td>対象</td><td>人数 (人)</td></tr> <tr><td>4月26日</td><td>中部周産期症例検討会</td><td>医師</td><td>39</td></tr> <tr><td>7月29日</td><td>中部周産期症例検討会</td><td>医師</td><td>37</td></tr> <tr><td>10月18日</td><td>中部周産期症例検討会</td><td>医師</td><td>23</td></tr> <tr><td>12月1日</td><td>中部周産期症例検討会</td><td>医師</td><td>11</td></tr> <tr><td>1月27日</td><td>中部周産期症例検討会</td><td>医師</td><td>28</td></tr> <tr><td>3月14日</td><td>中部周産期セミナー</td><td>医師、看護士</td><td>20</td></tr> </table> <p>※H27.3末時点</p>	区分	H24	H25	H26	入院延患者数	10,581	10,910	10,856	実質病床利用率	87.8	86.8	85.3	開催日	名称	対象	人数 (人)	4月26日	中部周産期症例検討会	医師	39	7月29日	中部周産期症例検討会	医師	37	10月18日	中部周産期症例検討会	医師	23	12月1日	中部周産期症例検討会	医師	11	1月27日	中部周産期症例検討会	医師	28	3月14日	中部周産期セミナー	医師、看護士	20	<p>(実績に対する評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NICU及びGCUの稼働状況はほぼ前年 度並だった。 ・地域医療機関を対象とした研修会、検討会 の開催について、病院をあげて取り組み、地 域医療のレベルアップに寄与した。 (課題) ・高度な新生児医療を担っているため今後も 入院需要が高まることが予想され、医療ス タッフ (特に看護師) の確保が今後とも必要 である。 ・NICUの許可病床18床をフル稼働する予 定である。 	
区分	H24	H25	H26																																												
入院延患者数	10,581	10,910	10,856																																												
実質病床利用率	87.8	86.8	85.3																																												
開催日	名称	対象	人数 (人)																																												
4月26日	中部周産期症例検討会	医師	39																																												
7月29日	中部周産期症例検討会	医師	37																																												
10月18日	中部周産期症例検討会	医師	23																																												
12月1日	中部周産期症例検討会	医師	11																																												
1月27日	中部周産期症例検討会	医師	28																																												
3月14日	中部周産期セミナー	医師、看護士	20																																												
		<p>小児がん診療の連携拠点病院とし て、高度な集学的治療への積極的な 取組 ①小児がんの集学的治療推進、セカ ンドオピニオンの受入れなど、静岡 県小児がん拠点病院としての機能強 化 ②院内がん登録の推進 ③県立静岡がんセンターとの連携強 化</p>	46	<p>・静岡県小児がん拠点病院として血液 腫瘍に対しては、骨髄・末梢血幹細 胞・臍帯血移植などの治療法を利用し て対応する。 ・小児がん連携拠点病院を視野 に、小児がん連携拠点病院の指定を視野 にいたれた体制の強化 ・県立静岡がんセンターとの共同カン プアレンスの実施</p>	<p>造血幹細胞移植実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr><td>区分</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><td>骨髄移植</td><td>7</td><td>9</td><td>9</td></tr> <tr><td>臍帯血</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>自家末梢血</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>同種末梢血</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>計</td><td>11</td><td>13</td><td>13</td></tr> </table> <p>※H27.3末時点</p>	区分	H24	H25	H26	骨髄移植	7	9	9	臍帯血	1	1	1	自家末梢血	3	2	2	同種末梢血	0	1	1	計	11	13	13	<p>(実績に対する評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内小児がん患者のほとんどに対応し、固 形がんについても脳神経外科等他科との連携 のもと対応した。 (課題) ・がん登録の推進。 ・細胞処理室の整備を検討中である。 																	
区分	H24	H25	H26																																												
骨髄移植	7	9	9																																												
臍帯血	1	1	1																																												
自家末梢血	3	2	2																																												
同種末梢血	0	1	1																																												
計	11	13	13																																												

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	自己評価	備考																								
第1 1 医療の提供	24時間を通して重篤な小児救急患者を受け入れる体制の維持及び地域で不足する小児救急医療体制の補完等、小児救急医療のモデルとなる体制整備 ①院内各専門領域のバックアップによる、小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした小児救急医療全般にわたる受入体制の強化、拡充 ②小児救命救急センターとしてメデイカルコントロール体制整備への協力 ③小児救急専門スタッフの教育の充実	47	・PICU（小児集中治療センター）・救急総合診療科を中心として小児救急医療体制の強化を図る。 ・小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした、365日24時間小児救急患者の受入可能な体制を維持、充実させる。 ・院内の小児救急専門スタッフ（医師、看護師）育成と院外からの研修受入	<p>業務の実績</p> <p>・小児集中治療センター（PICU）及び小児救急センター（ER）において、24時間小児救急患者の受入可能な体制を整備した。</p> <p>PICU稼働実績 （単位：人、%）</p> <table border="1"> <tr><td>区分</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><td>入院延患者数</td><td>2,582</td><td>2,568</td><td>2,502</td></tr> <tr><td>実質病床利用率</td><td>89.9</td><td>84.9</td><td>85.4</td></tr> </table> <p>※H27.3末時点</p> <p>ER稼働実績 （単位：人）</p> <table border="1"> <tr><td>区分</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><td>入院患者数</td><td>395</td><td>1,424</td><td>1,734</td></tr> <tr><td>外来患者数</td><td>2,368</td><td>3,995</td><td>4,792</td></tr> </table> <p>※H27.3末時点</p> <p>・平成26年度のドクターヘリによる患者受入数は70件（うちPICU46件）。</p>	区分	H24	H25	H26	入院延患者数	2,582	2,568	2,502	実質病床利用率	89.9	84.9	85.4	区分	H24	H25	H26	入院患者数	395	1,424	1,734	外来患者数	2,368	3,995	4,792	<p>（実績に対する評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児集中治療センターは全国で8箇所しかない小児救命救急センターとして指定され、交通外傷も含めた3次救急の患者を24時間受け入れた。 ・小児救命救急センターでは、主に1次と2次の患者を24時間受け入れた。 （課題） 小児救命救急センターの構築と検証。 	
区分	H24	H25	H26																											
入院延患者数	2,582	2,568	2,502																											
実質病床利用率	89.9	84.9	85.4																											
区分	H24	H25	H26																											
入院患者数	395	1,424	1,734																											
外来患者数	2,368	3,995	4,792																											
	子ども	48	患者の重症度に応じた地域の医療機関との機能分担を推進するため、地域との救急医療機関や消防機関との検討会を定期的に開催する。	<p>業務の実績</p> <p>静岡県小児救命救急研究会を年2回主催し、医師、看護師、救急隊員を指導、県下の小児救急医療・集中治療の質の向上、施設間の交流を図った。</p> <p>救急関係研修会等開催実績 （単位：人）</p> <table border="1"> <tr><td>区分</td><td>対象</td><td>参加者数</td></tr> <tr><td>小児救命救急研究会</td><td>小児医療、救急医療関係者</td><td>210</td></tr> <tr><td>救急救急士再教育病院実習</td><td>救急救急士</td><td>9</td></tr> <tr><td>PALS（小児の2次救命処置）研修会</td><td>医師、看護師、救急隊員</td><td>30</td></tr> </table> <p>※H27.3末時点</p> <p>外来患者、入院患者ともにほぼ前年度並だった。</p>	区分	対象	参加者数	小児救命救急研究会	小児医療、救急医療関係者	210	救急救急士再教育病院実習	救急救急士	9	PALS（小児の2次救命処置）研修会	医師、看護師、救急隊員	30	<p>（実績に対する評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡県小児救命救急研究会の開催により、救急救急士の技術向上、県内医師、看護師、救急救急士の研修会・研究会・実習を開催した。 （課題） 救急の知識・技術を知ってもらうため、今後も研究会への参加を呼びかける。 													
区分	対象	参加者数																												
小児救命救急研究会	小児医療、救急医療関係者	210																												
救急救急士再教育病院実習	救急救急士	9																												
PALS（小児の2次救命処置）研修会	医師、看護師、救急隊員	30																												
	子ども	49	県内の児童精神科医療の中核機関として、外来・入院治療の充実を図る。	<p>業務の実績</p> <p>こころの診療科稼働実績 （単位：人）</p> <table border="1"> <tr><td>区分</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><td>入院延患者数</td><td>10,206</td><td>10,688</td><td>10,546</td></tr> <tr><td>外来延患者数</td><td>11,583</td><td>12,188</td><td>12,331</td></tr> </table> <p>※H27.3末時点</p>	区分	H24	H25	H26	入院延患者数	10,206	10,688	10,546	外来延患者数	11,583	12,188	12,331	<p>（実績に対する評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度の開設以来、関係機関への周知が浸透したことにより新規患者はそれほど増えていないが、延患者数は入院・外来ともにほぼ前年度並だった。 （課題） 発達障害に係る受診が増大しており、外来診療の負担増となっている。発達小児科や神経科とともに、今後の診療体制を検討する必要がある。 													
区分	H24	H25	H26																											
入院延患者数	10,206	10,688	10,546																											
外来延患者数	11,583	12,188	12,331																											
	子ども	50	厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県の中核病院として参加する。	<p>業務の実績</p> <p>H26精神保健講座等開催実績 （単位：人）</p> <table border="1"> <tr><td>区分</td><td>対象</td><td>参加者数等</td></tr> <tr><td>精神保健講座</td><td>5回</td><td>196人</td></tr> <tr><td>児童養護施設巡回相談</td><td>20回</td><td>10施設</td></tr> </table> <p>※H27.3末時点</p>	区分	対象	参加者数等	精神保健講座	5回	196人	児童養護施設巡回相談	20回	10施設	<p>（実績に対する評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業参加している全国16都県の拠点病院の一つとして参加した。 ・急増する子どもの心の問題に関するネットワーク構築のため、学校・地域との連携強化に努めた。 （課題） H26精神保健講座等開催実績 更なるネットワーク構築のため、学校や児童養護施設等の地域の関係機関と引き続き連携強化に努める。 																
区分	対象	参加者数等																												
精神保健講座	5回	196人																												
児童養護施設巡回相談	20回	10施設																												
	子ども	51	児童精神科医の育成	<p>業務の実績</p> <p>児童精神科臨床研修を実施し、児童精神科医の育成および県内外への児童精神科医の供給を図るため、有期職員医師を採用し、育成した。</p> <p>有期職員医師採用実績 （単位：人）</p> <table border="1"> <tr><td>区分</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><td>採用人数</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr> </table>	区分	H24	H25	H26	採用人数	1	1	1	<p>（実績に対する評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度は有期職員医師1名採用し、当院で高度な児童精神科医療を学ばせ、育成した。 																	
区分	H24	H25	H26																											
採用人数	1	1	1																											

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画 第1	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		備考																																																																																																																																										
				自己評価 説明	備考																																																																																																																																											
2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	1 2	52	業務運営に必要な人材の確保に努める。	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="3">(単位:人)</th> </tr> <tr> <th>H25.4.1</th> <th>H26.4.1</th> <th>H27.4.1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>644</td> <td>652</td> <td>673</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>37</td> <td>45</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>放射線技師</td> <td>43</td> <td>45</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>臨床検査技師</td> <td>48</td> <td>52</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td>理学療法士</td> <td>18</td> <td>20</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>臨床工学技師</td> <td>13</td> <td>17</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>心理療法士</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>言語聴覚士</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>		区分	(単位:人)			H25.4.1	H26.4.1	H27.4.1	看護師	644	652	673	薬剤師	37	45	48	放射線技師	43	45	43	臨床検査技師	48	52	51	理学療法士	18	20	23	臨床工学技師	13	17	21	心理療法士	0	1	4	言語聴覚士	3	3	4	B	積極的な取り組みを行っているが、看護師は必要数を確保できていない。引き続き看護師確保に努める。																																																																																																		
				区分	(単位:人)																																																																																																																																											
H25.4.1	H26.4.1	H27.4.1																																																																																																																																														
看護師	644	652	673																																																																																																																																													
薬剤師	37	45	48																																																																																																																																													
放射線技師	43	45	43																																																																																																																																													
臨床検査技師	48	52	51																																																																																																																																													
理学療法士	18	20	23																																																																																																																																													
臨床工学技師	13	17	21																																																																																																																																													
心理療法士	0	1	4																																																																																																																																													
言語聴覚士	3	3	4																																																																																																																																													
53	研修医の確保に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・H24初期研修医 1年生 18人(うち自治医3人)、2年生 14人(うち自治医3人) ・H25初期研修医 1年生 19人(うち自治医2人)、2年生 17人(うち自治医3人) ・H26初期研修医 1年生 21人(うち自治医2人)、2年生 22人(うち自治医2人) ・H27初期研修医 1年生 20人(うち自治医2人)、2年生 22人(うち自治医2人) 	A	(実績に対する評価) 研修医の確保については、積極的に取り組んできた結果、一般プログラム18名、小児科プログラム1名のマッチングとなった。研修医数は年々増加傾向にある。 (課題) 質が高く研修医に選ばれる研修の仕組みを確立する。																																																																																																																																												
54	即時的で効果的な人材を確保するため、採用試験を適宜実施する。	<p>25年度の看護師採用試験において、総合病院への採用数が減少したことから、看護師紹介会社を通じた採用を開始し、26年度において9名の正規看護師の採用が決定した。</p> <p>正規職員の確保状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">H25.4.1</th> <th colspan="2">H26.4.1</th> </tr> <tr> <th>必要数</th> <th>実働数</th> <th>必要数</th> <th>実働数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>126</td> <td>124</td> <td>126</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>606</td> <td>611</td> <td>625</td> <td>606</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>172</td> <td>179</td> <td>185</td> <td>192</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>39</td> <td>38</td> <td>40</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>943</td> <td>952</td> <td>976</td> <td>969</td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>15</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>115</td> <td>112</td> <td>115</td> <td>114</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>26</td> <td>24</td> <td>26</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>169</td> <td>161</td> <td>169</td> <td>166</td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>98</td> <td>90</td> <td>100</td> <td>91</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>377</td> <td>395</td> <td>402</td> <td>416</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>80</td> <td>77</td> <td>80</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>29</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>584</td> <td>590</td> <td>611</td> <td>610</td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>27</td> <td>26</td> <td>28</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>239</td> <td>226</td> <td>241</td> <td>235</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>1,099</td> <td>1,119</td> <td>1,143</td> <td>1,137</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>278</td> <td>281</td> <td>291</td> <td>293</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>108</td> <td>105</td> <td>110</td> <td>109</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,724</td> <td>1,731</td> <td>1,785</td> <td>1,774</td> </tr> </tbody> </table>			H25.4.1		H26.4.1		必要数	実働数	必要数	実働数	総合					医師	126	124	126	130	看護師	606	611	625	606	コメディカル	172	179	185	192	事務	39	38	40	41	計	943	952	976	969	医師	15	12	15	14	看護師	115	112	115	114	コメディカル	26	24	26	25	事務	13	13	13	13	計	169	161	169	166	医師	98	90	100	91	看護師	377	395	402	416	コメディカル	80	77	80	75	事務	29	28	29	28	計	584	590	611	610	医師	1	1	1	1	看護師	1	1	1	1	コメディカル	1	1	1	1	事務	27	26	28	27	計	28	28	29	29	医師	239	226	241	235	看護師	1,099	1,119	1,143	1,137	コメディカル	278	281	291	293	事務	108	105	110	109	計	1,724	1,731	1,785	1,774	A	(実績に対する評価) 看護師試験については、新たに経験者随時募集試験を実施し、年間で切れ目のない募集を実施している。 コメディカルについては、病院見学の申し込みをホームページから問い合わせ可能にしている。 事務職については、内定者のフォローとして夏期アルバイトの実施などを行った。 経験者募集については業界紙に求人を出し、応募者を確保した。 (課題) 採用応募者の更なる増加等のため、効果的に周知等を行うよう工夫を図る必要がある。
			H25.4.1		H26.4.1																																																																																																																																											
必要数	実働数		必要数	実働数																																																																																																																																												
総合																																																																																																																																																
医師	126	124	126	130																																																																																																																																												
看護師	606	611	625	606																																																																																																																																												
コメディカル	172	179	185	192																																																																																																																																												
事務	39	38	40	41																																																																																																																																												
計	943	952	976	969																																																																																																																																												
医師	15	12	15	14																																																																																																																																												
看護師	115	112	115	114																																																																																																																																												
コメディカル	26	24	26	25																																																																																																																																												
事務	13	13	13	13																																																																																																																																												
計	169	161	169	166																																																																																																																																												
医師	98	90	100	91																																																																																																																																												
看護師	377	395	402	416																																																																																																																																												
コメディカル	80	77	80	75																																																																																																																																												
事務	29	28	29	28																																																																																																																																												
計	584	590	611	610																																																																																																																																												
医師	1	1	1	1																																																																																																																																												
看護師	1	1	1	1																																																																																																																																												
コメディカル	1	1	1	1																																																																																																																																												
事務	27	26	28	27																																																																																																																																												
計	28	28	29	29																																																																																																																																												
医師	239	226	241	235																																																																																																																																												
看護師	1,099	1,119	1,143	1,137																																																																																																																																												
コメディカル	278	281	291	293																																																																																																																																												
事務	108	105	110	109																																																																																																																																												
計	1,724	1,731	1,785	1,774																																																																																																																																												

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		備考																																																																																																											
				自己評価	説明																																																																																																												
第1 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	1 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	55	医療従事者確保に向け、就職説明会等を積極的に開催する。	<p>看護学生向け就職説明会 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>会場</th> <th>来場者</th> <th>うち受験者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ナース専科 (静岡)</td> <td>120</td> <td>53</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>ナース専科 (横浜)</td> <td>220</td> <td>13</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>ナース専科 (浜松)</td> <td>101</td> <td>30</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>看護ナビ (静岡)</td> <td>69</td> <td>37</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>ナースナビ (浜松)</td> <td>220</td> <td>85</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>県立大学</td> <td>42</td> <td>27</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>静岡看護専門学校</td> <td>34</td> <td>32</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>聖隷クリストファー大学</td> <td>40</td> <td>19</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>県立大学短期大学部</td> <td>100</td> <td>34</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>東部看護専門学校</td> <td>280</td> <td>95</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>マイナビ (浜松)</td> <td>80</td> <td>39</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>順天堂大学</td> <td>100</td> <td>9</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,406</td> <td>473</td> <td>76</td> </tr> </tbody> </table> <p>企業合同就職説明会(事務)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>来場</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S J C 新春セミナー</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>静大就職展</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>県大企業説明会</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>134</td> </tr> </tbody> </table>		区分	会場	来場者	うち受験者	ナース専科 (静岡)	120	53	11	ナース専科 (横浜)	220	13	0	ナース専科 (浜松)	101	30	0	看護ナビ (静岡)	69	37	6	ナースナビ (浜松)	220	85	5	県立大学	42	27	16	静岡看護専門学校	34	32	3	聖隷クリストファー大学	40	19	7	県立大学短期大学部	100	34	15	東部看護専門学校	280	95	5	マイナビ (浜松)	80	39	4	順天堂大学	100	9	4	計	1,406	473	76	区分	来場	S J C 新春セミナー	70	静大就職展	52	県大企業説明会	12	計	134	<p>・合同就職説明会に参加し、機曾受験者の確保に努めた。</p> <p>・新卒看護師向け求人誌への看護師募集記事の掲載を行った。(H26の状況)</p>	<p>(実績に対する評価)</p> <p>企業主催の説明会については、県外会場等、参加回数を増やし、より多くの看護学生と面接をすることができた。面接した学生のうち採用試験に結びつけることができた者もいたが、県外会場では試験に結びついた者は少なかった。</p> <p>また、養成校主催の説明会へも昨年に引き続き参加をし、今の学生の動向等をつかむことができ</p> <p>A</p> <p>(課題)</p> <p>面接した学生を試験へ結びつけられるよう、説明会後のフォローの充実を図り、より効果的な採用活動を行う。</p> <p>また、看護師充足状況が比較的良好な地域における就職説明会に参加するなど、県外にも募集活動を広げる必要がある。</p>																																								
				区分	会場	来場者	うち受験者																																																																																																										
ナース専科 (静岡)	120	53	11																																																																																																														
ナース専科 (横浜)	220	13	0																																																																																																														
ナース専科 (浜松)	101	30	0																																																																																																														
看護ナビ (静岡)	69	37	6																																																																																																														
ナースナビ (浜松)	220	85	5																																																																																																														
県立大学	42	27	16																																																																																																														
静岡看護専門学校	34	32	3																																																																																																														
聖隷クリストファー大学	40	19	7																																																																																																														
県立大学短期大学部	100	34	15																																																																																																														
東部看護専門学校	280	95	5																																																																																																														
マイナビ (浜松)	80	39	4																																																																																																														
順天堂大学	100	9	4																																																																																																														
計	1,406	473	76																																																																																																														
区分	来場																																																																																																																
S J C 新春セミナー	70																																																																																																																
静大就職展	52																																																																																																																
県大企業説明会	12																																																																																																																
計	134																																																																																																																
第1 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	56	看護師修学資金制度の創設により、看護師確保を図る。	<p>看護師修学資金の状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>決定</td> <td>87</td> <td>73</td> <td>74</td> <td>234</td> </tr> <tr> <td>継続</td> <td>-</td> <td>52</td> <td>80</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>取消</td> <td>▲4</td> <td>▲6</td> <td>▲13</td> <td>▲23</td> </tr> <tr> <td>貸与計</td> <td>83</td> <td>119</td> <td>141</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>採用</td> <td>30</td> <td>38</td> <td>35</td> <td>103</td> </tr> <tr> <td>退職</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>▲2</td> <td>▲2</td> </tr> </tbody> </table>		区分	H24	H25	H26	計	決定	87	73	74	234	継続	-	52	80	-	取消	▲4	▲6	▲13	▲23	貸与計	83	119	141	-	採用	30	38	35	103	退職	-	-	▲2	▲2	<p>(実績に対する評価)</p> <p>一定数の募集が集まり、今後安定的な看護師確保が期待される。</p> <p>A</p> <p>(課題)</p> <p>今年度の実績を踏まえ、効率的・効果的な周知等を行い看護師の確保につなげる。</p>																																																																									
			区分	H24	H25	H26	計																																																																																																										
決定	87	73	74	234																																																																																																													
継続	-	52	80	-																																																																																																													
取消	▲4	▲6	▲13	▲23																																																																																																													
貸与計	83	119	141	-																																																																																																													
採用	30	38	35	103																																																																																																													
退職	-	-	▲2	▲2																																																																																																													
第1 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	57	看護師確保担当による養成校の訪問	<p>看護師確保担当を本部事務部に設置し、県内外の看護師養成校の訪問を行い、募集活動を行うとともに、情報収集を行う。</p> <p>看護師確保担当養成校訪問状況(～27年3月)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">大学</th> <th colspan="2">専門学校</th> <th colspan="2">短期大学</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>1</th> <th>2</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>1</th> <th>2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">県内</td> <td>東部</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>中部</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>西部</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>19</td> <td>3</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>7</td> <td>14</td> <td>7</td> <td>22</td> <td>9</td> <td>50</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">県外</td> <td>佐賀県</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>佐賀県</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>愛知県</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>1</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>長野県</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>9</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>神奈川県</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>14</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>滋賀県</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>岐阜県</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>13</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>34</td> <td>48</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>87</td> <td>199</td> </tr> <tr> <td>県内+県外計</td> <td>39</td> <td>61</td> <td>61</td> <td>6</td> <td>106</td> <td>395</td> </tr> </tbody> </table>		区分	大学		専門学校		短期大学		計	1	2	1	2	1	2	県内	東部	2	4	3	4	1	7	中部	2	5	3	1	5	15	西部	3	3	1	19	3	33	計	7	14	7	22	9	50	90	県外	佐賀県	1	1	2	1	1	6	佐賀県	4	1	6	1	1	13	愛知県	5	8	5	8	1	27	長野県	3	5	5	1	9	23	神奈川県	8	5	5	1	14	33	滋賀県	3	3	7	7	10	30	岐阜県	6	6	5	2	13	32	計	34	48	5	5	87	199	県内+県外計	39	61	61	6	106	395	<p>(実績に対する評価)</p> <p>新たに看護師確保担当を設置し、静岡県内外の看護師養成校を訪問し、県立3病院の特色や強み等について情報を収集し、今後の採用活動に活かすことができる。</p> <p>A</p> <p>(課題)</p> <p>県外については、比較的看護師需給状況が良好な九州・東北地区を中心に訪問を行っているが、今後、確保が見込める地区の選定とPR方法等を検討する必要がある。</p>
			区分	大学		専門学校		短期大学		計																																																																																																							
1	2	1		2	1	2																																																																																																											
県内	東部	2	4	3	4	1	7																																																																																																										
	中部	2	5	3	1	5	15																																																																																																										
	西部	3	3	1	19	3	33																																																																																																										
計	7	14	7	22	9	50	90																																																																																																										
県外	佐賀県	1	1	2	1	1	6																																																																																																										
	佐賀県	4	1	6	1	1	13																																																																																																										
	愛知県	5	8	5	8	1	27																																																																																																										
	長野県	3	5	5	1	9	23																																																																																																										
	神奈川県	8	5	5	1	14	33																																																																																																										
	滋賀県	3	3	7	7	10	30																																																																																																										
岐阜県	6	6	5	2	13	32																																																																																																											
計	34	48	5	5	87	199																																																																																																											
県内+県外計	39	61	61	6	106	395																																																																																																											
第1 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	58	看護師・その他医療従事者等の実習・アルバイト研修等の受入れを推進する。	<p>実習・アルバイト研修等の受入れ (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>医師</th> <th>医学生</th> <th>看護師</th> <th>看護学生</th> <th>コメディカル</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>13</td> <td>235</td> <td>11</td> <td>571</td> <td>82</td> <td>912</td> </tr> <tr> <td>ごころ</td> <td>19</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>202</td> <td>16</td> <td>243</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>77</td> <td>33</td> <td>8</td> <td>294</td> <td>30</td> <td>442</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>109</td> <td>273</td> <td>20</td> <td>1067</td> <td>128</td> <td>1,597</td> </tr> </tbody> </table>		区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計	総合	13	235	11	571	82	912	ごころ	19	5	1	202	16	243	子ども	77	33	8	294	30	442	計	109	273	20	1067	128	1,597	<p>(実績に対する評価)</p> <p>研修の受入に関しては、要請に応じた体制づくりや対応に努めている。</p> <p>(課題)</p> <p>医師、看護師以外の職種についても、受け入れの体制を広げていく必要がある。</p> <p>A</p>																																																																									
			区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計																																																																																																								
総合	13	235	11	571	82	912																																																																																																											
ごころ	19	5	1	202	16	243																																																																																																											
子ども	77	33	8	294	30	442																																																																																																											
計	109	273	20	1067	128	1,597																																																																																																											

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		備考																																												
				自己評価	説明																																													
第1 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	<p>医師の卒後臨床研修の充実・強化等</p> <p>①研修医に選ばれた良質な臨床研修指定病院としての臨床研修機能の充実</p> <p>②医師の技術・知識の向上のための一般研修及び海外研修の充実、海外医師の招聘による研修の充実</p> <p>③県立総合病院メデイカルスキルアップセンターを活用した教育研修の充実、複数病院との共同利用で合同一次・二次救命処置トレーニングの実施</p> <p>④県立こども病院ラーニングセンターの整備</p> <p>⑤国際交流の推進</p> <p>⑥認定看護師等の資格取得への支援</p> <p>⑦コメディカル・事務職員の研修</p>	59	<p>○医師</p> <p>・医師の技術力の向上を目指し、海外研修等を奨励する。</p> <p>・医師の卒後臨床研修等の強化を図り、県立病院に相応しい医療従事者を確実に確保し、充足させる。</p>	<p>研修医の海外研修への参加により、研修内容の充実を図ることができた。</p> <p>海外研修の主な実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>内</th> <th>容</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総 合</td> <td>臨床研修医ICLA研修</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>海外学会(米国胸部疾患学会)</td> <td></td> <td>21</td> </tr> <tr> <td></td> <td>海外病院研修(中国浙江省)</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>シドニー小児病院研修</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>シドニーウエストメッド小児病院研修</td> <td></td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>・海外の学会に治療実績等の発表を行い技術力の高さを示した。</p> <p>・海外研修の報告は、院内には定例医局会・院内連絡会で行われしており、対外的には研修医募集のホームページに掲載している。</p>	区分	内	容	人数	総 合	臨床研修医ICLA研修		4		海外学会(米国胸部疾患学会)		21		海外病院研修(中国浙江省)		2		シドニー小児病院研修		1		シドニーウエストメッド小児病院研修		3	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>医師を対象とした「研究事業費」を充実し、研究や海外研修に必要な予算・制度を整えている。</p> <p>(課題)</p> <p>医師不足、多忙化のため、制度の活用がまだ十分になされていない。</p> <p>研修内容を充実させるためには、専任の教育担当が必要である。</p>																				
			区分	内	容	人数																																												
総 合	臨床研修医ICLA研修		4																																															
	海外学会(米国胸部疾患学会)		21																																															
	海外病院研修(中国浙江省)		2																																															
	シドニー小児病院研修		1																																															
	シドニーウエストメッド小児病院研修		3																																															
60	<p>メデイカルスキルアップセンターの活用による研修の推進を図る。</p>	<p>・研修医や新人ナースは必ずメデイカルスキルアップセンターを使用して研修プログラムにシミュレーターを義務とするなどセンターの活用を取り入れる。</p> <p>・外部利用について、使用規程、料金規程の案を作成し、運用開始した。</p> <p>メデイカルスキルアップセンター利用状況 (単位：回、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">24年度</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> </tr> <tr> <th>回</th> <th>人</th> <th>回</th> <th>人</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>105</td> <td>140</td> <td>40</td> <td>223</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>1,373</td> <td>1,573</td> <td>214</td> <td>2,467</td> <td>170</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>91</td> <td>152</td> <td>39</td> <td>181</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>984</td> <td>1,327</td> <td>222</td> <td>2,404</td> <td>172</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>52</td> <td>86</td> <td>66</td> <td>107</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>870</td> <td>1,575</td> <td>809</td> <td>1,183</td> <td>850</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	24年度	25年度		26年度		回	人	回	人	医師	105	140	40	223	37	参加人数	1,373	1,573	214	2,467	170	看護師	91	152	39	181	33	参加人数	984	1,327	222	2,404	172	その他	52	86	66	107	73	参加人数	870	1,575	809	1,183	850	B	<p>(実績に対する評価)</p> <p>基本手技シミュレーター、蘇生訓練用品、臨床各科訓練用品等を実際に使うことで、医療技術の向上に寄与した。医師の研修プログラムへの取り込みも始まっている。</p> <p>(課題)</p> <p>外部利用の促進のためには、広報等の戦略を練る必要があるが、専任の管理者等がいなかったため、体制整備が必要。</p>
区 分	24年度	25年度			26年度																																													
		回	人	回	人																																													
医師	105	140	40	223	37																																													
参加人数	1,373	1,573	214	2,467	170																																													
看護師	91	152	39	181	33																																													
参加人数	984	1,327	222	2,404	172																																													
その他	52	86	66	107	73																																													
参加人数	870	1,575	809	1,183	850																																													
		61	<p>ラーニングセンター整備内容の検討とそれに基づく施設改修、機器導入を行う。</p>	<p>院内ワーキンググループを立ち上げ、具体的な整備内容を検討中である。</p>	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>施設自体は平成27年度に改修し、機器は順次導入予定である。</p> <p>(課題)</p> <p>今後のワーキンググループ等で、運用方針を具体的に決める必要がある。</p>																																												
			こども	<p>海外視察・講演等の派遣・受入 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>視察・講演等派遣</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>視察・研修等受入</td> <td>2</td> <td>10</td> <td>15</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table>		H23	H24	H25	H26	視察・講演等派遣	2	2	4	1	視察・研修等受入	2	10	15	13	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>日本と海外の医療交流ができた。リーダーシップホスピタルとしての医療貢献ができた。</p> <p>(課題)</p> <p>英訳した県総案内パンフレットの整備</p>																													
	H23	H24	H25	H26																																														
視察・講演等派遣	2	2	4	1																																														
視察・研修等受入	2	10	15	13																																														
		62	<p>海外との視察者等の受け入れや派遣など、国際交流の推進を図る。</p>	<p>外国人研修生(ペルー、中国)視察希望者受入れ</p>	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>外国人研修生に県内の精神科医療における医療現場を学んでもらう良い機会となっている。</p>																																												
			こども	<p>・シドニー・ウエストメッド小児病院から医師を招聘するとともに、当院の研修医をウエストメッド小児病院に派遣した。</p> <p>・第3回Mt. Fuji Network Forumを開催し、海外から小児循環器疾患の専門家を招聘した。</p>	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>海外における最先端の医療技術を学ぶ良い機会となった。</p>																																												

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	自己評価 説明	備考	
第1 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	1 2 (1)		医師の卒後臨床研修の充実・強化等 ①研修医に選ばれた良質な臨床研修指定病院としての臨床研修機能の充実 ②医師の技術・知識の向上のための一般研修及び海外研修の充実、海外医師の招聘による研修の充実 ③県立総合病院メデイカルスキャンアップセンターを活用した教育研修の充実、複数病院との共同利用で合同一次・二次救命処置トレーニングの実施 ④県立こども病院ラーニングセンターの整備 ⑤国際交流の推進 ⑥認定看護師等の資格取得への支援 ⑦eコマメデイカル・事務職員の研修	<ul style="list-style-type: none"> ・専門看護師:がん看護1名、急性・重症患者看護1名 ・認定看護師:救急看護2名、皮膚・排泄ケア1名、手術看護1名、乳がん看護2名、緩和ケア2名、集中ケア2名、透析看護1名、がん化学療法看護1名、感染管理1名、認知症看護1名 ・指導薬剤師1名、日本医療薬学会認定薬剤師3名、認定実務実習指導薬剤師11名、がん薬物療法認定薬剤師3名、感染制御認定薬剤師1名、妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師1名、がん専門薬剤師4名、栄養サポートチーム専門薬剤師3名、抗がん剤認定薬剤師2名、認定CRC2名、禁煙認定専門指導者1名、緩和薬物療法認定薬剤師1名 ・専門理学療法士2名(運動器、内部障害理学療法)指導士2名 ・内部障害理学療法士1名、日本心臓リハビリテーション指導士1名 ・放射線治療専門技放射線技師1名、放射線治療品質管理士1名、PET認定放射線技師8名、救急搬送認定技師1名 ・認定看護師研修に1人受講(精神薬物療法看護) ・平成27年度より、精神科の中で10領域に分かれていたものが「精神科認定看護師」として1本化されるため、院内での育成計画を見直した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認定看護師:皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、緩和ケア1名、新生児集中ケア2名、がん化学療法1名、感染管理2名、小児救急看護1名、手術室看護1名 	<p>(実績に対する評価)</p> <p>感染管理、集中ケア、退院調整等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を各病院に配置することができた。</p> <p>また、資格取得を更に推奨、支援するため、平成26年度より「資格等取得資金貸付制度」を創設し、認定看護師1名、精神認定看護師1名が利用した。</p> <p>(課題)</p> <p>今後は各病院で必要とする認定看護師等の区分と職員が希望する区分についてマッチングを行う。</p>	
		63	○看護師及びその他の医療従事者のスキルアップを図るため、認定看護師の育成のほか医療従事者等の研修等を推進する。 ・認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充することと、資格取得者の増員を図る。	総合			
		64	研修体系プログラムの整備と研修内容の充実を図る。	こども 平成23年度に卒後臨床研修評価機構(JCEP)を受審した結果、4年間の認定を受けた。	A	平成25年度採用から従来的一般プログラムに加え、小児科プログラムを追加し、平成26年度からはさらに産婦人科プログラムを追加した結果、一般・小児科・産婦人科の3プログラムを有することになった。これにより県内でも不足している小児科医および産婦人科医の確保に努めた。 また、平成27年度には卒後臨床研修評価機構(JCEP)を受審予定である。	
		65	柔軟な職員採用や多様な雇用形態・勤務条件の設定を図る。	こども ・法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮し、患者に必要な医療を適切に提供するとともに、経営改善及び職員の勤務条件の改善に取り組んだ。 ・看護師の2交代制勤務については、労働組合と合意し、県立総合病院において平成23年8月1日から制度化した。また、平成23年11月から県立こども病院において試行を開始し、平成24年4月より正式に制度化した。平成24年9月から県立こどもの医療センターにおいて試行を開始し、平成25年1月1日から制度化した。 その後、実施病棟を拡大し、27年3月31日現在で、総合病院10病棟、こどもの医療センター3病棟、こども病院9病棟となっている。 総合病院の救命救急センター開設(平成25年7月)、こども病院の小児ERの開設(平成25年6月)に合わせて、それぞれに医師の変則勤務の試行を開始し、当直医師の負担軽減を図った。	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>県立総合病院、県立こども病院、県立こどもの医療センターにおいて2交代勤務を制度化し、実施病棟の拡大を図っている。</p> <p>総合病院、こども病院において救急体制拡充に伴う、医師の変則勤務の試行を開始し運用しているところ。</p> <p>(課題)</p> <p>人材の確保、職員にとり働きやすい労働環境の整備等の観点から、多様な勤務形態の導入を検討していくなかで、平成25年12月より看護師の夜勤専従について、こども病院において試行を開始したが、今後運用方法等について検討する必要がある。</p>	

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	行動計画	No.	業務の実績	自己評価	備考																																																																																																																																																																																	
第1 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	1 2 (2) 就労環境の向上 ①ワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な雇用形態や勤務時間など柔軟な勤務条件の設定 ②医療従事者が本来業務に専念できる環境の整備 ③職員が働きやすい施設等の環境整備	医療従事者の事務的業務の軽減を図り、本来業務に専念できる環境を整備するために、医療秘書・助手等を効果的に配置する。	66	<p>補助職員の配置状況 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>14</td> <td>54</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>医師事務補助</td> <td>69</td> <td>81</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>13</td> <td>18</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>96</td> <td>153</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>▲1</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>▲1</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>22</td> <td>18</td> <td>▲4</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>42</td> <td>38</td> <td>▲4</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>33</td> <td>73</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>101</td> <td>108</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>17</td> <td>22</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>151</td> <td>203</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区 分	H25	H26	増減	総合	14	54	40	医師事務補助	69	81	12	看護師	13	18	5	コメディカル	96	153	57	小計	1	1	0	こころ	10	9	▲1	看護師	2	2	0	コメディカル	13	12	▲1	小計	18	18	0	こども	22	18	▲4	看護師	2	2	0	コメディカル	42	38	▲4	小計	33	73	40	計	101	108	7	看護師	17	22	5	コメディカル	151	203	52	小計				<p>補助職員の配置状況 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>77</td> <td>90</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>47</td> <td>59</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>27</td> <td>28</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>48</td> <td>107</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>68</td> <td>80</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>助手等</td> <td>267</td> <td>364</td> <td>97</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>▲3</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>12</td> <td>10</td> <td>▲2</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>8</td> <td>12</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>▲1</td> </tr> <tr> <td>助手等</td> <td>41</td> <td>39</td> <td>▲2</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>50</td> <td>53</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>▲3</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>49</td> <td>50</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>23</td> <td>19</td> <td>▲4</td> </tr> <tr> <td>助手等</td> <td>152</td> <td>149</td> <td>▲3</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>131</td> <td>144</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>74</td> <td>81</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>46</td> <td>47</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>105</td> <td>169</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>104</td> <td>111</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>助手等</td> <td>460</td> <td>552</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区 分	H25	H26	増減	総合	77	90	13	医師	47	59	12	看護師	27	28	1	コメディカル	48	107	59	事務	68	80	12	助手等	267	364	97	小計	4	1	▲3	こころ	12	10	▲2	看護師	4	4	0	コメディカル	8	12	4	事務	13	12	▲1	助手等	41	39	▲2	小計	50	53	3	こども	15	12	▲3	看護師	15	15	0	コメディカル	49	50	1	事務	23	19	▲4	助手等	152	149	▲3	小計	131	144	13	合計	74	81	7	看護師	46	47	1	コメディカル	105	169	64	事務	104	111	7	助手等	460	552	92	小計				<p>(実績に対する評価) 医療秘書の配置については、電子カルダの導入業務等、事務負担軽減の効果が確認されている。 看護助手や事務補助の配置については、看護師数の不足に伴い増加している。共に国家資格所有者でないといけない業務に専念できている。 (課題) 医療秘書については、更にその役割の周知に努め、効果的な活用を図っていく必要がある。 看護助手や事務補助業務については、看護師の業務との効果的な分担を研究し、多忙化を解消し退職者を減らす必要がある。</p>	
			区 分	H25	H26	増減																																																																																																																																																																																	
総合	14	54	40																																																																																																																																																																																				
医師事務補助	69	81	12																																																																																																																																																																																				
看護師	13	18	5																																																																																																																																																																																				
コメディカル	96	153	57																																																																																																																																																																																				
小計	1	1	0																																																																																																																																																																																				
こころ	10	9	▲1																																																																																																																																																																																				
看護師	2	2	0																																																																																																																																																																																				
コメディカル	13	12	▲1																																																																																																																																																																																				
小計	18	18	0																																																																																																																																																																																				
こども	22	18	▲4																																																																																																																																																																																				
看護師	2	2	0																																																																																																																																																																																				
コメディカル	42	38	▲4																																																																																																																																																																																				
小計	33	73	40																																																																																																																																																																																				
計	101	108	7																																																																																																																																																																																				
看護師	17	22	5																																																																																																																																																																																				
コメディカル	151	203	52																																																																																																																																																																																				
小計																																																																																																																																																																																							
区 分	H25	H26	増減																																																																																																																																																																																				
総合	77	90	13																																																																																																																																																																																				
医師	47	59	12																																																																																																																																																																																				
看護師	27	28	1																																																																																																																																																																																				
コメディカル	48	107	59																																																																																																																																																																																				
事務	68	80	12																																																																																																																																																																																				
助手等	267	364	97																																																																																																																																																																																				
小計	4	1	▲3																																																																																																																																																																																				
こころ	12	10	▲2																																																																																																																																																																																				
看護師	4	4	0																																																																																																																																																																																				
コメディカル	8	12	4																																																																																																																																																																																				
事務	13	12	▲1																																																																																																																																																																																				
助手等	41	39	▲2																																																																																																																																																																																				
小計	50	53	3																																																																																																																																																																																				
こども	15	12	▲3																																																																																																																																																																																				
看護師	15	15	0																																																																																																																																																																																				
コメディカル	49	50	1																																																																																																																																																																																				
事務	23	19	▲4																																																																																																																																																																																				
助手等	152	149	▲3																																																																																																																																																																																				
小計	131	144	13																																																																																																																																																																																				
合計	74	81	7																																																																																																																																																																																				
看護師	46	47	1																																																																																																																																																																																				
コメディカル	105	169	64																																																																																																																																																																																				
事務	104	111	7																																																																																																																																																																																				
助手等	460	552	92																																																																																																																																																																																				
小計																																																																																																																																																																																							
		<p>有期雇職員の状況 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>▲3</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>12</td> <td>10</td> <td>▲2</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>8</td> <td>12</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>▲1</td> </tr> <tr> <td>助手等</td> <td>41</td> <td>39</td> <td>▲2</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>50</td> <td>53</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>▲3</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>49</td> <td>50</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>23</td> <td>19</td> <td>▲4</td> </tr> <tr> <td>助手等</td> <td>152</td> <td>149</td> <td>▲3</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>131</td> <td>144</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>74</td> <td>81</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>46</td> <td>47</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>105</td> <td>169</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>104</td> <td>111</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>助手等</td> <td>460</td> <td>552</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区 分	H25	H26	増減	総合	4	1	▲3	こころ	12	10	▲2	看護師	4	4	0	コメディカル	8	12	4	事務	13	12	▲1	助手等	41	39	▲2	小計	50	53	3	こども	15	12	▲3	看護師	15	15	0	コメディカル	49	50	1	事務	23	19	▲4	助手等	152	149	▲3	小計	131	144	13	合計	74	81	7	看護師	46	47	1	コメディカル	105	169	64	事務	104	111	7	助手等	460	552	92	小計				<p>(実績に対する評価) 産育休等の欠員や急な業務量の増加等に対応して柔軟な有期雇職員の配置を行っている。 また、採用の決定権限を各病院とすることで、迅速な対応を可能としている。 (課題) ・正規職員と有期雇職員の業務区分の検討 ・労働契約法の改正に伴う、無期雇職員の設定</p>	A																																																																																																			
区 分	H25	H26	増減																																																																																																																																																																																				
総合	4	1	▲3																																																																																																																																																																																				
こころ	12	10	▲2																																																																																																																																																																																				
看護師	4	4	0																																																																																																																																																																																				
コメディカル	8	12	4																																																																																																																																																																																				
事務	13	12	▲1																																																																																																																																																																																				
助手等	41	39	▲2																																																																																																																																																																																				
小計	50	53	3																																																																																																																																																																																				
こども	15	12	▲3																																																																																																																																																																																				
看護師	15	15	0																																																																																																																																																																																				
コメディカル	49	50	1																																																																																																																																																																																				
事務	23	19	▲4																																																																																																																																																																																				
助手等	152	149	▲3																																																																																																																																																																																				
小計	131	144	13																																																																																																																																																																																				
合計	74	81	7																																																																																																																																																																																				
看護師	46	47	1																																																																																																																																																																																				
コメディカル	105	169	64																																																																																																																																																																																				
事務	104	111	7																																																																																																																																																																																				
助手等	460	552	92																																																																																																																																																																																				
小計																																																																																																																																																																																							
		<p>平成26年10月より看護師監督者層を対象とした勤務成績評価制度の試行を開始した。 ・試行対象職員 看護師監督者層 (看護部長、副看護部長、看護師長、副看護部長) ・評価方法 行動評価及び目標評価 ・試行期間 平成26年10月～平成27年3月</p>	<p>職員の意欲を高め、勤務実績が反映される人事・給与制度を検討する。</p>	<p>(実績に対する評価) 勤務成績評価の試行の評価については、評価終了後、対象者へのアンケートを実施した。 (課題) ・事務、コメディカル等他職種への試行拡大 ・給与への反映の是非の検討</p>	A																																																																																																																																																																																		
		<p>就労環境の改善に向けた院内施設の充実にののための検討を進める。</p>	<p>総合病院院内保育所については、平成26年度に城北医師宿舎、城北西医師宿舎の建築・衛生設備の大規模修繕予定である。</p>	<p>(実績に対する評価) 優秀な医師・看護師を確保するため、就労環境の向上を目指し、医師・看護師宿舎、院内保育所の整備を着実に進めた。 (課題) こども病院院内保育所については、職員のニーズに合致した保育所とするための検討を進める。</p>	A																																																																																																																																																																																		

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	自己評価 説明	備考																																																																																								
第1 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	1 2 (3) 知識や技術の普及 ①学会や研修会等へ積極的に参加できる仕組みづくり ②認定看護師等の資格保有者の活用 ③県内の医療従事者への教育研修機能の開放	70	研究費や研究旅費等の予算化等により学会や研修会等への参加がしやすい体制を維持する。	<p>・研修医の海外研修への参加により、研修内容の充実を図ることができた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>内容</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>臨床研修医ICLA研修</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>海外学会(米心胸部疾患学会他)</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td></td> <td>海外病院研修(中国浙江省)</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>トロント小児病院研修</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>シドニーウエストメッド小児病院研修</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>【総合】 ・海外の学会に治療実績等の発表を行い、技術力の高さを示した。 ・海外研修の報告は、院内には定例医局会・院内連絡会で行われており、対外的には研修医募集のホームページに掲載している。</p>	区分	内容	人数	総合	臨床研修医ICLA研修	4		海外学会(米心胸部疾患学会他)	21		海外病院研修(中国浙江省)	2	子ども	トロント小児病院研修	1		シドニーウエストメッド小児病院研修	3	<p>(実績に対する評価) 医師を対象とした「研究事業費」を充実し、研究や海外研修に必要な予算・制度を整えている。 (課題) 医師不足、多忙化のため、制度の活用がまだ十分になされていない。 研修内容を充実させるためには、専任の教育担当が必要である。</p>																																																																							
				区分	内容	人数																																																																																								
総合	臨床研修医ICLA研修	4																																																																																												
	海外学会(米心胸部疾患学会他)	21																																																																																												
	海外病院研修(中国浙江省)	2																																																																																												
子ども	トロント小児病院研修	1																																																																																												
	シドニーウエストメッド小児病院研修	3																																																																																												
		71	院内における資格取得者の活用を促進する。	<p>医学研究奨励事業 3件</p> <p>研究や研修に係る経費を研究研修費として予算化し、職員を積極的に学会や研修会等に参加させた。</p> <p>看護師、コメディカル、事務が業務を実施するうえで、有用な資格等の取得を支援し、職員のレベルアップを図る。</p> <p>資格等取得助成制度利用者 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td></td> <td>看護師</td> <td>6</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>コメディカル</td> <td>1</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td></td> <td>事務</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>13</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td></td> <td>看護師</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>コメディカル</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>事務</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>23</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>看護師</td> <td>2</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td></td> <td>コメディカル</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>事務</td> <td>26</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>32</td> <td>29</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td></td> <td>看護師</td> <td>10</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td></td> <td>コメディカル</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>事務</td> <td>43</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>54</td> <td>54</td> </tr> </tbody> </table> <p>H26は11月までの実績</p>		H24	H25	H26	総合	7	10	10		看護師	6	4		コメディカル	1	13		事務	1	1		計	13	14	こころ	2	2	24		看護師	1	1		コメディカル	1	1		事務	3	1		計	23	19	子ども	3	1	1		看護師	2	26		コメディカル	3	1		事務	26	20		計	1	2	本部	32	29	37		看護師	10	6		コメディカル	1	2		事務	43	37	計	1	2	1		計	54	54	<p>(実績に対する評価) 精神科医療各分野における研究を奨励すること、病院全体のレベルアップに寄与した。 (実績に対する評価) 職員が学会や研修会等に参加して知識や技術を習得することで、病院全体のレベルアップに寄与した。 (実績に対する評価) 資格等取得助成制度は、平成24年度から開始し、毎年度一定数の利用者があり、資格取得者の増員とともに、職員のモチベーションアップに寄与している。 (課題) 助成対象となる資格等の選定</p>	A
	H24	H25	H26																																																																																											
総合	7	10	10																																																																																											
	看護師	6	4																																																																																											
	コメディカル	1	13																																																																																											
	事務	1	1																																																																																											
	計	13	14																																																																																											
こころ	2	2	24																																																																																											
	看護師	1	1																																																																																											
	コメディカル	1	1																																																																																											
	事務	3	1																																																																																											
	計	23	19																																																																																											
子ども	3	1	1																																																																																											
	看護師	2	26																																																																																											
	コメディカル	3	1																																																																																											
	事務	26	20																																																																																											
	計	1	2																																																																																											
本部	32	29	37																																																																																											
	看護師	10	6																																																																																											
	コメディカル	1	2																																																																																											
	事務	43	37																																																																																											
計	1	2	1																																																																																											
	計	54	54																																																																																											
		72	地域の医療機関等の看護師、保健師への実習研修を継続実施する。	<p>実習研修受け入れ実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受入人数</td> <td>335</td> <td>304</td> <td>309</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H27.3末時点</p>	区分	H24	H25	H26	受入人数	335	304	309	<p>(実績に対する評価) 看護部が中心となり、院内関係部署の調整・研修プログラムを準備し、増加する実習希望に対応した。</p>	A																																																																																
区分	H24	H25	H26																																																																																											
受入人数	335	304	309																																																																																											
		73	講演会やセミナーなどを開催する。	<p>公開講演会開催実績 (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催件数</td> <td>7</td> <td>17</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H27.3末時点</p>	区分	H24	H25	H26	開催件数	7	17	22	<p>(実績に対する評価) オープンセミナー、講演会を定期的に開催した。 (課題) 外部への戦略的な広報。</p>	A																																																																																
区分	H24	H25	H26																																																																																											
開催件数	7	17	22																																																																																											

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		備考																																		
				自己評価	説明																																			
第1 3 医療に関する調査及び研究	研究機能の強化 ①臨床研究を行う環境整備及び研究支援体制の充実 ②治療や調査研究事業に積極的に参加できる体制の整備・充実による受託件数の増加 ③県立大学等の研究機関との共同研究	74	<ul style="list-style-type: none"> 研究室スペースを確保し、研究員を迎える。 研究資金となる奨学金附金を受入れられる。 県立大学との共同研究を行う。 	<p>業務の実績</p> <p>総合</p> <p>総合病院循環器病センター6階に県立大学薬学部の臨床薬学教室、臨床薬効解析学教室の2つの教室、薬剤部内に医薬品情報解析学教室が設置され、総合病院薬剤部との共同研究を行う体制を取っている。</p> <table border="1"> <caption>医薬品受託研究事業費・契約件数 (単位：千円・件)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">24年度</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> </tr> <tr> <th>件数</th> <th>金額</th> <th>件数</th> <th>金額</th> <th>件数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>24</td> <td>81,305</td> <td>29</td> <td>71,394</td> <td>31</td> <td>70,101</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>1</td> <td>53</td> <td>2</td> <td>537</td> <td>1</td> <td>450</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>24</td> <td>24</td> <td>21</td> <td>69</td> <td>24</td> <td>6,857</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H27.3末時点</p>	区分	24年度		25年度		26年度		件数	金額	件数	金額	件数	金額	総合	24	81,305	29	71,394	31	70,101	ところ	1	53	2	537	1	450	こども	24	24	21	69	24	6,857	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>研究の一部は国内外へ論文発表が行われる等、共同研究の成果が確認できる。</p> <p>(課題)</p> <p>より一層、患者に役立つ臨床研究の成果が期待される。</p>
		区分	24年度			25年度		26年度																																
			件数	金額	件数	金額	件数	金額																																
総合	24	81,305	29	71,394	31	70,101																																		
ところ	1	53	2	537	1	450																																		
こども	24	24	21	69	24	6,857																																		
		75	<ul style="list-style-type: none"> 医療水準の向上と院内における医療の質の高度化に資するため、新薬開発や臨床研究などへ参画する。 臨床試験管理センターによる臨床研究の支援を行う。 	<p>業務の実績</p> <p>総合</p> <p>DPCの診療情報に基づく症例分析を行う。</p>	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>製薬会社等からの依頼を受け、新薬開発に係る治験を行っている。</p> <p>治験が終了し市販に至った薬品があり、新薬提供の一助となっている。</p> <p>市販薬の市販後調査を適正に実施し、安心安全な医療に寄与している。</p>																																		
		76	<ul style="list-style-type: none"> 診療等の情報の活用 ①診療情報等の分析 ②取支実績を部門別に随時把握できるシステムの利用 	<p>業務の実績</p> <p>総合</p> <p>DPCの診療情報を用いて、他院とのベンチマークにて期間II超割合、手術単価などを比較し、全国的に見る当院の状況を確認することが出来た。</p> <p>アナライザー、ダッシュボードを用いて後発医薬品の使用率を出し、薬剤部へ情報提供、次年度係数の増収を目指した。</p>	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>他施設との比較を行うことが可能となり、診療報酬の増収のため、部会等で発表することが出来た。</p> <p>(課題)</p> <p>今後は、プロパー職員のスキルアップを図り、より精緻で実用的な分析を行う。</p>																																		
		77	<ul style="list-style-type: none"> DPCの診療情報を分析し、診療へフィードバックするため、診療情報の管理体制を整備する。 	<p>業務の実績</p> <p>こども</p> <p>診療情報管理室を充実し、平成26年度は職員6名、委託職員1名を配置した。</p> <p>診療情報管理士を中心に委託業者と共にコーディング・診療内容の確認作業を行った。</p> <table border="1"> <caption>診療情報管理室職員配置実績 (単位：人)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">H24</th> <th colspan="2">H25</th> <th colspan="2">H26</th> </tr> <tr> <th>職員数</th> <th>6(3)</th> <th>職員数</th> <th>6(3)</th> <th>職員数</th> <th>7(4)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カコッコ</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H27.3末時点</p>	区分	H24		H25		H26		職員数	6(3)	職員数	6(3)	職員数	7(4)	カコッコ	4	3	5	6	7	7	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>診療情報管理室の人員を増員し、診療情報の管理体制を強化した。</p> <p>(課題)</p> <p>診療情報管理士の本来の業務である情報抽出・分析・活用業務を果たすための職員のスキルアップが必要である。</p>														
区分	H24		H25			H26																																		
	職員数	6(3)	職員数	6(3)	職員数	7(4)																																		
カコッコ	4	3	5	6	7	7																																		
		78	<ul style="list-style-type: none"> 公的病院としての説明責任・透明性の確保に努める。(不採算疾患例の明示、原価計算) 	<p>業務の実績</p> <p>総合</p> <p>公的病院では、電子カルテのオプションとして平成22年度に「原価管理システム」を導入し、随時データを蓄積して診療科ごと等の計算を行っている。</p> <p>ただ、計算結果が、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科など集中部門的な科は、他科へ収入が分配されているため実態とは乖離が出るなど、科別の比較資料とするには課題があるため、活用は限定的な状況にある。平成28年1月に電子カルテシステムの更新もあることから、引き続き、別の手法も含め、今後の重要な課題として検討して参りたいと考えている。</p>	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>医師のタイムスタスタ設定の見直し等、随時調に作業を進められた。</p> <p>(課題)</p> <p>システム運用に関しては、まずは継続的にデータを蓄積し、その推移から経営状況の把握を目指すこととし、活用については今後さらに議論していく方針。</p> <p>麻酔科、リハ科、放射線など集中部門的な科は、他科へ収入が分配されるため実態とは乖離が出る等、科別の比較資料とするには課題がある。平成28年1月に電子カルテシステムの更新もあることから、引き続き、別の手法も含め、今後の重要な課題として検討して参りたいと考えている。</p>																																		
			<ul style="list-style-type: none"> 原価計算システムの導入を検討している。 	<p>業務の実績</p> <p>こども</p> <p>原価計算システムの導入を検討している。</p>	B	<p>(課題)</p> <p>現在は他院のシステムを参照に行くなど研究の段階で、今後は具体的な方針を決める必要がある。</p>																																		

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置

中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		備考																									
				自己評価	説明																										
第1 3 医療に関する調査及び研究	I 3 (3) 県民への情報提供の充実 ③報道機関等への情報発信	82	県民に病院の運営にかかるときの情報を戦略的に広報するため、報道機関向けの情報発信の推進を図る。	<p>業務の実績</p> <p>最先端医療への取組や各病院で開催する県民向けの公開講座、各種イベントなどについて、県政記者クラブへ積極的に情報提供を行い、情報発信の推進を図った。</p> <table border="1"> <tr> <td>記者情報提供件数 (単位:件)</td> <td>24年度</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>前年同月比</td> </tr> <tr> <td>区分</td> <td>49</td> <td>46</td> <td>40</td> <td>8%</td> </tr> <tr> <td>提供件数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		記者情報提供件数 (単位:件)	24年度	25年度	26年度	前年同月比	区分	49	46	40	8%	提供件数					A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>テレビ・新聞等において、報道・掲載が多数あり、情報提供は着実に推進している。(課題)</p> <p>情報発信の一種の推進を図るため、職員一人ひとりが、常に県立病院を広報するよう、職員意識啓発を行う。</p> <p>スピーディーに情報提供するために、県政記者クラブだけでなく、ホームページや広報紙等でも独自に機構からの情報提供を適時実施していく。</p>									
				記者情報提供件数 (単位:件)	24年度	25年度	26年度	前年同月比																							
区分	49	46	40	8%																											
提供件数																															
第1 4 (1) 医療に関する地域への支援	I 4 (1) 本県の医師確保対策への取組 ①県の医師派遣事業への協力 ②「ふじのくに地域医療支援センター」機能の一部を受託・運営	83	<p>地域医療支援病院としての使命を果たすため、医師を確保したうえで、医師不足が顕著な公的病院に医師を派遣する。</p>	<p>医師派遣実績 (単位:機関、科、人)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>24年度</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> </tr> <tr> <td>医療機関</td> <td>12</td> <td>10</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>682</td> <td>616</td> <td>701</td> </tr> </table> <p>総合</p> <p>当院の医師不足のため、焼津市立病院の神経内科への派遣は、平成24年9月末で終了し、また、平成24年度末で藤枝市立総合病院の腎臓内科への派遣が終了した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 派遣先の医師採用に伴い、平成25年度末でJ A 静岡厚生病院の内科への派遣が終了した。 静岡市立清水病院における循環器内科及び腎臓内科の医師不足により、平成26年度から派遣を開始した。 <p>静岡済生会総合病院等へ医師を派遣した。</p>		区分	24年度	25年度	26年度	医療機関	12	10	11	診療科	12	11	12	延人員数	682	616	701	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>医師派遣の要望は依然として各病院から寄せられており、当該としても適切に対応していく。(課題)</p> <p>派遣元の県立病院の医師の確保が課題である。</p>								
区分				24年度	25年度	26年度																									
医療機関	12	10	11																												
診療科	12	11	12																												
延人員数	682	616	701																												
第1 4 (1) 医療に関する地域への支援	I 4 (1) 本県の医師確保対策への取組 ①県の医師派遣事業への協力 ②「ふじのくに地域医療支援センター」機能の一部を受託・運営	84	<p>医師不足の公的病院に医師を派遣できる体制の整備を図るため、医師を確保する。</p>	<p>医師派遣実績 (単位:機関、科、人)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> </tr> <tr> <td>医療機関</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>5</td> <td>662</td> <td>662</td> </tr> </table> <p>子ども</p> <p>救急総合診療科を中心に医師研修推進を設け、小児科後期研修医を毎年度5名程度採用し、医師確保につなげている。</p> <p>後期研修医受入実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> </tr> <tr> <td>受入人数</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> </table> <p>※H27.3末時点</p>		区分	H24	H25	H26	医療機関	5	6	4	診療科	5	2	1	延人員数	5	662	662	区分	H24	H25	H26	受入人数	5	5	5	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>平成26年度に修了した研修医5名のうち、4名をそのまま常勤医師として採用した。</p>
				区分	H24	H25	H26																								
医療機関	5	6	4																												
診療科	5	2	1																												
延人員数	5	662	662																												
区分	H24	H25	H26																												
受入人数	5	5	5																												
第1 4 (1) 医療に関する地域への支援	I 4 (1) 本県の医師確保対策への取組 ①県の医師派遣事業への協力 ②「ふじのくに地域医療支援センター」機能の一部を受託・運営	85	小児1次救急医療への応援を行う。	<p>医師派遣実績 (急病センター)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> </tr> <tr> <td>人数(日)</td> <td>298</td> <td>286</td> <td>292</td> </tr> <tr> <td>人員(人)</td> <td>357</td> <td>304</td> <td>313</td> </tr> </table> <p>子ども</p> <p>静岡市急病センター等へ医師を派遣した。</p>		区分	H24	H25	H26	人数(日)	298	286	292	人員(人)	357	304	313	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣した。(課題)</p> <p>引き続き、派遣医師の確保に努める。</p>												
				区分	H24	H25	H26																								
人数(日)	298	286	292																												
人員(人)	357	304	313																												

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスの質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置

中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		備考																										
				自己評価	説明																											
第1 4 医療に関する 地域への 支援	I 4 (2) 地域医療への支援 ①PETイメージング・センター、 CT、MRI等の共同利用の推進 ②IT技術を活用した地域医療機関等 との連携及び支援	86	PET共同利用率については、地域診療 機関への啓蒙活動を継続し、共同利用 率の向上を図る。	総合	<table border="1"> <caption>PETイメージングセンター共同利用 (単位：件、%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>4,286</td> <td>4,493</td> <td>4,121</td> <td>4,211</td> </tr> <tr> <td>共同利用件数</td> <td>1,640</td> <td>1,710</td> <td>1,635</td> <td>1,673</td> </tr> <tr> <td>共同利用率</td> <td>38.3</td> <td>38.1</td> <td>39.7</td> <td>39.7</td> </tr> <tr> <td>検診件数</td> <td>108</td> <td>117</td> <td>108</td> <td>165</td> </tr> </tbody> </table>	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	件数	4,286	4,493	4,121	4,211	共同利用件数	1,640	1,710	1,635	1,673	共同利用率	38.3	38.1	39.7	39.7	検診件数	108	117	108	165	A	診療報酬の施設基準20%と比べて、高い共 同利用率となっており、地域の医療機関に利 用されている。健診の件数は昨年比に比べ1.5倍 の件数を実施した。
		区分	23年度	24年度	25年度	26年度																										
		件数	4,286	4,493	4,121	4,211																										
共同利用件数	1,640	1,710	1,635	1,673																												
共同利用率	38.3	38.1	39.7	39.7																												
検診件数	108	117	108	165																												
87	地域の医療機関向けにCT・MRIの地域 支援検査枠を増設し、共同利用件数の 向上を図る。	総合	<table border="1"> <caption>CT、MRI共同利用 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT</td> <td>1,064</td> <td>949</td> <td>833</td> <td>762</td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>768</td> <td>675</td> <td>626</td> <td>591</td> </tr> <tr> <td>CT(撮影のみ)</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>MRI(撮影のみ)</td> <td>121</td> <td>111</td> <td>107</td> <td>133</td> </tr> </tbody> </table>	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	CT	1,064	949	833	762	MRI	768	675	626	591	CT(撮影のみ)	9	8	8	7	MRI(撮影のみ)	121	111	107	133	A	継続して共同利用の実施がなされている。 今後は読影医の増加、利用件数の向上を図 る。		
区分	23年度	24年度	25年度	26年度																												
CT	1,064	949	833	762																												
MRI	768	675	626	591																												
CT(撮影のみ)	9	8	8	7																												
MRI(撮影のみ)	121	111	107	133																												
88	ふじのくにねとを活用し、地域の病 院・診療所・調剤薬局・訪問看護ス テーションとの連携を強化する。	総合	「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」について、 情報の開示施設である磐田市立総合病院・川根本町いわし の里診療所・菊川市立総合病院・公立森町病院・静岡済生 会総合病院・社会医療桜ヶ丘総合病院 (H26.4～地域医療 機能推進機構桜ヶ丘病院に名称変更)・市立御前崎総合病 院・市立島田市立病院・中東総合医療センター・藤原総 合病院・藤枝市立総合病院・富士市立中央病院・藤津市立 総合病院や、各地域の自治体・医師会とともに「ふじのくに バーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数 医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク を構築して運用している。	A	ネットワークへの参加施設は順調に拡大を 続けている。 システム機器の更新時期を迎えることを契 機に、費用負担のあり方等を含めた事業の運 営手法について検討することとしている。																											
89	国内外の医療機関との映像情報を通じ た研修や診断を実施する。	こども	<table border="1"> <caption>心エコー画像遠隔診断実績 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26目標</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設数</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>症例数</td> <td>16</td> <td>15</td> <td>18</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H27.3末時点</p>	区分	H24	H25	H26目標	H26	施設数	4	4	4	4	症例数	16	15	18	9	A	(実績に対する評価) 国内外の医療機関と連携し、映像情報を通 じたカンファレンスや診断を継続的に実施し た。 (課題) 連携には、相手先医療機関の設備投資が必 要であり、ネットワーク拡大の障害となつて いる。実績を基に、画像診断の有効性を説明 し理解を得る必要がある。												
区分	H24	H25	H26目標	H26																												
施設数	4	4	4	4																												
症例数	16	15	18	9																												
			・県内4病院と連携し、心エコー画像の遠隔診断を行つ た。																													

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		備考																																							
				自己評価	説明																																								
第1 4 医療に関する地域への支援	I 4 (3) 社会的な要請への協力 ・公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請への対応	90	院内外の研修会等を定期的に開催することに加え、協議会等の医師会との合同開催を通じ、かかたりつけ医へ最新の医療情報を提供する。	総合	<p>施設基準（臨床研修病院入院診療加算）上、保険診療に関する職員研修を年2回実施する必要があるが、第1回目を平成26年7月7日、2回目を平成27年2月9日に実施した。</p> <p>【1回目】 演題「平成26年度診療報酬改定のポイント～DPCデータから見た静岡県立病院機構病院院群～」 講師 一般社団法人日本血液製剤機構 事業企画部 参事 谷澤 正明氏 全職員対象 参加者 93人</p> <p>【2回目】 演題「適時適量の結果について」 医事課 主催 全職員対象 参加者 102人</p>	B	(実績に対する評価) 出席数が少なかつたので、今後は各部署から少なくとも代表者1名の出席を促す必要がある。また、業務の都合で参加できない職員に対するフォローをどのように行っていくかが課題である。																																						
		91	他団体の講師派遣依頼に協力する。	総合	<p>講師派遣実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>68</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>62</td> <td>72</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	医師	68	73	その他	62	72	A	(実績に対する評価) 他団体等が主催する講演会の講師として医師や認定看護師を派遣する等、積極的な地域支援を行った。																													
		区分	25年度	26年度																																									
		医師	68	73																																									
		その他	62	72																																									
92	他団体等が主催する講習会、研究会、学会への講師派遣を推進する。	こころ	<p>院外講演会講師派遣状況(医師)(単位：回)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> <tr> <td>派遣回数</td> <td>32</td> <td>17</td> <td>25</td> </tr> </table> <p>院外講演会講師派遣状況(看護師)(単位：回)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> <tr> <td>派遣回数</td> <td>34</td> <td>24</td> <td>30</td> </tr> </table>	区分	24年度	25年度	26年度	派遣回数	32	17	25	区分	24年度	25年度	26年度	派遣回数	34	24	30	A	(実績に対する評価) 他団体等が主催する講演会の講師として医師や認定看護師を派遣する等、積極的な地域支援を行った。																								
区分	24年度	25年度	26年度																																										
派遣回数	32	17	25																																										
区分	24年度	25年度	26年度																																										
派遣回数	34	24	30																																										
93	医療にかかるとる鑑定等の要請への協力的な対応を積極的に対応する。	こころ	<p>・鑑定などへの対応 医療鑑察法の鑑定医として協力 CRT(静岡県こころの緊急支援活動)支援員登録者1人 医療鑑察法による鑑定入院受入実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>3</td> </tr> </table>	区分	24年度	25年度	26年度	こころ	4	5	3	A	(実績に対する評価) 県内精神医療の中核病院として、各方面からの要請に的確に対応できた。																																
区分	24年度	25年度	26年度																																										
こころ	4	5	3																																										
94	特別支援学校や児童相談所など教育機関や福祉機関との連携を強化するたため、検討会や説明会などを継続的に開催する。	こども	<p>H26精神保健講座等開催実績</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>対象</th> <th>参加者数等</th> </tr> <tr> <td>精神保健講座</td> <td>県内小中学校教諭</td> <td>5回 196人</td> </tr> <tr> <td>児童養護施設巡回相談</td> <td>こども・家族</td> <td>20回 10施設</td> </tr> </table> <p>※H27.3末時点</p>	区分	対象	参加者数等	精神保健講座	県内小中学校教諭	5回 196人	児童養護施設巡回相談	こども・家族	20回 10施設	A	(実績に対する評価) 県内におけるこどもも精神保健ネットワークの中核機能を担った。 (課題) 更なるネットワーク構築のため、学校や児童養護施設等の地域の関係機関と引き続き連携強化に努める。																															
区分	対象	参加者数等																																											
精神保健講座	県内小中学校教諭	5回 196人																																											
児童養護施設巡回相談	こども・家族	20回 10施設																																											
95	小児慢性特定疾患治療研究事業や障害者自立支援法、児童福祉法、精神保健法などの実施に協力する。	こども	<p>公費負担患者状況 (単位：人)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> <tr> <td>小児慢性</td> <td>1,771</td> <td>1,621</td> <td>2,158</td> </tr> <tr> <td>育成医療</td> <td>922</td> <td>831</td> <td>657</td> </tr> <tr> <td>養育医療</td> <td>239</td> <td>224</td> <td>179</td> </tr> <tr> <td>特定疾患</td> <td>158</td> <td>128</td> <td>134</td> </tr> <tr> <td>特定疾病</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>生活保護</td> <td>133</td> <td>135</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>精神保健</td> <td>153</td> <td>110</td> <td>117</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>121</td> <td>123</td> <td>112</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,497</td> <td>3,172</td> <td>3,490</td> </tr> </table> <p>※H27.3末時点</p>	区分	H24	H25	H26	小児慢性	1,771	1,621	2,158	育成医療	922	831	657	養育医療	239	224	179	特定疾患	158	128	134	特定疾病	-	-	33	生活保護	133	135	100	精神保健	153	110	117	その他	121	123	112	計	3,497	3,172	3,490	A	(実績に対する評価) 証明書・診断書の発行など公費適応患者の利便性を重視して対応した。 (課題) 公費負担には本人による申請が必要となるが、公費の認定には時間がかかるため、請求が遅れるケースがある。本人の申請が遅れた場合などの対応については検討が必要である。
区分	H24	H25	H26																																										
小児慢性	1,771	1,621	2,158																																										
育成医療	922	831	657																																										
養育医療	239	224	179																																										
特定疾患	158	128	134																																										
特定疾病	-	-	33																																										
生活保護	133	135	100																																										
精神保健	153	110	117																																										
その他	121	123	112																																										
計	3,497	3,172	3,490																																										

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスの質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置

中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		自己評価		備考
							説明	
第1 5. 災害等における医療救護	I 5 (1) 医療救護活動の拠点機能 ①災害拠点病院（小児分野を含む）等として、災害時の医療救護活動の拠点機能を担う ②小児専門医療機関間の災害時情報交換システム構築への参画	96	<ul style="list-style-type: none"> 災害医療訓練を実施する。 災害対応マニュアル等の整備 見直しを行い発生時に迅速な対応ができるようにする。 	総合	<p>H26.6.16 安否情報確認システムによる情報伝達訓練を行った。</p> <p>H26.7.1～24 院内各セクションに対し、消火設備等の取扱講習を実施した。</p> <p>H26.7.15 県及び市と連携し、EMIS等を用いて、情報伝達訓練を行った。（特化型実践訓練（医療救護等））</p> <p>H26.8.6、20 火災発生を想定した通報、初期消火、患者避難の総合訓練を実施した。（新規採用職員を中心に56名参加）</p> <p>H26.8.27 県総合防災訓練（本部運営）において、EMIS等による情報伝達訓練を行った。</p> <p>H26.12.7 トリアージ実践訓練において、地震発生時を想定した従来の多傷病者の受入訓練に加えて、各セクションの被害状況の把握および本部への伝達訓練、入院患者の図上避難訓練を実施した。</p>	A	<p>（実績に対する評価）</p> <p>情報伝達・避難訓練等 災害の発生を想定し、公的病院の役割を果たすべく各種訓練を企画、実施した。</p> <p>（課題）</p> <p>引き続き、災害発生に備えた病院の機能の充実に努める。</p>	
		97	<ul style="list-style-type: none"> 災害等に対する日頃の備えに努め、大規模災害等における本県の精神分野の災害時医療に対応する。 	総合	<ul style="list-style-type: none"> 入院患者を含めた防災訓練（避難訓練）の企画・実施。（10月実施） 院内備蓄食糧の更新。 	A	<p>（実績に対する評価）</p> <p>情報伝達・避難訓練等、災害の発生を想定し、公的病院の役割を果たすべく各種訓練を企画、実施した。</p> <p>（課題）</p> <p>引き続き、災害発生に備えた病院の機能の充実に努める。</p>	
		98	<ul style="list-style-type: none"> 小児医療を担う県内医療機関間の災害時連携システム整備に関する準備を開始する。 小児医療施設協議会において実施を検討している小児専門医療機関間の災害時における情報交換システム構築、運用検討について参加、協力していく。 	こども	<p>災害時における小児医療機関との連携システムの構築に向けて、病院としての具体的方針を検討中である。</p>	B	<p>（課題）</p> <p>行政の災害対策との整合性を図りつつ、如何にして小児独自の災害時連携システムを構築するかが課題である。</p>	
I 5 (2)	<p>他県等の医療救護への協力</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害発生初期におけるDDMAT（災害派遣医療チーム）・DPAT（災害派遣精神医療チーム）の派遣及び県からの要請に基づく支援等の実施 	99	<p>災害医療救護応援班の訓練を実施する。</p>	総合	<p>H26.7.15 県本部のDDMAT調整本部設置訓練にDDMAT 1チームが参加した。（特化型実践訓練（医療救護等））</p> <p>H26.8.27 県総合防災訓練（本部運営）において、DDMAT調整本部設置訓練にDDMAT 1チームが参加した。</p> <p>H26.8.31 県総合防災訓練（実動訓練）において、実動訓練（愛鷹広域公園）とDDMAT調整本部設置訓練（県庁）にDDMAT各1チームが参加した。</p> <p>H26.10.11～12 中部ブロックDDMAT実動訓練（愛知）において、東海北陸ブロックのDDMATが参集した実動訓練にDDMAT 1チームが参加した。</p> <p>H26.11.5 緊急消防援助隊関係東ブロック合同訓練において、全国緊急消防援助隊と連携した訓練にDDMAT 2チームが参加した。</p> <p>H26.11.26 静岡空港航空機事故対応総合訓練において、DDMAT 1チームが参加した。</p> <p>H27.1.16 大規模図上訓練（地震対策ハレーション2015）が県庁で開催され、DDMAT 1チームが参加した。</p>	A	<p>（実績に対する評価）</p> <p>チーム内で適切に情報を伝達・共有し、仮想被害状況に応じたDDMATの配置を行った。</p> <p>（課題）</p> <p>他チームとの連携に一層の注意を払っていく必要がある。</p>	

中期計画 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためのべき措置

中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		備考																																				
				自己評価	説明																																					
第2 1 簡素で効率的な組織づくり	II 1 簡素で効率的な組織づくり ①意思決定の迅速化等、機動的な法人運営 ②医療ニーズや業務量の適切な把握と組織体制等への反映	100	<ul style="list-style-type: none"> 組織の効率化、各種権限の病院長への委任により事務のスピード化を図る。 理事会、運営会議、経営担当課長会議を毎月開催（8月を除く）し、法人の運営情報の共有化を図るとともに、予算の補正等の緊急な課題に対する即時的な対応を行う。 	<p>業務の実績</p> <p>理事会、運営会議、経営担当課長会議を8月を除く毎月開催し、意思決定の迅速化に努めた。</p>	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>毎月、機構内での情報の共有化、緊急案件についての対応が問題なく行われた。(課題)</p> <p>引き継ぎ、理事会・運営会議等を定期的に行い、法人運営の効率化を図る。</p>																																				
		101	<ul style="list-style-type: none"> 職員の採用に対し、広報等様々な取り組みを行うことで、必要な職員数の確保に努める。 柔軟な採用試験の実施により、必要な人材の確保に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮して、人物重視の採用試験を実施し、平成27年度事務職員採用予定者として8名を採用した。 試験は、エントリーシートと簡易面接（5月）、第1次試験（6月）、第2次試験（6月）、第3次試験（7月）により、面接に重きを置いている。 併せて、急速な経営環境の変化にも迅速に対応できる経験と専門性を持った事務職員の採用を実施し、情報処理、医事、電気の各業務について採用した。 	<p>業務の実績</p> <p>H24から弁護士事務所へ委託先を変更した結果、初年度のH24は切替時の特殊要因により微減となったが、H25から回収率の改善が図られている。H23 26.4%、H24 26.0%、H25 45.4%、H26 59.0%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">H26 未収金回収実績(弁護士事務所委託分)</th> <th colspan="2">(単位：千円)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>H26末未回収額</th> <th>回収額</th> <th>回収率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総計</td> <td>40,101</td> <td>17,298</td> <td>43.1%</td> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>9,806</td> <td>60</td> <td>0.6%</td> </tr> <tr> <td>ことども</td> <td>2,615</td> <td>366</td> <td>13.6%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>52,522</td> <td>17,724</td> <td>33.7%</td> </tr> </tbody> </table>	H26 未収金回収実績(弁護士事務所委託分)		(単位：千円)		区分	H26末未回収額	回収額	回収率	総計	40,101	17,298	43.1%	総合	9,806	60	0.6%	ことども	2,615	366	13.6%	計	52,522	17,724	33.7%	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>事務職員については、コミュニケーション能力に優れた人材の確保ができています。また、専門性を持った事務職の確保も、地道に進めています。(課題)</p> <p>一般職はもろろん、専門職についても、採用応募者の更なる増加等のため、効果的に周知を行うよう工夫を図る必要がある。</p>											
H26 未収金回収実績(弁護士事務所委託分)		(単位：千円)																																								
区分	H26末未回収額	回収額	回収率																																							
総計	40,101	17,298	43.1%																																							
総合	9,806	60	0.6%																																							
ことども	2,615	366	13.6%																																							
計	52,522	17,724	33.7%																																							
第2 2 効率的な業務運営の実現	II 2 効率的な業務運営の実現 ・計画的な職員採用 ・柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用 ・看護師修学資金貸与制度の運用による看護師の安定的確保 ・計画的な職員採用 ・柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用 ・看護師修学資金貸与制度の運用による看護師の安定的確保 ・診療報酬など収入の適正な確保 ・多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト削減 ・経営情報を把握及び適時適切な措置を講じられる体制整備 ・経営情報を職員が共有するなど、職員全員が経営意識の向上	102	<ul style="list-style-type: none"> 未収金の圧縮を図るため、未収金の取納奨励等について外部の専門会社を活用する。 医療費に係る相談体制の充実・未収金回収のアウトソーシングの促進等、効果的な未収金対策を講じる。 	<p>業務の実績</p> <p>H26 未収金回収実績(弁護士事務所委託分)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H26末未回収額</th> <th>回収額</th> <th>回収率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>40,101</td> <td>17,298</td> <td>43.1%</td> </tr> <tr> <td>ことども</td> <td>9,806</td> <td>60</td> <td>0.6%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>52,522</td> <td>17,724</td> <td>33.7%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H26末未回収額	回収額	回収率	総合	40,101	17,298	43.1%	ことども	9,806	60	0.6%	計	52,522	17,724	33.7%	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>新規の未収金発生を極力抑制するための相談体制の強化に取り組みが必要である。また、負担能力があるにもかかわらず支払に応じない者については、訴訟による解決手段等についても検討していく必要があるため、H24から弁護士事務所へ委託先を変更した。</p>																				
		区分	H26末未回収額	回収額	回収率																																					
総合	40,101	17,298	43.1%																																							
ことども	9,806	60	0.6%																																							
計	52,522	17,724	33.7%																																							
		103	<p>診療報酬の適正請求にかかるとるべき措置</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">診療報酬の適正請求にかかるとるべき措置</th> <th colspan="2">内容</th> <th colspan="2">人数</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>診療報酬改定のポイント</th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>平成26年度診療報酬改定のポイント</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>93人</td> </tr> <tr> <td>ことども</td> <td>通時調査の結束について 保険診療の注意事項 診療報酬改定説明会</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>102人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>平成26年度診療報酬改定説明会</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>53人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>90人</td> </tr> </tbody> </table>	診療報酬の適正請求にかかるとるべき措置		内容		人数		区分	診療報酬改定のポイント					総合	平成26年度診療報酬改定のポイント				93人	ことども	通時調査の結束について 保険診療の注意事項 診療報酬改定説明会				102人	計	平成26年度診療報酬改定説明会				53人						90人	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>研修会等については、適正な請求精度の向上を目指して確実に開催している。</p> <p>(課題)</p> <p>今後、診療報酬請求による収入確保には、多職種が連携して取り組むことが不可欠であるため、職員ひとりひとりの意識向上に向けた取り組みが必要である。</p>	
診療報酬の適正請求にかかるとるべき措置		内容		人数																																						
区分	診療報酬改定のポイント																																									
総合	平成26年度診療報酬改定のポイント				93人																																					
ことども	通時調査の結束について 保険診療の注意事項 診療報酬改定説明会				102人																																					
計	平成26年度診療報酬改定説明会				53人																																					
					90人																																					

中期計画 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	自己評価 説明	備考																																																																																
第2 効率的な業務運営の実現	<p>II</p> <p>2</p> <p>効率的な業務運営の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画的な職員採用 柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用 看護師修学資金貸与制度の運用による看護師の安定確保 計画的な職員採用 柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用 看護師修学資金貸与制度の運用による看護師の安定確保 診療報酬など収入の適正な確保 多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト削減 経営情報把握及び適時適切な措置を講じられる体制整備 経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上 	104	<p>診療材料費等の削減のための対策を実施する。</p>	<p>業務の実績</p> <p>・診療材料費の削減に向けて、平成21年度に策定した「診療材料に関する理事長指示」に基づき、各病院において、診療材料に関わる職員の意識の徹底を図っている。</p> <p>・診療材料単価低減を図るため、医療従事者と協働した購入材料の選定や価格交渉を推進した。</p> <p>・薬品の削減と薬剤部門職員の業務軽減を図るため、一薬メーカー・一卸業者制度を導入するとともに、機構に薬品を納入する卸業者の数を6社に見直し、値引率向上を図っている。</p> <table border="1"> <caption>採用品目及び仕構成の見直しによる削減 (単位:千円)</caption> <thead> <tr> <th>品目名</th> <th>実績</th> <th>総合</th> <th>コスト</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消化器内視鏡</td> <td>104,646</td> <td>3,479</td> <td></td> <td>3,479</td> </tr> <tr> <td>手術セット</td> <td>35,366</td> <td></td> <td>19,581</td> <td>19,581</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>H26 新規導入・廃止した診療材料・薬品 品目数の実績 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">新規品目数</th> <th colspan="2">廃止品目数</th> <th rowspan="2">品目数(%)</th> </tr> <tr> <th>(a)</th> <th>(b)</th> <th>(c)</th> <th>(d)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>5,522</td> <td>893</td> <td>295</td> <td>6,120</td> <td>2,089</td> </tr> <tr> <td>コスト</td> <td>437</td> <td>33</td> <td>126</td> <td>344</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>コスト</td> <td>4,522</td> <td>233</td> <td>556</td> <td>4,219</td> <td>1,264</td> </tr> </tbody> </table>	品目名	実績	総合	コスト	計	消化器内視鏡	104,646	3,479		3,479	手術セット	35,366		19,581	19,581	区分	新規品目数		廃止品目数		品目数(%)	(a)	(b)	(c)	(d)	総合	5,522	893	295	6,120	2,089	コスト	437	33	126	344	45	コスト	4,522	233	556	4,219	1,264	<p>(実績に対する評価)</p> <p>診療材料費については、医療従事者と協働し、同種同物品の絞り込み、3病院品目共通化、価格交渉、安価な材料への切替等を進め、推計ベースで約24百万円の削減効果を得た。</p> <p>また、薬品費については、病院全体で値引き率改善に向け取り組みを行っている。</p> <p>(課題)</p> <p>第1期に引き続いて、診療材料費、薬品費の更なる削減を図る。院内物流管理では、総合病院で導入したSPD(Supply Processing Distribution)(物品・物流の包括的管理業務)の有効活用を図る。</p>																																						
品目名	実績	総合	コスト	計																																																																																		
消化器内視鏡	104,646	3,479		3,479																																																																																		
手術セット	35,366		19,581	19,581																																																																																		
区分	新規品目数		廃止品目数		品目数(%)																																																																																	
	(a)	(b)	(c)	(d)																																																																																		
総合	5,522	893	295	6,120	2,089																																																																																	
コスト	437	33	126	344	45																																																																																	
コスト	4,522	233	556	4,219	1,264																																																																																	
		105	<p>効率的な医療機器購入及び管理のための対策を実施する。</p>	<p>・「医療機器購入基本方針」に基づき購入の実施</p> <p>医療機器の購入・保守管理のトータルコストの削減を図るため、平成21年度に策定した「医療機器購入基本方針」に基づき、各病院において検討・購入を行っている。</p> <p>・保守委託の見直し</p> <p>・保守委託については、3病院一括化、複数年の一括化によりコスト低減を図っている。</p>	<p>(実績に対する評価)</p> <p>・案件に応じて「購入+保守管理」一括評価方式による入札を検討するなどコストの削減を図っている。</p> <p>・保守委託については、3病院一括化・複数年契約が進み、コストの低減が進められている。</p> <p>(課題)</p> <p>医療機器購入基本方針が策定後年数が経過しており方も3病院一括化した内容の見直しなど適正化を図っていく。</p>																																																																																	
		106	<p>複数年契約や集約化等による契約方法の見直しを継続的に実施する。</p>	<p>・委託費の削減を図るため、複数病院一括化、複数年契約化を行った。</p> <p>・複数病院一括化や複数年契約化を行った業務についても、契約の更新の際に引き続き一括化・複数年化に適合するか見直しつつ、削減効果の継続・改善に取り組んでいる。</p> <p>・また、コスト削減による業務水準の低下を防ぐため、一部の委託については、四半期ごとに業務に対するモニタリングを行い、委託業者の業務を評価し、質の維持・向上を図っている。</p> <table border="1"> <caption>H26 委託契約等の見直し状況 (単位:千円、%)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">業務名(区画)</th> <th colspan="2">複数年化</th> <th colspan="2">一括化</th> <th rowspan="2">削減率(%)</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>計画</th> <th>実績</th> <th>計画</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消防(3病院)</td> <td>126~25</td> <td>定額</td> <td>金額の低減</td> <td>6,700</td> <td>▲5.800</td> </tr> <tr> <td>庭園管理(2病院)</td> <td>126~25</td> <td>定額</td> <td>金額の低減</td> <td>11,000</td> <td>▲3,000</td> </tr> <tr> <td>器具類(3病院)</td> <td>126~25</td> <td>単価</td> <td>前年度水準の維持</td> <td>76,658</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>医療機器保守(3病院)</td> <td>126</td> <td>定額</td> <td>前年度水準の維持</td> <td>115,000</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>H26 委託モニタリング評価結果</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">契約</th> <th colspan="2">単価</th> <th rowspan="2">削減率</th> </tr> <tr> <th>可(延長)</th> <th>可(延長)</th> <th>可(延長)</th> <th>可(延長)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給食</td> <td>第1四半期</td> <td>第2四半期</td> <td>第3四半期</td> <td>第4四半期</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>心臓</td> <td>第1四半期</td> <td>第2四半期</td> <td>第3四半期</td> <td>第4四半期</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>分科</td> <td>第1四半期</td> <td>第2四半期</td> <td>第3四半期</td> <td>第4四半期</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>清掃</td> <td>第1四半期</td> <td>第2四半期</td> <td>第3四半期</td> <td>第4四半期</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>警備</td> <td>第1四半期</td> <td>第2四半期</td> <td>第3四半期</td> <td>第4四半期</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>医事</td> <td>第1四半期</td> <td>第2四半期</td> <td>第3四半期</td> <td>第4四半期</td> <td>可</td> </tr> </tbody> </table>	業務名(区画)	複数年化		一括化		削減率(%)	実績	計画	実績	計画	消防(3病院)	126~25	定額	金額の低減	6,700	▲5.800	庭園管理(2病院)	126~25	定額	金額の低減	11,000	▲3,000	器具類(3病院)	126~25	単価	前年度水準の維持	76,658	—	医療機器保守(3病院)	126	定額	前年度水準の維持	115,000	—	区分	契約		単価		削減率	可(延長)	可(延長)	可(延長)	可(延長)	給食	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	可	心臓	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	可	分科	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	可	清掃	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	可	警備	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	可	医事	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	可	<p>(実績に対する評価)</p> <p>複数病院で集約化した委託等の契約は21件、うち複数年化を行ったものは19件となり、一括化・複数年化による費用削減及び事務の集約につながっている。</p> <p>(課題)</p> <p>複数年化、一本化・一括化を行った契約の更新に際し、効果水準の維持を図ると共に、更なる改善に向けた検討を行う。</p>	
業務名(区画)	複数年化		一括化			削減率(%)																																																																																
	実績	計画	実績	計画																																																																																		
消防(3病院)	126~25	定額	金額の低減	6,700	▲5.800																																																																																	
庭園管理(2病院)	126~25	定額	金額の低減	11,000	▲3,000																																																																																	
器具類(3病院)	126~25	単価	前年度水準の維持	76,658	—																																																																																	
医療機器保守(3病院)	126	定額	前年度水準の維持	115,000	—																																																																																	
区分	契約		単価		削減率																																																																																	
	可(延長)	可(延長)	可(延長)	可(延長)																																																																																		
給食	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	可																																																																																	
心臓	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	可																																																																																	
分科	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	可																																																																																	
清掃	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	可																																																																																	
警備	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	可																																																																																	
医事	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	可																																																																																	

中期計画 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		備考																													
				自己評価	説明																														
第2 効率的な業務運営の実現	II 2 効率的な業務運営の実現 ・ 効率的な業務運営の実現 ・ 柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用 ・ 看護師修学資金貸与制度の運用による看護師の安定確保 ・ 計画的な職員採用 ・ 柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用 ・ 看護師修学資金貸与制度の運用による看護師の安定確保 ・ 診療報酬など収入の適正な確保 ・ 多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト削減 ・ 経営情報を把握及び適時適切な措置を講じられる体制整備 ・ 経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上	107	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の理事会や病院運営会議において、経営状況を報告・分析するとともに、それらの経営状況の職員への周知を図る。 ・ より効率的で安定的な経営を維持するため原価計算への取組を推進する。 ・ 機構の直近の経営状況を職員(特に病院の幹部職員、床からの新しい派遣職員や新規採用職員)に認識させるため、会議や研修、広報紙等を通じて周知徹底する。 ・ 第1期5年間の経営実績を総括及び集約化して、統計資料として活用できるようにデータベース化する。 	<p>・ 理事会や運営会議において、四半期毎の経営状況を分析し、報告を行った。</p> <p>・ 理事会における審議・報告事項や経営状況を3病院合同幹部会議において各病院の幹部職員に毎月報告し、周知を図った。</p> <p>・ 新規採用職員研修などにおいて、病院経営や効率的な業務運営に関する取組等の科目を設け、意識の醸成を図った。</p> <p>・ 院内コミュニケーションシステムを通じて、理事會資料等の経営情報を全職員に向け提供した。</p> <p>・ 職員報(トライアングル)においても、病院の経営状況を盛り込み、意識醸成を図った。</p>	<p>(実績に対する評価) 会議や職員報を通して、経営分析を職員に周知することにより、職員の経営に対する意識が図られた。</p> <p>(課題) 職員への情報伝達手段として、院内コミュニケーションシステム等を活用しているが、医療職の職員が閲覧したり、全ての資料が、医療職の職員が閲覧しているため、職員へのさらなる周知徹底に努める。</p>	A																													
		108	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロパー職員の計画的な確保により、事務部門の業務に関する専門性・継続性を高める。 ・ 事務職員の機軸外研修を実施する。 ・ 新規採用者や新規管理者等に向けた各種研修を実施する。 	<p>採用内定者研修、事務職員基礎研修(新規採用職員)、会計研修等を実施し、業務関連知識を高めている。</p> <p>事務職員に対する研修状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>受講時期</th> <th>研修名</th> <th>開催状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新採年度</td> <td>事務職員基礎研修</td> <td>4月中旬</td> </tr> <tr> <td>係長級昇任時</td> <td>新規採用職員研修</td> <td>6月</td> </tr> <tr> <td>セブソン長承認時</td> <td>新規採用職員研修</td> <td>5月</td> </tr> <tr> <td>管理者(毎年度)</td> <td>新任監督者研修</td> <td>8月</td> </tr> <tr> <td></td> <td>管理者研修</td> <td>9月</td> </tr> <tr> <td></td> <td>コーチング研修</td> <td>9月</td> </tr> <tr> <td>希望により任意参加</td> <td>コミュニケーション研修</td> <td>7月</td> </tr> <tr> <td></td> <td>アプレントゥーショ研修</td> <td>10月</td> </tr> <tr> <td></td> <td>メンタルサポート研修</td> <td>1月</td> </tr> </tbody> </table>	受講時期			研修名	開催状況	新採年度	事務職員基礎研修	4月中旬	係長級昇任時	新規採用職員研修	6月	セブソン長承認時	新規採用職員研修	5月	管理者(毎年度)	新任監督者研修	8月		管理者研修	9月		コーチング研修	9月	希望により任意参加	コミュニケーション研修	7月		アプレントゥーショ研修	10月		メンタルサポート研修
受講時期	研修名	開催状況																																	
新採年度	事務職員基礎研修	4月中旬																																	
係長級昇任時	新規採用職員研修	6月																																	
セブソン長承認時	新規採用職員研修	5月																																	
管理者(毎年度)	新任監督者研修	8月																																	
	管理者研修	9月																																	
	コーチング研修	9月																																	
希望により任意参加	コミュニケーション研修	7月																																	
	アプレントゥーショ研修	10月																																	
	メンタルサポート研修	1月																																	
第2 3 事務部門の専門性の向上	II 3 事務部門の専門性の向上 ・ 事務職員の計画的なプロパー化 ・ 異動方針の弾力的運用及び各部署におけるOJT (on-the-job training) をはじめとする人材の育成 ・ 研修の推進 ・ 診療情報管理機能の強化	109	<p>診療情報管理機能の強化を図るため、診療情報管理業務に専門的に携わる職員を配置する。</p>	<p>診療情報管理士資格の取得支援制度を設け、資格者の増員をはかっている。</p> <p>診療情報管理士取得者6人、専門課程終了者10人 H26専門課程終了予定者3人</p>	<p>(実績に対する評価) 現在診療情報管理士の資格取得者は3名のみ。そのうち関連した業務についている者は1人。</p> <p>(課題) 職員へ新規受講を促す。専門課程終了者12人への働きかけ(取得率向上)。資格取得者の活用方法。</p>	A																													
第2 110	事務部門の業務マニユアルの作成等、業務の標準化や効率化のための取組を継続する。	110	<p>業務の標準化、事務職員の円滑なプロパー化に資するため、事務部門の業務マニユアル整備・活用に向けた取り組みを実施している。</p> <p>・ 院内コミュニケーションシステム上に集約したマニユアルを公開し、共有化している。</p> <p>・ 特に申請・届出・請求等の業務は、作業漏れ防止の観点から3病院の内容をすり合わせにより項目標準化について取り組みを開始した。</p>	<p>(実績に対する評価) 作成されたマニユアルを公開していること、マニユアルの共有化をすることができている。また、標準化への取り組みを開始している。</p> <p>(課題) マニユアルを継続して管理していくため、内容の充実を図っていく必要がある。</p>	A																														

中期計画 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	自己評価		備考																																				
						説明																																					
第2 4 業務改善に 不断に取り 組む組織風 土の醸成	II 4 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成 ・業務の改善改革の取組等を通じた 職員の意識向上及び病院運営の活性化	111	院内コミュニケーションシステムを活用するなどして、職員が経営・業務改善を常時提案できる体制を整備する。	<p>・法人化後構築した「改革・改善推進制度」を、26年度から「改善運動推進制度」と名称を改め、引き続き職員が改革改善に進んで取り組めるよう促した。</p> <p>・院内コミュニケーションシステムを利用して、誰もが積極的に参加でき、また他職員の改善提案を確認できるよう仕組みを整備した。</p> <p>改善運動推進制度実績件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>前年増減率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>60</td> <td>33</td> <td>39</td> <td>49</td> <td>126%</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>19</td> <td>37</td> <td>30</td> <td>12</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>35</td> <td>32</td> <td>46</td> <td>54</td> <td>117%</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>19</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>133</td> <td>116</td> <td>130</td> <td>127</td> <td>98%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H23	H24	H25	H26	前年増減率	総合	60	33	39	49	126%	こども	19	37	30	12	40%	こども	35	32	46	54	117%	本部	19	14	15	12	80%	計	133	116	130	127	98%	A	<p>(実績に対する評価) 職員からの改善成果について、昨年度と比較して総合病院及びこども病院は増加しているが、全体としては減少しており、取り組みを強化していく必要がある。</p> <p>(課題) より多くの職員が、自ら改善へ取り組みよう促すとともに、機構内において汎用性がある、より良い提案に対しては、機構内への徹底を図る仕組みを検討する。</p>	
区分	H23	H24	H25	H26	前年増減率																																						
総合	60	33	39	49	126%																																						
こども	19	37	30	12	40%																																						
こども	35	32	46	54	117%																																						
本部	19	14	15	12	80%																																						
計	133	116	130	127	98%																																						

(参考) 用語解説

用語 (50音順)	解 説
A C T	A C Tとは、Assertive Community Treatment(包括型地域生活支援プログラム)の略で、重い精神障害を持つ人たちに対して、住み慣れた地域で支援する、集中型・包括型ケースマネジメントプログラム。
C C U	C C Uとは、Coronary Care Unitの略で、冠疾患集中治療室と呼ばれ、主に心筋梗塞などの冠状動脈疾患の急性危機状態の患者を収容し、専門の医師・看護師により、厳重な監視モニター下で持続的・集中的に管理・治療する部門。 ※こども病院では、C C UをCardiac(心臓病の) I C Uと位置付けている。
D M A T	D M A Tとは、Disaster Medical Assistant Teamの略で、災害の発生直後(48時間以内)に被災現場へ駆けつけ、救出・救助部門と合同して活動できるトレーニングを受け、機動性を持った災害派遣医療チーム(D M A T:ディーマツト)。
D P C	D P Cとは、Diagnosis Procedure Combinationの略で、診断群分類のこと。これに基づく診断群分類包括評価(しんだんぐんぶんるいほうかつひょうか)により、日本の急性期入院医療費の定額支払い制度が平成18年から(試行は平成15年から)運用されている。(総合:H20.7導入、こども:H21.7導入)
E S C O	E S C Oとは、Energy Service Companyの略で、1970年代アメリカで始まり、1990年代後半に日本に導入された省エネ化を目指す事業で、省エネルギーに関わる一連の業務を一括して請け負うことや、計画した省エネ効果が出なかった場合、省エネ相当分を顧客に補償する義務を負うことなどが特徴。
H C U	H C Uとは、High Care Unitの略で、集中治療室に準ずる機能を持つ高度な治療室。看護配置数は集中治療室の1/2であるが、一般の病棟よりはるかに多いため両者の中間に位置する病室。集中治療室から一般病棟への転室は落差が大き過ぎ、移行が難しいため、一般病棟への移行を円滑に行うために設置される。手術後の患者や集中治療を脱した重症患者の経過観察を受け持つことが多い。
I C U	I C Uとは、Intensive Care Unitの略で、集中治療室と呼ばれ、内科系・外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性機能不全の患者を収容し、強力かつ集中的に治療看護を行う部門。
m-E C T	m-E C Tとは、修正型電気けいれん療法で麻酔科医による全身麻酔の下、筋弛緩剤の投与により体幹のけいれんを起こさせないもので、うつ病、躁うつ病、統合失調症などの治療に用いられており、従来の有けいれん療法に比べ、安全で有効な治療法とされている。
M F I C U	M F I C Uとは、Maternal Fetal Intensive Care Unitの略で、重い妊娠中毒症、前置胎盤、合併症妊娠、切迫早産や胎児異常など、ハイリスク出産の危険度が高い母体・胎児に対応するための設備と医療スタッフを備えた集中治療室
M S W	M S Wとは、Medical Social Workerの略で、疾病を有する患者が、病気になることで生じる生活上の様々な困難に対して、自立した生活を送ることができるように、社会福祉の立場から、患者の生活全体を支援していく専門家のこと。
N I C U	N I C Uとは、Neonatal Intensive Care Unitの略で、未熟児をはじめとするハイリスク新生児は専門的な医療機関で集中治療・管理する必要がある、このような医療を展開する場所全体を一般的に広義の新生児集中治療室と呼んでいる。
P C I	血管に刺入する管(カテーテルという)を用いて冠動脈疾患に様々な治療を行うことを総称して(経皮的)冠動脈インターベンション(PCI)と呼ぶ。 風船療法(カテーテルの先端の風船(バルーン)で狭窄した冠動脈を拡げる)や経皮的冠動脈ステント留置術(拡げた冠動脈にステントという金属のコイルを内側に張り付けて血管を支え再狭窄を防ぐ)やD C A(カッターで狭窄病変部位を削り取り拡げる治療法)やローターブレードというドリルのような先端を回転させて病変を削り取るなどの治療法がある。

用語（50音順）	解 説
P E T	<p>P E Tとは、Positron Emission Tomography（ポジトロン・エミッション・トモグラフィ）の略で、PET検査とは、陽電子（ポジトロン）を放出する放射性核種（ポジトロン核種）で標識した薬剤を静脈から注射して、細胞の活動状態を画像化する診断技術である。</p> <p>がん等の診断、治療効果・治療後の経過観察に有用な最先端の検査法で、同様にがんの早期発見にも有用である。</p>
P I C U	<p>P I C Uとは、Pediatric Intensive Care Unitの略で、小児集中治療室と呼ばれ、専属の専門医が配置され独立病棟として24時間小児重症患者を受け入れている。</p>
P S W	<p>P S Wとは、Psychiatric Social Workerの略で、精神保健福祉士と言い、社会福祉学を学問的基盤として、精神障害者の抱える生活問題や社会的問題の解決のための援助や、社会参加に向けての支援活動を通じて、患者を支援していく専門家のこと。</p>
S P D	<p>S P Dとは、Supply Processing Distributionの略で、物品・物流の包括的管理業務のことを指す。物品の発注、検収、入庫、払出、搬送、格納、出庫、在庫確認、棚卸を一元管理すること。</p>
葵カード	<p>連携安心カードともいい、病院から診療所に紹介する際に、病状悪化等で入院が必要になった場合に、葵カードを提示すれば県立総合病院が必ず対応するので安心してください、という意味で患者に渡すカードのこと。静岡市では、医師会と各病院が、病院の医師と診療所の医師の両方が役割分担して連携して患者を診る仕組みを運用している。</p>
医療観察制度	<p>心神喪失又は心神耗弱の状態で大変な他害行為を行った人を対象として、国の責任による手厚い専門的な医療と、退院後の継続的な医療を確保するための仕組み等によって、その円滑な社会復帰を促進することを目的とした制度であり、こころの医療センターにおいては、平成21年3月24日付で指定入院医療機関指定書（東海北陸厚生局長指定、第0004号）により指定入院医療機関として指定された。</p>
医療秘書（医師事務作業補助者）	<p>クラークとも言われ、病院勤務医の負担軽減を図るため、医師の事務作業を補助する職員のこと。</p> <p>医師の指示の下、診断書の文章作成補助、診療記録への代行入力、医療の質の向上に資する事務作業（診療に関するデータ整理、院内がん登録等の統計・調査、医師の教育や臨床研修のカンファレンスのための準備作業等）並びに行政上の業務（救急医療情報システムへの入力等）への対応を行う。</p>
看護師修学資金制度	<p>当機構への就職を希望する看護学生に対して、資質の向上に資することを目的に修学資金（月5万円又は10万円）を貸与する制度のこと。なお、当機構に看護師として就職した期間に相当する額の返還が免除される。</p> <p>また、既に静岡県外の病院等から貸与を受けている同種の修学資金に対して、借り換えをするための資金（返還資金）を貸与するメニューも用意している。</p>
緩和ケア	<p>主に治癒を目的とする治療ではなく、全人的なケアで、痛み、その他の症状コントロール、心理面、社会面、精神面のケアを行うもの。</p>
がんセンターボード	<p>がんの症例について、手術・化学療法・放射線治療・緩和医療、画像診断、病理診断等、院内のがん診療・診断に携わる医師をはじめ、看護師、薬剤師等関連する専門職が、診療科や職種の垣根を越えて一堂に集まって、さらに連携する地域の医療者（医師会の医師、看護師、薬剤師、訪問看護師、介護関係職等）にも参加してもらい、それぞれの専門的な知識・技能を集約して、がん患者の症状・状態や治療法・治療方針等の情報を共有して意見交換し、最適な治療方針を協議・決定する場のことを言う。</p>

用語（50音順）	解 説
クリニカルパス	<p>クリニカルパスとは、ある病気の治療や検査に対して、標準化された患者様のスケジュールを表にまとめたもので、1つの治療や検査ごとに1つずつ作られている。</p> <p>クリニカルパスには、病院用、患者様用と2つ準備されており、患者用クリニカルパスには、「入院診療計画書」として、患者が入院してからの食事や処置、検査・治療、そのための準備、退院後の説明等が日ごとに詳しく説明されている。</p>
クロザピン	<p>クロザピンは抗精神病薬で、H21.4月に製造承認され、7月より発売開始となった。クロザピンの使用にあたっては、高い治療効果の反面、重篤な副作用（白血球の減少）が報告されていることから、安全管理体制の整備が義務付けられている。</p>
コーディング	<p>疾病や手術、検査などをコード化する仕事。</p> <p>最近、病院では診療情報を活用するために、あるいはDPCやがん登録などの国の制度の義務付けにより、標準化されたコードへのコーディングとそのシステムへの登録が必要となり、そのためコーディングする人の需要が、増えている。正しいコーディングのためには、コード体系の知識とともに医学知識やカルテを読み解く能力が要求される。</p> <p>疾病のコーディング：膝の関節炎⇒M13.96（Mは骨・筋肉などを示す。13は関節炎を示す。9は詳細不明を示す。6は膝を示す）</p>
コメディカル	<p>薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・歯科衛生士・理学療法士・作業療法士などの、医師・看護師以外の医療従事者の総称のこと。</p>
ジェネリック医薬品（後発医薬品）	<p>特許権が消滅した医薬品について、特許権者ではなかった医薬品製造メーカーがその特許権の内容を利用して製造した医薬品のこと。</p>
紹介率・逆紹介率	<p>・紹介率とは、初診患者のうち、他の医療機関から紹介状により紹介された患者の数が占める割合のことである。</p> $\text{紹介率} = (\text{初診患者のうち紹介患者数}) \div \text{初診患者数} \times 100$ <p>・逆紹介率とは、地域医療支援病院の全患者のうちから他の医療機関に紹介した者で、診療情報提供料を算定したもの数（同一人に複数回又は複数紹介先算定の場合あり）と、初診患者の総数との比較のことである。</p> $\text{逆紹介率} = \text{逆紹介患者数} \div \text{初診患者数} \times 100$
初期臨床研修医 後期臨床研修医	<p>免許取得の後に、臨床研修の名で上級医の指導の下に臨床経験を積む卒業後教育が制度化された。病院独自に「前期・後期研修医」の名称を使用することがあるが、研修医（広義、1-5年目程度）＝研修医（狭義、＝前期研修医、1-2年目）＋後期研修医（3-5年目程度）としていることが一般的である。</p> <p>一般に「研修医」の語を使う場合、「前期研修医」を指す。後期研修医とほぼ同義の語として、専修医、修練医、などがあるが、各々の病院独自のものである。</p>
心理教育・家族教室	<p>心理教育とは、精神障害やエイズなど受容しにくい問題を持つ人たちに、病気に関する必要な基礎知識を提供するとともに、療養生活を営む自信と地域で暮らしていく力を身につけ、医療機関で提供される各種リハビリテーションプログラムや、地域の援助プログラムを主体的に利用することを促すことによって、医療機関における治療や援助から、精神障害者を日常的に支える地域リハビリテーションへの連続的な移行を目指して行う支援法のこと。</p> <p>患者の家族だけを対象に行う支援を家族教室と言う。</p>
心理・社会的治療	<p>精神科における薬物療法と電気けいれん療法以外の心理療法的プログラムの総称で、多職種チーム医療が原則である。</p> <p>デイケア、作業療法、認知行動療法、心理教育・家族教室、ACTなどの各種治療法を含む。</p>

用語（50音順）	解 説
診療情報管理士	<p>診療情報管理士とは、四病院団体協議会（日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会）および医療研修推進財団が資格付与する民間資格のこと。</p> <p>主な業務内容として、診療録の物理的な管理や内容の精査を行う「物の管理」、診療情報をコーディングするなどしてデータベースを構築する「情報の管理」、構築されたデータベースから必要な情報を抽出・加工・分析する「情報の活用」がある。</p>
ダ・ヴィンチ	<p>3D画像を確認しながら、離れた場所からロボットアームを操作して内視鏡下手術を行うもので、皮膚切開を最小限にすることで、患者の負担をできるだけ抑えることが可能（術中の出血量が少ない、術後の疼痛が少ない）。</p>
地域医療支援病院	<p>1997年（平成9年）4月の医療法の第3次改正で制度化された医療機関の機能別区分のひとつ。</p> <p>目的としては、地域の病院、診療所などを後方支援するという形で医療機関の役割分担と連携を目的に創設された。都道府県知事によって承認される。</p> <p>（承認要件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院の規模は原則として病床数が200床以上の病院であること。 ・紹介率及び逆紹介率が基準を満たしていること。 ・他の医療機関に対して高額な医療機器や病床を提供し共同利用すること。 ・地域の医療従事者の向上のための生涯教育等の研修を実施していること。 ・救急医療を提供する能力を有すること。
地域連携クリニカルパス	<p>病院の医師と診療所の医師、疾患によってはリハビリ施設など地域の医療提供施設が役割分担して連携して患者を診る仕組みの中で、疾患別に、以降の診療予定をスケジュール表の形式で表わしたもの。患者は診療所にいつ受診し、病院にいつ受診し、あるいはリハビリ施設にいつ受診し、どういう治療を受けるのかが分かり、医療施設は患者の診療の進捗管理をし、施設間で情報を共有するために使われる。診療報酬点数表上では、疾患が限られているが、「地域連携計画書」といい、計画管理料や退院時指導料等が算定できる。</p>
ドクターカー	<p>平成20年4月25日に道路交通法施行令の一部が改正され緊急自動車の指定対象に追加された乗用車型のドクターカー（患者搬送のための特別な構造又は装置を有しない医師派遣用自動車）。静岡市消防局の要請により「ドクターカー」に当院の救命救急センターのスタッフが搭乗し、災害や事故の現場に急行したり、搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始する。</p>
認知行動療法	<p>認知行動療法とは、人間の気分や行動が認知のあり方（ものの考え方や受け取り方）の影響を受けることから認知の偏りを修正し、問題解決を手助けすることによって精神疾患を治療することを目的とした精神療法であり、2010年から、一部保険点数化がされた。</p>
認定看護師	<p>認定看護師とは、日本看護協会及び日本精神科看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することを認められた者をいい、水準の高い看護実践を通して看護師に対する指導・相談活動を行う者をいう。</p>
ハイブリッド手術室	<p>据置型血管撮影装置（アンギオ）を設置した手術室であり、カテーテル血管内治療と外科的手術の双方に対応が可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併症などの緊急時の対応が可能。（カテーテル治療から外科的手術への移行） ・手術のみでは到達困難な部位に対する治療が可能。 ・カテーテルのみでは治療できない緊急時の病変に対しても外科的手術を同時に行うことで対応が可能。 ・鮮明な透視画像により治療精度が向上
レジデント	<p>初期臨床研修医はジュニアレジデント、初期レジデント、スーパーローテーターなどと呼ばれ、それ以降に専門科での研修を行うものを単にレジデントと呼んだり、後期研修医、後期レジデント、シニアレジデント、専攻医などと呼ばれている。</p>